別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ｲｸﾄｸｶﾞｸｴﾝ 学校法人　幾徳学園							
フリガナ 大学の名称		ｶﾅｶﾞﾜｺｳｶﾀﾞｲｶﾞｸ 神奈川工科大学							
大学本部の位置		神奈川県厚木市下荻野１０３０							
大学の目的		本学では、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		情報システム学科では、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させることを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	情報学部 情報システム学科 Faculty of Information Department of Information System 計	年 4	人 80	年次 人 －	人 320	学士 （工学） ［Bachelor of Engineering］	令和6年4月 第 1 年次	神奈川県厚木市 下荻野1030	
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		工学部 応用化学科(廃止)　（△60） ※令和6年4月学生募集停止 創造工学部(廃止) 自動車システム開発工学科　（△55） ロボット・メカトロニクス学科　（△50） ホームエレクトロニクス開発学科　（△40） ※令和6年4月学生募集停止 応用バイオ科学部(廃止) 応用バイオ科学科　（△125） ※令和6年4月学生募集停止 工学部 機械工学科［定員増］（55） 電気電子情報工学科［定員増］（50） 工学部 応用化学生物学科（145）（令和5年4月届出予定）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報学部 情報システム学科	92科目	13科目	14科目	119科目		124単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	情報学部　情報システム学科	6 人 (6)	2 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	8 人 (8)	0 人 (0)	92 人 (32)	令和5年4月届出予定
		工学部　応用化学生物学科	11 (11)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	106 (35)	
		計	17 (17)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	— (—)	
	既設分	工学部　機械工学科	7 (10)	4 (5)	0 (0)	4 (6)	15 (21)	0 (1)	92 (92)	
		工学部　電気電子情報工学科	11 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	70 (70)	
		情報学部　情報工学科	12 (16)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	15 (19)	0 (1)	65 (65)	
		情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科	7 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	12 (14)	0 (0)	69 (69)	
		情報学部　情報メディア学科	7 (9)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (15)	0 (0)	87 (87)	
		健康医療科学部　看護学科	7 (7)	1 (1)	9 (9)	1 (1)	18 (18)	6 (6)	83 (83)	
		健康医療科学部　管理栄養学科	4 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (11)	5 (5)	77 (77)	
		健康医療科学部　臨床工学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	94 (94)	
		基礎・教養教育センター	9 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	0 (70)	
		教職教育センター	2 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	0 (0)	0 (17)	
		情報教育研究センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (2)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	
		研究推進機構	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	
		教育開発センター	1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	
		計	75 (91)	34 (35)	38 (38)	11 (14)	158 (178)	12 (14)	— (—)	
	合計		92 (108)	43 (44)	41 (41)	11 (14)	187 (207)	12 (14)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	39 人 (39)	40 人 (40)	79 人 (79)
	技術職員	0 (0)	10 (10)	10 (10)
	図書館専門職員	1 (1)	13 (13)	14 (14)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	40 (40)	63 (63)	103 (103)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	88,546.13㎡	0 ㎡	0 ㎡	88,546.13㎡	
	運動場用地	38,015.93㎡	0 ㎡	0 ㎡	38,015.93㎡	
	小計	126,562.06㎡	0 ㎡	0 ㎡	126,562.06㎡	
	その他	7,941.69㎡	0 ㎡	0 ㎡	7,941.69㎡	
	合計	134,503.75㎡	0 ㎡	0 ㎡	134,503.75㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	99,533.35㎡ (97,558.35㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	99,533.35㎡ (97,558.35㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	68室	12室	71室	13室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 2人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	情報学部 情報システム学科	9 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で、図書186,244冊(内 外国書22,660冊)、視聴覚資料5,871点を所蔵。学術雑誌314種(内 外国雑誌2種)、電子ｼﾞｬｰﾅﾙ14種(3,711ﾀｲﾄﾙ収録)、教育研究用機器備品4,614点を整備している。
	情報学部 情報システム学科	7260〔885〕 (7260〔885〕)	16〔0〕 (16〔0〕)	7〔3〕 (7〔3〕)	126 (126)	224 (224)	ー (ー)	
	計	7260〔885〕 (7260〔885〕)	16〔0〕 (16〔0〕)	7〔3〕 (7〔3〕)	126 (126)	224 (224)	ー (ー)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	5,204.22㎡	663 席	232,000 冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	大学全体
	6,706.61㎡	野球場1面、サッカー場1面、テニスコート4面	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	届出学科全体
経費の見積り	教員１人当り研究費等		892千円	892千円	892千円	892千円	ー 千円	ー 千円	
	共同研究費等		108千円	108千円	108千円	108千円	ー 千円	ー 千円	
	図書購入費	393千円	393千円	393千円	393千円	393千円	ー 千円	ー 千円	
	設備購入費	9,321千円	9,321千円	9,321千円	9,321千円	9,321千円	ー 千円	ー 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,570千円	1,590千円	1,610千円	1,630千円	ー 千円	ー 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

	大学の名称	神奈川工科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	工学部				1032		0.99		神奈川県厚木市下荻野1030番地	
	機械工学科	4	120	－	480	学士（工学）	0.98	昭和50年度		
	電気電子情報工学科	4	78	－	312	学士（工学）	1.16	昭和50年度		
	応用化学科	4	60	－	240	学士（工学）	0.77	昭和50年度		
	情報学部				1760		1.11			令和4年4月入学定員変更（420名→460名）
	情報工学科	4	170	－	650	学士（工学）	1.08	平成15年度		令和4年4月入学定員変更（155名→170名）
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	4	110	－	420	学士（工学）	1.22	平成16年度		令和4年4月入学定員変更（100名→110名）
	情報メディア学科	4	180	－	690	学士（工学）	1.08	平成16年度		令和4年4月入学定員変更（165名→180名）
	創造工学部				580		0.92			
	自動車システム開発工学科	4	55	－	220	学士（工学）	0.81	平成20年度		
	ロボット・メカトロニクス学科	4	50	－	200	学士（工学）	0.94	平成20年度		
	ホームエレクトロニクス学科	4	40	－	160	学士（工学）	1.05	平成20年度		
	応用バイオ科学部									
	応用バイオ科学科	4	125	－	500	学士（理工学）	0.70	平成20年度		
	健康医療科学部				720		0.88			令和2年4月学部名称変更（看護学部→健康医療科学部） 令和4年度入学定員変更（200名→160名）
	看護学科	4	80	－	320	学士（看護学）	0.93	令和2年度		
	管理栄養科学科	4	40	－	240	学士（栄養学）	0.78	令和2年度		令和2年3月31日応用ﾊﾞｲｵ科学部栄養生命学科廃止 令和2年健康医療科学部管理栄養学科を設置 令和4年4月入学定員変更（80名→40名）
	臨床工学科	4	40	－	160	学士（工学）	0.91	令和2年度		令和2年3月31日工学部臨床工学科廃止 令和2年度健康医療科学部臨床工学科を設置
	工学研究科博士前期課程				168		0.77			
	機械工学専攻	2	14	－	28	修士（工学）	0.21	平成元年度		
	電気電子工学専攻	2	16	－	32	修士（工学）	1.28	平成元年度		
	応用化学・バイオサイエンス専攻	2	16	－	32	修士（工学）	0.68	平成元年度		
	機械システム工学専攻	2	14	－	28	修士（工学）	0.57	平成2年度		
	情報工学専攻	2	18	－	36	修士（工学）	1.05	平成5年度		
	ロボット・メカトロニクスシステム専攻	2	6	－	12	修士（工学）	0.66	平成22年度		
	工学研究科博士後期課程				30		0.36			
	機械工学専攻	3	2	－	6	博士（工学）	0.16	平成5年度		
	電気電子工学専攻	3	2	－	6	博士（工学）	0.16	平成6年度		
	応用化学・バイオサイエンス専攻	3	2	－	6	博士（工学）	0.33	平成5年度		
	機械システム工学専攻	3	2	－	6	博士（工学）	0.33	平成5年度		
	情報工学専攻	3	2	－	6	博士（工学）	0.83	平成8年度		

附属施設の概要	①名称：情報教育研究センター 目的：教育、研究、大学運営等の利用に供するとともに、コンピュータおよび ネットワークの関連分野並びに情報教育に関する学術研究およびその実践。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：昭和58年3月 規模等：総面積1,748㎡ ②名称：研究推進機構 目的：研究、教育活動の支援および先端学術の研究により技術の発展と社会の 福祉に寄与。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：平成8年4月 規模等：総面積2,996㎡ 大型設備装置等（ナノテクノロジー用クリーンルーム等） 実験実習室（化学・物理、工作工場等）	

学校法人　幾徳学園　設置認可等に関わる組織の移行表

2022年度	入学定員	編入学定員	収容定員		2024年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
神奈川工科大学					神奈川工科大学				
工学部					工学部				
機械工学科	120	－	480		機械工学科	175	－	700	定員変更(55)
電気電子情報工学科	78	－	312		電気電子情報工学科	128	－	512	定員変更(50)
応用化学科	60	－	240		応用化学科	0	－	0	2024年4月学生募集停止
					応用化学生物学科	145	－	580	学科設置(届出)
情報学部					情報学部				
情報工学科	170	－	680		情報工学科	170	－	680	
情報ネットワーク・コミュニケーション学科	110	－	440		情報ネットワーク・コミュニケーション学科	110	－	440	
情報メディア学科	180	－	720		情報メディア学科	180	－	720	
					情報システム学科	80	－	320	学科設置(届出)
創造工学部					創造工学部				
自動車システム開発工学科	55	－	220		自動車システム開発工学科	0	－	0	2024年4月学生募集停止
ロボット・メカトロニクス学科	50	－	200		ロボット・メカトロニクス学科	0	－	0	2024年4月学生募集停止
ホームエレクトロニクス開発学科	40	－	160		ホームエレクトロニクス開発学科	0	－	0	2024年4月学生募集停止
応用バイオ科学部					応用バイオ科学部				
応用バイオ科学科	125	－	500		応用バイオ科学科	0	－	0	2024年4月学生募集停止
健康医療科学部				⇒	健康医療科学部				
看護学科	80	－	320		看護学科	80	－	320	
管理栄養学科	40	－	160		管理栄養学科	40	－	160	
臨床工学科	40	－	160		臨床工学科	40	－	160	
計	1,148	－	4,592		計	1,148	－	4,592	
神奈川工科大学大学院					神奈川工科大学大学院				
工学研究科　博士前期課程					工学研究科　博士前期課程				
機械工学専攻	14	－	28		機械工学専攻	14	－	28	
電気電子工学専攻	16	－	32		電気電子工学専攻	16	－	32	
応用化学・バイオサイエンス専攻	16	－	32		応用化学・バイオサイエンス専攻	16	－	32	
機械システム工学専攻	14	－	28		機械システム工学専攻	14	－	28	
情報工学専攻	18	－	36		情報工学専攻	18	－	36	
ロボット・メカトロニクスシステム専攻	6	－	12		ロボット・メカトロニクスシステム専攻	6	－	12	
計	84		168		計	84		168	
工学研究科　博士後期課程					工学研究科　博士後期課程				
機械工学専攻	2	－	6		機械工学専攻	2	－	6	
電気電子工学専攻	2	－	6		電気電子工学専攻	2	－	6	
応用化学・バイオサイエンス専攻	2	－	6		応用化学・バイオサイエンス専攻	2	－	6	
機械システム工学専攻	2	－	6		機械システム工学専攻	2	－	6	
情報工学専攻	2	－	6		情報工学専攻	2	－	6	
計	10	－	30		計	10	－	30	

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 （廃止）	学士 （工学）	工学関係	情報学部情報システム学科	8	6	情報学部 情報システム学科	学士 （工学）	工学関係	創造工学部ロボット・メカトロニクス学科	8	6
			その他	1	1						
			計	9	7				計	8	6
			計						計		
			計						計		
			計								

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は 改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は 学　科　の　分　野	手続きの区分
平成15年4月	情報学部 設置	―	設置認可（学部）
平成15年4月	情報学部情報工学科 設置	工学	設置認可（学科）
平成16年4月	情報学部情報メディア学科 設置	工学	設置届出（学科）
平成16年4月	情報学部情報ネットワーク工学科 設置	工学	設置届出（学科）
平成20年4月	情報学部情報ネットワーク工学科→ 情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科	工学	名称変更（学科）
令和6年4月	情報学部情報システム学科 設置	工学	設置届出（学科）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通基盤教育	導入系	アカデミックICTスキル		1前	1			○								兼1	
		専門分野概論		1前	1			○			1						
		理工学入門		1前		1		○								兼6	
		スタディスキル		1前	2			○								兼2	
	倫理系	技術者倫理		3前・後	2			○								兼1	
	人文社会系	現代社会講座		1後	2			○								兼7	オムニバス
			a群	経済の科学		2前・後・3前	2		○								兼2	
				歴史の科学		2前・後・3前	2		○								兼2	
				社会の科学		2前・後・3前	2		○								兼2	
				文化の科学		2前・後・3前	2		○								兼2	
				グローバル化の科学		2前・後・3前	2		○								兼1	
				心の科学		2前・後・3前	2		○								兼3	
				日本国憲法		2前・後・3前	2		○								兼3	
				環境論		2前・後・3前	2		○								兼2	
				人文社会科学アクティブ演習		3前・後	2			○							兼4	
			b群	哲学		3前・後・4前	2		○								兼2	
				文学		3前・後・4前	2		○								兼2	
				心理学		3前・後・4前	2		○								兼3	
				倫理学		3前・後・4前	2		○								兼1	
				教育学		3前・後・4前	2		○								兼2	
			c群	政治学		3前・後・4前	2		○								兼2	
				経済学		3前・後・4前	2		○								兼2	
				法学		3前・後・4前	2		○								兼3	
				社会学		3前・後・4前	2		○								兼2	
				経営学		3前・後・4前	2		○								兼1	
	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ		1前		1		※		○						兼3	
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ		1後		1		※		○						兼2	
		身体活動・スポーツ論		2前		1		○								兼1	
		生涯スポーツ実習		2後		1				○						兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称			配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通基盤教育	言語系	英語基礎		英語Ⅰ	1前		1			○							兼2	
				英語Ⅱ	1前・後		1			○							兼3	
				英語Ⅲ	1前・後・2前		1			○							兼8	
				英語Ⅳ	1後・2前・後		1			○							兼6	
				英語Ⅴ	2前・後		1			○							兼7	
		言語応用	a群	科学技術英語Ⅰ	3前		1			○							兼1	
				科学技術英語Ⅱ	3後		1			○							兼1	
				英会話Ⅰ	1前・後		1			○							兼3	
				英会話Ⅱ	1後		1			○							兼3	
				総合英語演習	1前・後・2前		1			○							兼1	
				TOEIC Ⅰ	2後・3前・後		1			○							兼2	
				TOEIC Ⅱ	3前・後		1			○							兼2	
			b群	日本語表現技術	1後・2前		2		○								兼3	
				プレゼンテーション技術	2前・後		2		○								兼3	
				技術文章の書き方	3前・後		2		○								兼1	
	数理情報系	身の回りの数学			1～3	2			○								兼2	
		実感する科学			1前	2			○								兼2	
		情報･ＡＩリテラシー　（情報基礎）			1前	2			○			1					兼1	
		ＡＩとデータサイエンス（情報応用）			2前・後		2		○				1				兼10	オムニバス
	キャリア系	キャリア設計Ⅰ			1後	1			○								兼1	
		キャリア設計Ⅱ			2前	1			○								兼1	
		キャリア設計Ⅲ			3前	1			○								兼1	
		社会人に向けての準備講座			4前		1		○								兼1	
		企業特別講座			1～4		1		○								兼1	
		インターンシップⅠ			2～4		2				○						兼1	
		インターンシップⅡ			3～4		3				○						兼1	
		課題解決型インターンシップ			1～4		2				○						兼1	
		産学連携プロジェクト			3～4		2				○						兼1	
		小計（57科目）			－	17	74	0	－			2	1	0	0	0	兼71	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門基礎導入	情報技術基礎導入科目群	プログラミング入門A	1前	3			○	○							兼3	
		プログラミング入門B	1前	3			○	○							兼3	
		プログラミング入門C	1後	3			○	○							兼3	
		コンピュータシステム入門	1前	1			○								兼2	
		マルチメディア入門	1前	1			○								兼2	
		ソフトウェア入門	1前	1			○								兼2	
		ネットワーク入門	1前	1			○								兼2	
		アルゴリズム入門	1後	1			○								兼2	
		情報デザイン入門	1後	1			○								兼2	
		データベース入門	1後	1			○								兼2	
		情報セキュリティ入門	1後	1			○								兼2	
		AI/DS導入ユニット	2前	4			○		○	2					兼2	
専門基礎導入	情報数理系	線形代数学Ⅰ-a	1後		2		○								兼1	
		線形代数学Ⅰ-b	1後		2		○								兼1	
		線形代数学Ⅱ-a	2前		2		○								兼1	
		線形代数学Ⅱ-b	2前		2		○								兼1	
		微分積分学Ⅰ-c	2前		3		○	※							兼1	※演習
		微分積分学Ⅰ-d	2前		3		○	※							兼1	※演習
		微分積分学Ⅱ-c	2後		3		○	※							兼1	※演習
		微分積分学Ⅱ-d	2後		3		○	※							兼1	※演習
		離散数学	2後		2		○								兼1	
	情報社会系	情報法規と情報モラル	3前		2		○								兼1	
		情報社会のコミュニケーション	3前		2		○								兼1	
		情報社会と情報倫理	3前		2		○								兼1	
		情報と人間	3後		2		○								兼1	
		情報と知的財産権	3後		2		○								兼1	
専門基礎		情報システム概論	1前	2			○			6	2				兼1	オムニバス
		情報システムのための電気電子回路	1後		2		○			1						
		情報システムのための力学	1後		2		○			1						
		情報システム工学 Ⅰ	2前		2		○				1					
		IoTシステム	2前		2		○								兼1	
		情報通信技術	2前		2		○				1					
		シミュレーション設計技法 Ⅰ	2前		2		○			1						
		情報システム工学Ⅱ	2後		2		○			1						
		画像情報処理	2後		2		○			1						
		ビッグデータ解析	2後		2		○								兼1	
		シミュレーション設計技法　II	2後		2		○			1						
		情報システムと人間科学	2後		2		○			1						
	プログラムユニット	情報システムプログラミング基礎	1後	3			○	○			1				兼1	
		情報システム基礎ユニットⅠ	2前	3					○		1				兼3	
		情報システム基礎ユニットⅡ	2後	3					○		1				兼3	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門	情報システムセキュリティ		3前		2		○								兼1
	サイバー空間技術		3前		2		○								兼1
	ヒューマンコンピュータインタラクション		3前		2		○			1					
	組み込みアプリケーション入門		3前		2		○			1	1				
	組み込みシステム入門		3前		2		○			1	1				
	ロボットメカニズム		3前		2		○								兼1
	センシングシステム		3前		2		○			1					
	次世代通信技術		3後		2		○								兼1
	ヘルスケアシステム		3後		2		○			1	1				
	ロボットとAI		3後		2		○				1				
	組み込みアプリケーション開発		3後		2		○			1	1				
	組み込みシステム設計		3後		2		○			1	1				
	システム制御		3後		2		○								兼1
	情報システムの社会実装		3後		2		○								兼1
	ユニットプログラム	情報システム応用ユニット	3前	4					○	6	1				
		情報システム専門ユニット	3後	4					○	6	1				
	卒業研究関係	卒研セミナーⅠ	4前	1			○			6	2				
		卒業研究Ⅰ	4前	3					○	6	2				
		卒研セミナーⅡ	4後	1			○			6	2				
		卒業研究Ⅱ	4後	3					○	6	2				
	小計（62科目）		－	48	82	0	－			6	2	0	0	0	兼21
合計（119科目）			－	65	156	0	－			6	2	0	0	0	兼84

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通基盤科目：合計32単位 必修　16単位 選択　16単位 ・導入系　3単位 ・倫理系　2単位 ・人文社会系　2単位　a群・b群・ｃ群　各2単位 ・健康・スポーツ系　1単位 ・言語系　英語基礎　3単位　言語応用　a群・ｂ群　各2単位 ・数理情報系　6単位 ・キャリア系　5単位 専門教育科目：合計74単位 必修　48単位 選択　26単位 任意科目：18単位 卒業要件：4年以上在籍し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：年間44単位、かつ半期24単位）	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	導入系	アカデミックICTスキル	大学での高度なICT活用講義を受講する準備として，レポート，資料等の作成に必要なICTスキルを学習する。 具体的には電子メールを利用した各種情報のやり取り、セキュリティに関する心構え、文章作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPower Pointの操作法、オンライン教育Tool等を学びながら、これらを活用した学習ノートや実験報告書の作成、学習情報やデータの整理・集約および学習成果発表資料の作成を行う。	
		専門分野概論	工学系・情報系の専門分野を学ぶにあたり、その工学全般の基礎知識及び専門分野における基礎から応用までの知識と技術を身に付けるための学修の目標と学修の流れ、さらに所属する専門分野の発展的展開を理解して学修する科目である。授業では専門学科の教員による専門分野の概論を講義する。本科目により、専門分野の理解と学修目的及び到達目標を明確に理解するとともに、自らの学修目標を明確にし、卒業後の将来計画の展開も含めて将来像を描く動機付け教育である。	
		理工学入門	工学系及び情報系の学修を進めるにあたり、その基礎となる数学や物理の理数系の基礎学力がその後の授業展開に大きく影響する。大学入学以前の理数系教育の学修履歴は学生によって異なり、さらに近年の学生の多様化も進み、個々の学生間での理数系基礎学力の格差が大きい。そのため、1年次より通常の共通基盤科目と専門教育を進める前の期間に、数学・物理系の工学共通基礎教育を行う。個々の学生の入学時点での履修履歴をもとに履修者が決定され、入学直後に集中授業形式で学修を行って理数系の基礎学力の強化を行い、その後に続く1年次の授業が円滑に進むよう設定された科目である。	
		スタディスキル	本科目は1年生の導入科目として、高校の学習から大学への学びをスムーズに移行するための学習スキルを修得する科目である。この科目では、大学の学習システムや大学キャンパスでの生活を知り、大学生としての基本的な心構え・マナーを理解し、大学での学びに必要な日本語能力やコミュニケーション能力等を身に付け、また専門学習の基礎となる実験や工作の方法、レポートのまとめ方等も修得する。	
	倫理系	技術者倫理	科学技術の発達は、技術に起因する事故のリスクも大きくなり、また地球規模での環境問題、社会問題を生み出している。そのため、技術者としては単なる技術の開発や企業の利益を追求することだけではなくて、社会に対して技術や製品の安全性等を確保する大きな責務を自覚する必要がある。また技術分野における倫理問題を議論すると同時に専門家としての倫理問題の存在も重視すべきである。本講義では、専門分野における最近の事例を取り上げ、事故や問題発生の経緯、技術者および経営者の対応などの解析を通じて、技術の専門家として倫理的に考え、行動する姿勢を養い、倫理的問題の実践的な解決能力を身に付ける。また、技術者倫理と関連の深い企業倫理、製造物責任、知的財産権などの基礎知識を学習し、技術者の社会的な責任を自覚する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	人文社会系	現代社会講座	この授業は、人文社会系教養科目の基本的知識を体系的に理解するための入り口に当たる。7つのコア科目の概要を通じ、理系の学生が身につけるべき文系教養を体系的に把握する。 （オムニバス方式／全15回） （61．山本崇広／3回） 市場経済の基礎的条件を理解し、市場経済が引き起こす経済危機や格差の拡大について、経済思想の観点から考える。 （31．佐藤史緒／2回） 心理学では「こころ」をどのように捉えているのかを理解する。自分自身や周りの他者、日常生活を「心理学」の枠組みで捉え直す。 （59．多田庶弘／2回） 「決まり」とは――結婚に関する決まりから考える。実際の法の判断を考えてみよう――法判断は私たちの考えと離れたものなのか。 （10．三浦直子／2回） 空間軸や時間軸での比較を通じて、私たちの身体に及ぶ社会からの影響について理解を深める。 （60．中畑邦夫／2回） 「哲学的」であるとはどのようなことか？――世界と私と言葉と。 「哲学的」に考えてみよう――日常の中の非日常。 （58．山田陽／2回） 政治とは何かを捉える試みを参照しながら、政治学の目的や意味を探る。民主政治の基本的な制度や考え方を確認し、民主政治とは何か考える。 （11．師玉真理／2回） 文学とは何か、その対象となるものは何かを考える。作品の《読み》の在り方を批評的に捉える方法について考える。	オムニバス方式
	人文社会系ａ群	経済の科学	わたしたちは、日々の暮らしを維持したり、よりよい生活を営むために経済活動を行っている。働いて給与を得て財やサービスを消費する、あるいは将来のための資産を形成する、また会社に勤めることで生産にも携わる。日々の暮らしの多くがこうした経済活動に関わるものである。本講義では、わたしたちの身の回りの財やサービスの価格がどのように決まるのか、働くとはどういうことか、給料はどのように決まるのか、預貯金をするとはどういうことか、銀行はいかなる役割を果たしているかなどを学んでいく。また、経済成長やグローバル化など、マクロ的な経済動向がわたしたちの暮らしにどのような影響を及ぼしうるかについても考える。	
		歴史の科学	本講義は、歴史を学ぶ（考える・研究する）上での基礎的なルールを紹介し、歴史的な物の考え方を修得することを目指します。「流動的で不確定な社会」と言われる現代にあって、私たちは様々な困難に遭遇します。今（現在）をどのように捉え、その困難を解決して、どのような未来を描いて生きていけばよいのか、困惑することもしばしばでしょう。ここで大切なことは、私たちの生きる世界は、社会制度、行動様式、文化規範、いずれをとってみても過去にあった歴史的事象の積み重ねの上に築かれたものだということです。歴史を学び、歴史的な考え方を修得することは、そうした現在を捉え、解決を見出し、そして未来を生きていくための大切なツールとなるのです。 そこで本講義では、過去の物事を「いま」の「われわれ」に結びつく問題群として捉え直し、現在さらには未来を読み解く材料にします。これらを通じて、私たちが生きる世界を、より広く相対的な視点から俯瞰できるよう授業を進めていきます。	
		社会の科学	新聞・映画・ラジオ・テレビの登場は、不特定多数の人々に大量の情報を一方向的・同時的に伝達することで、社会意識に大きな影響を与えてきた。更に現代では、インターネットの普及により、興味・関心の異なる利用者が双方向的に情報伝達できる、巨大メディアへと成長しつつある。授業では、技術革新と社会的影響を中心に、マスメディアの歴史的変遷および今日のマスメディアの特徴と問題点について考察する。各自が日常的に接する多種多様な情報を取捨選択し読み解くためのメディアリテラシーを修得して欲しい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	人文社会系ａ群	文化の科学	私たちは、文化的な諸問題を考える際に、ともすると自分の所属する特定の文化からのみ捉えられた自文化中心のものの見方に陥ってしまいがちです。本授業では、そうした狭い文化観に陥らず、相対的に文化を捉え考えていく力を身に付けることを目的とします。 具体的には、ひろく文化的コンテンツや表象作品を素材として、その解読のための方法や方法論を概説しながら、表現行為の意味や創作にまつわる文化的意義について批評的に読み解き考えていきます。また、そうした批評的な読解から表現行為に孕まれる人間の想像力の在り方、更には創作・表現における世界認識の可能性についても考えていきたいと思います。	
		グローバル化の科学	グローバル化の進展とともに、文化、経済、政治など人間の諸活動は地理的境界を越えて拡大し、異なる文化を持つ人々との交流の機会も増えつつあります。本講義は、そうした状況にあって私達が、国際社会における日本に生きる一個人として、どのような知見と展望をもち、また、どのような意識と考えを身につけて生きていかなければならないのかを学ぶための授業です。 例えば私たちは、日本企業のアジア進出があたり前となった現在、アジアの労働力や技術力に期待が寄せられる一方で、政治的な対立も大きな問題として根強く存在する事実にも目を向ける必要があります。これからの日本を担うエンジニアにとって、諸外国とどのような関わりをもつべきかを考えることはとても大切です。そこで本講義では、近代から現代に至るまでの日本と諸外国の関係を確認しながら、グローバル化していく世界における日本のしかるべき在り方、さらにはそこに生きる日本人として自らの考えが身につけられるよう授業を進めていきます。	
		心の科学	この授業では、身近な心理学について講義する。多くの学生は「身近な心理学」と聞くと、例えば心理テストや性格診断などを連想するかもしれない。しかし、それらは心理学の展開・応用にすぎない。ここでは、展開・応用の根源にある人間理解を目指し、身の回りの出来事を心理学的に捉える方法を学ぶ。現代社会で誰もが出会う事柄を研究対象としているので、学生が修得・実践すれば日常生活を今まで以上に円滑に送れるようになるであろう。	
		日本国憲法	日本人ほど憲法をよく知り、崇拝する国民はいないといわれる。小学校の「公民科」・中学校の「公民科目」・高校の「現代社会や政経」・大学の「教養科目」として、４回も憲法は学ぶことになっているからだ。しかし、法学部の学生を含めて、憲法がその他の法律とは違って国民の人権を保護するための「公的機関を縛るルール」であることを知る人はほとんどいない。このため、憲法は何の役にも立たないお題目と化し、憲法学者より建設業者の方が政治に影響力がある現実になっている。憲法は他の法律（社会の秩序を維持したり、国民間の紛争を解決するための法）と違い、むしろ逆向きで、国民の人権を侵害しないよう公権力を見張る機能を持ち、「公権力ｖｓ.私人」という対立においてはじめて問題となる法律なのである。これまでの憲法論議に欠けていた、現実の人間の具体的な生き方、ないしは生活との関わりの中で、もう一度憲法をとらえ直してみることが必要だ。この講座は、お題目を唱え・暗記するのではなく、そのルールは何故つくられたのか、憲法を生活に活かすためにどうすればいいのか等を、自ら考え、実践できることが目的である。その結果、公正で論理的な憲法改正論議が出来ることが目標となる。	
		環境論	２０世紀後半に起きた公害・環境問題は、人間社会において自然環境が有限で限界であることを自覚させる契機となった。この意味で、際限なき拡大・成長を自明視してきた現代社会は、かつてない転換点にあるといえる。本講義では、この転換の意味を理解するために、現代日本を含め国際社会が直面しているいくつかの環境問題を取り上げて、環境破壊を生み出す社会構造のそのメカニズムについて考えていく。その上で、持続可能な社会を構想する現代の潮流を読み解いていきたい。受講者には環境問題を自然現象として理解するだけでなく、「社会」の問題として理解できるようになってもらいたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	人文社会系ａ群	人文社会科学アクティブ演習	この授業では、グループディスカッションを通じて、様々な時事問題・社会的な課題について考察を深めていく。私たちは社会と向き合うにあたって、文献調査やフィールドワーク等によって集めた資料・データを踏まえて、偏りのない広い視野で諸問題に対峙し、他者の意見を理解・包摂した上で思考し、判断・解決する力を身につけなければならない。本演習は、そうした意識や自覚、思考力、コミュニケーション能力、判断力そして表現力を身につけることを目標とする。また、グループワークの経験を通じて他者・異文化と出会い、SDGsの各課題や、社会貢献、地域活性化、歴史、環境、動向と展望等といったキーワードをテーマに企画立案を行い、プレゼンテーションのかたちで発表する。	
	人文社会系ｂ群	哲学	本講義では、哲学者たちが古代から議論し、考え続けてきたさまざまな概念を取り上げます。これらの概念は、私たちがさまざまな物事を考えるときの手がかりとなるだけでなく、それ自体がさらに考えなければならない問題を形づくっています。哲学が扱うこれらの問題は、たとえ深遠で難しいものに見えたとしても、どれもわれわれの日常に大きく関わるものです。というのも、抽象的な言葉で書かれているとはいえ、哲学者たちの思索はどれも彼らが生きた社会や時代との格闘から生まれたものだからです。哲学史上のさまざまな考え方を知り、概念を学ぶことによって、私たちの考え方そのものを捉え返し、さらに、自ら考えるための力を身に付けることが本講義の目標です。	
		文学	文学作品のみならず《ことば》によって書かれた作品には“読む”という行為がつきまといます。普段何気なく触れている文章の《ことば》も、言語がもつ《表現》としての働きや機能性を念頭に置いて意識的に“読む”とき、それまで受け取っていた理解とは全く異なる世界が開けてきます。そうした“読む”行為を意識化するところに、文学という学問領域の意味があります。 本授業では、そのような“読み”の知見を学ぶことで、多角的な読解の方法と姿勢を身に付けることを目的とします。テクスト（小説、評論、等々）と向き合い、意識的に“読む”読解・解釈という作業の中で、《ことば》を《読む》という行為の意味や可能性について考えていきたいと思います。	
		心理学	この授業では、心理学の成立と、現代に至るまでに誕生した様々な心理学の分野とその理論について紹介していきます。社会心理学やパーソナリティ心理学、発達心理学、教育心理学、学習心理学、臨床心理学などの基本的な考え方や理論に関して、適宜、ビデオ教材なども用いながら説明していきます。授業を通じて、人に対する理解を深め、世の中の現象を心理学の視点から捉えることができるようになること、そして、心理学が日常生活においてどのように役立っているのかについて理解できるようになることを期待します。	
		倫理学	社会の変化や科学技術の発展にともない、先例のない問題や、明確なルールのない問題が生じることがあります（「これはやってよいことなのか？」）。それは、私たちの日常においても同様です。そのなかでも、とくに価値判断が重要となる問題を考えるためには、倫理学を学ぶことが役に立つでしょう。 この授業では、まず「倫理的問題」の性質を考えます。そして、倫理・道徳についての諸学説をたどりながら、個人の尊厳と自由、生命といったトピックについて検討していきます。説明は、具体的事例を交じえて進めていく予定です。 「価値観は人それぞれ」というのは一見もっともらしいですが、独善的な意見のままでは幅広い理解を得られません。そこで、自分の意見を吟味する手段を学び、普遍的価値と触れ合うところを見出していくことが、より意義ある意見の形成のために大切であるとの認識のもと、みずからが考える授業を進めていきます。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤	人文社会系ｂ群	教育学	「人を育てる」、「人が育つ」とは、人間にとってどのような行為であり、歴史的にどのような教育活動や学校システムが作り出されてきたのか、教育は今日の世界においてどのような可能性・使命、そして「危険性」をもっているのか、という本質的な問いを扱う。 教育の土台となる人間的諸活動（遊び、学び、労作など）、権利としての教育、学校・教育のデザイン、子ども・学校の歴史、現代社会の教育問題といった視点から、テーマ学習のスタイルで考える。講義の中心は子どもへの教育活動への言及となるが、生涯発達の思想や学校化社会批判の観点からも考察する。 現代の子ども・教育をめぐる諸問題を、一般的な言説やマスコミ報道によってではなく、自分の力で分析・検討する姿勢をもつようになること、その際、異質な存在への寛容さや人類的な視点をもてること、やがては何らかの専門家・市民・保護者として教育に主体的にかかわろうとする意識をもつことを狙いとする。	
	人文社会系ｃ群	政治学	人間は社会的な動物であるといわれます。すなわち人間は、他者の存在が不可欠であり、他者との関係のなかで生きる生き物です。そういう人間が集まって作る社会の歴史・制度・習慣・風俗・気質等が、どのように人々の暮らしを条件付けているか。また、その中で個人と社会（または組織）との望ましい関係はなにか。－そういう問題を考えるのがこの科目です。具体的にいえば、主に現在の日本の政治状況から例を取り上げながら、そこにどのような原則（または無原則？）があるのか、個人としての私たちは、どのように行動するのが、より良いことなのか、等を考えてみたいと思います。	
		経済学	経済学は、人々の生活基盤となる経済システムおよびメカニズムについて明らかにする社会科学です。この講義では現代の世界経済および日本経済の現状について、まず「現代の大不況」を理解するため混合経済体制の下での国民経済のメカニズムを把握し、国民所得の決定の理論、財政・金融政策の役割を中心にマクロ経済を学習します。次に、市場経済の現実の運動を論理的に解明するため、ミクロ経済の必要最低限の知識である意思決定と企業の費用分析および市場の失敗等について学びます。かくして、経済現象について体系的に学ぶことで、広い視野と深い洞察を得るための汎用的技能を修得出来ます。	
		法学	「生活の中の法学」や「はじめての法学」、あるいは「○○学部のための法学」といった容易さや限定的なタイトルにだまされる人は多い。「工学部のための法学」といえば決まって特許や著作権などの知的財産権が対象で権利者の保護や経済的権利（どれだけ儲かるか）が話題になり、科学技術の公共性や知的文化の発展という本来の目的を忘れる。法は特定の人の利益のためにあるのではない。授業では、法知識を身に付けるのでなく、何のために法は発生し（法の起源）、どのように変化（法の変遷）し、どこへ向かおうとしているのか（法の行方）について考える。私たちが殺人・傷害などをしないのは刑法があるからではなく、社会の人間関係から排除されることを恐れるからに他ならない。ネット社会の中ではこうした「法的想像力」が欠如し、人間関係の希薄化が一体何をもたらすのか等を一緒に考え、その解決法の一つとして、「リーガルマインド（法的思考）」を身に付けることが「法学」の目的です。	
		社会学	社会学は、私たちの「常識」を疑い、日常生活のなかにさまざまな「驚き」や「異文化」を発見し、「社会」がどのようなメカニズムで成り立っているのかを解明する学問である。私たちは、自らが所属する「社会」の影響を色濃く受けており、決して「社会」と無縁に暮らしているわけではない。そこで、社会学理論を学ぶことで新しい「思考の枠組み」を獲得し、歴史を知り現在を相対化するとともに、国際比較や異文化理解によって自文化を相対化する。こうした社会学的な思考を通じて、社会問題を発見し、多角的に考える広い視野を体得して欲しい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤	人文社会系ｃ群	経営学	この講義の目的は、経営学の基礎と戦略論を学びながら、経営学的な考え方を修得することである。経営学の基礎としては、企業内部がどのように構成されているのか、を「ヒト・カネ・モノ・情報」といった経営資源を基に学ぶ。そして、企業の実例と講義内容をあわせて、企業の地道な努力や問題点を見つつ、理論と実際の差異を考えていく。 その後、現代企業の国内・国外での具体的な経営活動を効果的に行うために用いられる「戦略論」を学習していく。企業は常に競争にさらされており、自身の存続をかけて、内部環境や外部環境を分析した上で商品を市場に投入していく。戦略論では市場での企業間競争を中心に学習する。その例として、時事トピック・事例研究を取り入れ、企業の置かれている現状を理解できるようにしていく。	
	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	本科目では、現代の健康問題、体力の維持向上のためのトレーニング理論や身体活動が精神面にもたらす健康効果について学び、生涯を通じたセルフコントロール能力を身につける。 さらに、各種スポーツやトレーニングの実践、体力や日常の身体活動量の「見える化」などの取り組みを通じて、工科系大学における研究活動への興味を高めたりヒントをつかんだりすることも狙いとする。 運動実技では、縦断的な健康体力評価（体力測定）の重要性とその方法について学ぶ。さらに、ストレッチングや筋力トレーニングなどの運動と球技種目を中心に実践する。	実技16時間 講義14時間
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	本科目では、継続的に運動やスポーツを行うことで得られる健康体力の維持増進効果のみならず、疲労やスポーツ障害など、運動の実施が心身に及ぼす部分的な負の側面についても学ぶ。運動やスポーツの安全・合理的な活用によって、卒業後の人生においても健康管理できる能力の獲得を大きな目標とする。 運動実技では、縦断的な健康体力評価（体力測定）の重要性とその方法について学ぶ。さらに、ストレッチング、筋力トレーニングなどの運動に加え、「ニュースポーツ」「アダプテッド・スポーツ」についても実践する。	実技16時間 講義14時間
		身体活動・スポーツ論	現代社会において重要性が高まっている身体活動とスポーツについて、そのメカニズムを生理学、バイオメカニクス等の視点から学ぶ。また、運動やスポーツの実施や普及が我々に及ぼしてきた影響を自然科学および社会学の両面から検討し、自らの身体活動のあり方について考えてもらう。大きな題材としては、「ヒトが運動している時に身体に起こっていること」、「スポーツや日常の様々な身体活動を観察する」、「そもそもスポーツとは何なのか、何をもたらしたのか」などである。	
		生涯スポーツ実習	スポーツのルールや用具の特性、練習方法について知るだけでなく、パフォーマンス向上のためのトレーニング理論や、各種スポーツの生理学的特徴、健康効果についても学ぶ。生涯を通じて、健康の維持増進に加え、社会・文化活動としてもスポーツを有効に活用できるようになることを大きな目標としている。 スポーツ実技部分は、ストレッチング、筋力トレーニングなどの一人で行う運動と、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球などの球技が中心となる。さらに、「ニュースポーツ」や「アダプテッド・スポーツ」を実践する。縦断的な健康体力評価（体力測定）の理論と方法についても学ぶ。	
	言語系英語基礎	英語Ⅰ	高校までに学んだ英語の基礎を再度学修し直す。アルファベットから始まり、発音、符号、品詞、語順など、英語の初歩的な文法事項、基本語彙、平易な会話表現・作文などの学修を通して、英語の基本を確実に修得することを第一目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような基礎力を身に付ける。	
		英語Ⅱ	高校までに学んだ英語の基礎（並びに、英語Ⅰで学修した英語の基礎）をさらに確実なものとし、基本的語彙を含め、英語の基本となる事柄をしっかりと理解できるようになることを第一目標とし、TOEIC L&Rテストに対応できるような基礎力を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	言語系英語基礎	英語Ⅲ	高校までに学んだ英語の基礎（並びに、英語Ⅰと英語Ⅱの学修内容）を土台として、基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して身近な事柄に関する比較的平易な文書が理解できるとともに、それらについて基本的な文章を書いたり話したりすることができるようになることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		英語Ⅳ	英語Ⅲまでの学修内容を土台として、さらなる語彙力と文法・構文力を身に付け、簡単な説明文を理解し、図表などを読み取ることができ、日常生活での話題や関心のある事柄について自分の考えを述べたり、英語で出された指示などを理解することができるようになることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		英語Ⅴ	英語Ⅳまでの学修内容を土台として、より高度な英語の説明文を理解し、より実用的な文章から必要な情報を十分に読み取ることができ、社会や日常生活の出来事について的確に説明することができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	言語系言語応用a群	科学技術英語Ⅰ	グローバル的な社会に対応するため、科学技術の情報を英語で受信・発信する基礎的能力が必要となっている。本科目は専門分野に関する科学技術英語の基礎を学び、英語による専門分野の科学技術文章の読解・作成を行うのに必要な国際コミュニケーションの基礎力を修得することを目的とする。具体的に、工学、情報、バイオ等の専門分野の素材を題材にし、専門用語の意味、専門的な英語表現方法等を学び、理解し、易しい技術的な教科書、マニュアル、記事や論文等を読解でき、短い科学技術説明文を作成できる。	
		科学技術英語Ⅱ	科学技術英語Ⅰに引き続き、英語による専門分野の科学技術文章の読解・作成・発表を行うのに必要な国際コミュニケーションの応用力を修得することを目的とする。具体的に、各専門分野の科学技術論文の読解法、英文によるレポートや論文の作成方法、英文によるプレゼンテーション資料の作成および発表手法を学び、専門分野に関する総合的な英語応用力を身に付ける。	
		英会話Ⅰ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、ネイティブの発音に慣れ、「リズム」と「ストレス」で成り立つ英語音を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC（R）テストの対応に有効なディクテイションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
		英会話Ⅱ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、英会話Ⅰよりナチュラルスピードに近いネイティブの発音に慣れ、音としての英語を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を英会話Ⅰに続き学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC（R）テストの対応に有効なディクテイションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
		総合英語演習	リスニング、ディクテーション、語彙問題を中心としたe-Learningの演習課題を授業内でおこなっていくことを通して、基礎的な文法事項・語彙・英語表現を修得し、日常生活における身近な事柄に関して、コミュニケーションをとることができる力を身に付けることを主眼とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		TOEICⅠ	TOEIC L&Rテストで５００ 点以上を取得することを目標としながら、英語Ⅴまでに学んだ内容を土台として、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEIC L&Rテストの試験形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力を向上させることを中心とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	言語系言語応用a群	TOEICⅡ	TOEICⅠの学修内容を土台として、TOEIC L&Rテストで５５０点以上を取得することを目標としながら、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEIC L&Rテストの試験形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力をさらに向上させることを中心とする。	
	言語系言語応用b群	日本語表現技術	１年次前期の「スタディスキル」で学んだことを活かし、更に高度な文章表現の技術、コミュニケーション技術を学ぶ。「スタディスキル」では、特に大学生活で必要最低限の事項を優先的に学んだが、「日本語表現技術」では、より考えを深め、より効果的に表現するためのスキルを身に付けることを目標とする。 　ライティング能力および論理的思考を身に付ける為の基礎的な演習を行い、実用的にものを書くための基本論な事項について、また論理的に書くとはどのようなことか、主張を明確に伝えるとはどういうことかを学んでいく。具体的には、文章の形式、構成法、主張と論拠の立て方、文献の引用の仕方、テーマの深め方等を学び、学期後半では報告やプレゼンテーションの発表、質疑応答等を行いながら、公的な場におけるコミュニケーションのスキルを学ぶ。	
		プレゼンテーション技術	プレゼンテーションとは、単に人前に出て話せばいいというものではない。いかに「説得的に伝達するか」が重要な課題となる。その為には「論理的に考え」「要点をまとめて整理し」「聞き手の立場に立って表現する」という三つの要素と、これに付随する様々な技術の修得を要する。 　本授業では、そうした基礎的な要素をふまえつつ、プレゼンテーションの事前準備から、シナリオの作成、伝達技術、そして質疑応答に至るまでの、より高度なプレゼンテーション技術の修得を目標とする。進め方としては、社会に出てからの実践にもつながる技術上の知識やメソッドを学びながら、実際のビジネス分野でのヒット商品の企画書やプレゼン資料などを読み解き、批判・批評的な意識を高める。また、実際のプレゼン発表・質疑応答を通して、体系的に技術を修得していく。	
		技術文章の書き方	技術者にとって研究報告書・論文・技術的なマニュアルの作成はコミュニケーション手段の一つとして欠かせないことである。本科目は技術者に必要な技術文章のまとめ方、マニュアルの作成方法をマスターし、ライティング技法も身に付け、卒業研究論文等の技術文章を書けることを目的とする。具体的に、技術文章の構成、各専門分野に関する専門用語、表やグラフの作成、技術文章の具体例（技術報告書、取り扱い説明書等）を学習する。	
	数理情報系	身の回りの数学	高校から大学までの数学を三つの分野に分けて学ぶ。 第１分野（数、数式、図形の基本的な扱い）数の概念、数の表記、数列の考え方、方程式の立て方、三角比と図形 第２分野（論理的な考え方、物事を整理し考える方法） 論理と思考、数え上げ、確からしさと確率、データの統計処理 第３分野（社会や自然に関する知識の基礎的な事柄の理解） 指数関数的増減と対数スケール、変化率と微分、面積と積分	
		実感する科学	身の国りゃ生活の中の自然現象や科学技術などを題材にして、自然科学の基礎的な内容を学ぶ。原子一分子に始まり生命や地球まで、この世界をつくる「物質」と、物質が動く源である「エネルギー」を軸にして、物理・化学・生物一地学の4分野が、よく関連していることを感じてもらう。授業は、一方的に知識を詰め込む講義形式ではなく、双方向的に進め、簡単な演示実験や動画も活用して、「意味をつかむ」「考える」「体験や知識を互いにつなげる」といった姿勢で学ぶことの大切さを感じとってもらうことを目的としている。そうした「知の実感」とともに、数量的なスキルを鍛える計算や、数式とグラフの扱い方などの演習にも十分な時間をかける。取り上げる題材は、物質と原子、エネルギー、食事と栄養、連度と加速度、地震と火山、汗はなぜ身体を冷やす、気象、遺伝、DNA、身近な電気、原子力発電、地球温暖化などである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	数理情報系	情報・ＡＩリテラシー（情報基礎）	情報発信時と取得時における留意事項を理解するとともに、コンピュータとネットワークに関する様々な概念や応用技術を学び、それらを活用できる能力を身につける。また、数理・データサイエンス・AIに関して、それらが現在進行中の社会変化に深く寄与しており、様々な留意事項があるものの、多くの活用事例がうまれていることを学ぶ。さらに、実データ・実課題を用いた演習など、社会での実例を題材として、データ加工・可視化・分析の方法および機械学習の基本概念と活用法を習得する。	
		ＡＩとデータサイエンス（情報応用）	AIとデータサイエンス分野を取り巻く話題について取り扱うと共に、情報系・工学系・サイエンス系・医療系などの各分野からの話題提供を交えて講義を行う。前半はAIとデータサイエンスに関する入門編、基礎編、実践編として、データサイエンスの考え方、AIをめぐる動向や問題、機械学習の具体的手法、ディープラーニングの概要と手法について解説する。後半は先に示した様々な分野からの具体的な話題提供により、課題レポートの作成を中心に指導する。授業全体をオムニバス形式で実施する。 （オムニバス方式／全15回） （17. 納富 一宏／1回） 科目ガイダンスとして、シラバス、授業予定、受講上の注意点、課題対応などについて説明する。 （23. 塩野 直志／1回） データサイエンス・AI序論について講義する。 （35. 須藤 康裕／1回） AIをめぐる動向としてソフトコンピューティングに関して講義する。 （34. 前田 篤彦／5回） AI分野の問題、機械学習の具体的手法、ディープラーニングの概要、ディープラーニングの手法についてそれぞれ講義する。 （22. 武尾 英哉／1回） 電気電子情報工学科におけるAIとDSの応用について話題提供を行い議論する。 （36. 杉村 博／1回） 「AIと家」と題してスマートホームに関する話題提供を行い議論する。 （7. 三枝 亮／1回） 「AIとロボット」と題してロボットへのAI応用に関する話題提供を行い議論する。 （18. 宮崎 剛／1回） 認識処理を活用した研究事例に関する話題提供を行い議論する。 （20. 村田 隆／1回） 生物進化と最適化問題に関する話題提供を行い議論する。 （19. 臼杵 潤／1回） インターネットを介したデータ収集や収集したデータの分析や活用に関する話題提供を行い議論する。 （21. 鈴木 聡／1回） 医療関係のAIやDSの活用に関する話題提供を行い議論する。	オムニバス方式
	キャリア系	キャリア設計Ⅰ	大学生活において目標設定 やその計画が大切である。この授業では学習や学生生活の目標の設定やそれに向けての計画を具体化することを目的として援業を進める。特に最近の就職活動に早期化にも対応し、社会情勢や働くこと、仕事の種類などについても企業の協力を得て実践的に理解を探める。自ら大学生活の目標設定ができるようになることを目標とする。	
		キャリア設計Ⅱ	前年度の学習や学生生活を振り返り、今年度の取り組みの目標設定や進路選択に向けての知識を修得することを目的として開講する。大学での学習と社会や企業との関わりを業界や職種と関連ずけて理解を深め、学びの意義や大切さを再確認する。また、自分自身を文章で表現手法やコミュニケーション力の大切さ、課題解決の手法などをグループワークを通して修得する。インターンシップと本科目を連動することでより効果的な学習が実践できます。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	キャリア系	キャリア設計Ⅲ	大学での各専門学習と社会や企業との関わりを業界や職種と関連づけて企業の協力を受けながら理解を深め、将来の進路選択や設計に必要な知識やスキルの修得を目的として開講する。特に理系人材に企業が求める能力や行動について企業での事例をもとにケーススターディを通して理解する。各種インターンシップや産学連携プロジェクトと本科目を連動することでより効果的な学習が実践できます。	
		社会人に向けての準備講座	新年度から企業人となる前に企業人1年生として必要な行動やマナーを理解すること、職場におけるマナーや仕事に関わる法律などを具体的に取り上げ企業人として必要なスキルを身につけることを目的としている。また、人生設計などやお金に関わる問題なども具体事例をもとに理解を深める場面も設け卒業後の生活についてもその意義を明確にすることも開講の目的としている。授業はグループワークや演習などを盛り込み体験的に授業を進める.	
		企業特別講座	この講座は企業からの寄付講座として開講します。企業が取り組む製品開発製造・プロジェクトなどの事例をもとにそれらの業界で何が行われているか、そのような取り組みが社会や生活に対してどのような効果が期待されるかなどを企業からの講座を通して実体験的に理解します。また，大学での学びがどのように活用されているかなど具体的な事例や製品をもとに学び今後の進路や学ぶに活かせるようなことをこの講座から学びとり各自のスキルとしてもらいたい。	
		インターンシップⅠ	就職にむけて自分にとってなにが必要かなどを具体的に理解できる機会である。この科目では 単独あるいは複数企業における評価を伴う就業体験３日間以上の取り組みをもとに前述の理解を深めることを目的として開講する。年度初めのオリエンテーション事前学習 企業における就業体験 さらに事後学習で授業が構成されている。 目的意識を持ってこの科目を受講することを希望する。	
		インターンシップⅡ	インターシップは大学での学習や体験が社会や企業でどのように繋がっているのか，また，就職にむけて自分にとってなにが必要かなどを具体的に理解できる機会である。この科目では 単独企業における評価を伴う就業体験１０日間以上の取り組みをもとに、企業の取り組み 働くことや就職することの意義、 専門学習の活用などについて実践的に理解を深めることを目的として開講する。 年度初めのオリエンテーション事前学習 企業における就業体験 さらに事後学習で授業が構成されている。 目的意識を持って履修することを希望する。	
		課題解決型 インターンシップ	企業における身近な課題や新しいサービスや製品の改善などをテーマに学習する専門領域の枠を超えて学生が連携して課題に取り組むインターンシップである。　企業から投げられた課題をグループで理解し計画、実践、メンバーや企業とのコミュニケーションをもとに社会人基礎力を実践的に育成する目的も合わせ持った科目である。	
		産学連携プロジェクト	座学と企業と連携したプロジェクトを連動した科目構成である。インターンシップを経験したことのある学生向けの科目と位置付ける。 社会人基礎力　SDGsの考え方　社会人マナー　企業研究の手法などを理解し、実際に企業と連携した調査・ものづくりなどのテーマを学部横断的な学生グループで取り組む。　取り組みではプロジェクトの進め方・役割分担・コミュニケーションなども実践的に学び、専門的な知識やスキルの実践的な活用についても理解を深める。	
専門教育	専門基礎導入	プログラミング入門A	コンピュータはプログラムで動いている。したがって、情報技術を駆使して社会の課題を解決する上でプログラミングは必須の技術と言える。本授業ではプログラミングの基本技術を演習を通して学ぶ。特に、プログラミングの基本となる、処理の流れ、変数と計算、条件分岐、反復処理、配列、関数とライブラリを理解して、演習によりこれらを用いたプログラムを自ら作成できることをめざす。授業の中でコンピュータシステム、ソフトウェア、アルゴリズムとプログラミングとの関係についても学ぶ。本授業ではプログラミング言語としてPython等を用いて、各自がプログラムを作成しながら学習を進める。	講義：30時間 演習：30時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎導入	プログラミング入門B	Webブラウザで動くアプリケーションの作成を通して、プログラミングの基礎を学ぶ。最初にWebインタフェース用にHTMLおよびCSSについて学ぶ。またWebアプリプログラミングでの処理の流れ（条件分岐、反復、イベント駆動処理等）をプログラム作成を通して学ぶ。授業の中でマルチメディア、ネットワーク、情報デザイン、データベースとプログラミングとの関係についても学ぶ。本授業ではプログラミング言語としてJavaScript等を用いて、各自がWebアプリプログラムを作成しながら学習を進める。	講義：30時間 演習：30時間
		プログラミング入門C	「プログラミング入門Ａ、Ｂ」で習得したプログラミング技術の応用演習を通して、プログラミングへの理解を深めて、かつアプリケーションプログラムの課題解決への活用方法を身につけることをめざす。情報工学、ネットワーク、メディア、情報システムの分野に関する実用的なアプリケーションの種類、構成を学び、複数の具体的な課題についての実用的なアプリケーション作成を演習にて行う。本授業ではプログラミング言語として「プログラミング入門Ａ、Ｂ」で学んだものを使う。	講義：30時間 演習：30時間
		コンピュータシステム入門	Society5.0に向けて、情報通信技術（ICT）の要となるコンピュータシステムの重要度が究極的に高まっている。本科目では、情報学部で学ぶ上で理解すべき基本的なコンピュータシステムの構成要素や動作原理、制御の仕組み等について理解し、基礎的な知識を身に着けることを目指す。コンピュータシステムのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワークに関する技術について解説する。また、応用面にも目を向け、クラウドコンピューティングや今後発展が期待される社会システムに関するトピックについても議論する。	
		マルチメディア入門	人間とコンピュータシステムとの意思伝達では、視覚、聴覚、触覚を中心とした双方向の情報伝達が行われる。情報通信技術（ICT）においては情報はデータとして表現され、インタフェースを通してコンピュータシステムとの入出力を行う。本科目では、コンピュータシステムにおける様々なデータ表現方法について着目し，インタフェースや入出力装置の仕組みについて学ぶ。我々の身近にあるスマートフォンに代表されるモバイルデバイスやPC操作に関連するデバイスなどを例にとりながら解説する。また，近年注目されるメタバースやVR, AR, MRなどxRと呼ばれる技術についても議論する.	
		ソフトウェア入門	コンピュータシステムはプログラムとして表現された命令により動作・制御される。ソフトウェアはコンピュータシステムが扱うデータと命令の集合体であり、複数のプログラムが連携して動作する場合もある。ソフトウェアはコンピュータシステムが情報を処理するための主体であり、我々の社会生活を支えるインターネットを通じて提供されるアプリケーションサービスの主体ともいえるものである。本科目では、こうしたソフトウェアの基本的な動作原理とソフトウェア開発に必要なツールやソフトウェアの設計・開発の工程について体系的に学ぶ。	
		ネットワーク入門	現代の情報システムは複数のコンピュータを大容量・高速ネットワークを通じて相互に連結し、命令やデータとして表現された様々な情報のやり取りを通じて連携した処理を行うことが一般的である。インターネットは世界規模のコンピュータネットワークの総体であり、我々の生活に欠かせない仕組みである。本科目では、コンピュータ同士が情報を伝達するために必要な装置やその動作原理についての基礎と、TCP/IPなどの通信プロトコルや情報システムの構築における重要な要素となるネットワーク技術について学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎導入	アルゴリズム入門	コンピュータの動作を司るものがプログラムであり、プログラムはコンピュータが処理できる命令の系列である。命令の系列は情報を処理する論理構造を表現したものであり、これらは連接、分岐、反復の３要素を基本とし、統計処理など決められた計算や定番のデータ処理を行うための手法がアルゴリズムである。本科目では、プログラミングの基本となるアルゴリズムを理解し、フローチャートなどによる記述方法を学ぶ。また、代表的なアルゴリズムである検索やソートを例に、プログラムの動作速度や処理の効率化におけるアルゴリズムの重要性について学ぶ。	
		情報デザイン入門	我々の生活する社会では、誰にでもより分かり易く情報を表現するためのデザインや工夫が存在する。本科目では、ユニバーサルデザインや情報バリアフリーなど多様な人々にとっての情報表現の考え方やアクセシビリティやユーザビリティという考え方の重要性を理解する。また、街中に存在する標識や案内板に見られるインフォグラフィックスやピクトグラムと呼ばれる情報デザインについて具体例を通して議論する。さらに文書作成やプレゼンテーションでの情報の示し方やインターネットにおけるWebによる効果的な情報提示など実際の情報デザインに触れる。	
		データベース入門	情報処理の対象となるデータはコンピュータシステムにおける記憶装置に蓄積・保管され、活用される。情報化社会では、インターネットを通じて大規模なデータ処理が停止することなく安定的に継続される。これらを実現する構成技術のひとつがデータベース技術である。本科目では、情報システムにおける大規模・高速なデータ処理やデータ検索技術、さらにはデータを安全に保ちながら活用する手段としてのデータベース技術についての基礎を学ぶ。また、ネットワークストレージやクラウドコンピューティングに関するトピックについても議論する。	
		情報セキュリティ入門	現代のコンピュータシステムはインターネットを通じて外部の情報システムと接続されており、様々な情報がネットワークを通じて相互に入出力される。近年では情報システムの安全性の確保が重要視されており、情報の安全性やコンピュータの信頼性を確保する仕組みが情報セキュリティ技術である。本科目では、コンピュータやネットワークにおける危険性、プログラムやデータにおける安全性、機密性、信頼性などの確保に関する基本的な考え方について学ぶ。また、コンピュータウィルスやマルウェア、サイバー攻撃、情報流出などネットワークの危険性に着目し、情報セキュリティの重要性について議論する。	
		AI/DS導入ユニット	人工知能（ＡＩ）およびデータサイエンス（ＤＳ）の基礎知識・技術を講義およびプログラミング演習を通して学ぶ。この授業では特に、ＡＩやＤＳに関するプログラム（アプリケーション）について、その処理の流れ、使われている技術、プログラミング手法を中心に学ぶ。演習では実際にプログラミングを行い、ＡＩやＤＳの技術への理解を深めて、また技術の応用方法を学ぶ。プログラミング演習では「プログラミング入門Ａ，Ｂ，Ｃ」で習得した知識・技能を活かす。	講義：30時間 演習：60時間
		線形代数学Ⅰ-a	ベクトル、行列および行列式に関して、基礎的な計算方法を学ぶ。はじめに、平面上のベクトル、空間内のベクトルおよび空間内の平面の方程式について学ぶ。その後、行列の基本的性質とその応用として２元および３元連立１次方程式の解法について学ぶ。次に行列式を扱う。特に４次までの行列式については計算ができるようにする。以上の計算では、行列の行基本変形が重要である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎導入	線形代数学Ⅰ-b	行列および行列式に関して、理論と計算方法を学ぶ。最初にベクトルについて簡単に復習をし、空間内の平面の方程式について触れる。その後、行列について行基本変形を通して学ぶ。逆行列については３次の場合に計算できるようにする。行列の応用として連立１次方程式の解法について行基本変形を使って学び、４元までの場合について計算できるようにする。次に行列式について学び、行基本変形を使って５次までの場合に計算できるようにする。また、行列式の余因子展開について触れ、その応用を取り扱う。	
		線形代数学Ⅱ-a	「線形代数学I」に接続し、数ベクトル空間とその間の線形写像、および行列の固有値問題について、基礎的な計算方法を学ぶ。はじめに、平面と空間のベクトルの１次独立、１次従属および空間内の部分空間の概念を説明する。また、平面の間の線形写像、空間の間の線形写像およびそれらと行列の関係について取り上げる。その後、２次行列と簡単な３次行列の固有値および固有ベクトルについて説明し、その計算法方法を学ぶ。また、その応用として２次行列の対角化に触れる。	
		線形代数学Ⅱ-b	「線形代数学I」に接続し、数ベクトル空間とその間の線形写像、および行列の固有値問題について、理論と計算方法を学ぶ。はじめに、数ベクトル空間とその部分空間について触れ、部分空間を調べるのに重要な１次独立、１次従属、基底、次元の概念について解説する。また、数ベクトル空間の間の線形写像とその行列との関係を取り上げる。その後、行列の固有値と固有ベクトルについて学び、その応用として行列の対角化に触れる。また、行列の対角化の重要性について線形変換を通して解説する。さらに、応用として実対称行列の直交行列による標準化と実２次形式を扱う。	
		微分積分学Ⅰ-c	高等学校で数学Ⅲの「関数の極限」「微分」「積分」の範囲を学んでいないことを前提に、1変数関数の微分法と積分法の基礎を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 １．数列と数列の極限 ２．指数関数・対数関数・三角関数の定義と性質 ３．関数の極限と導関数の定義 ４．基本関数の導関数 ５．合成関数と逆関数 ６．導関数の計算法 ７．高次導関数 ８．テイラー展開 ９．不定積分の概念と基本性質、計算法 10．定積分の概念と基本性質、計算法	講義30時間 演習30時間
		微分積分学Ⅰ-d	高等学校で数学Ⅲの「関数の極限」「微分」「積分」の範囲を一通り学んでいることを前提に、数学Ⅲの微分積分学の内容に接続し、必要に応じて確認しながら1変数関数の微分法と積分法の基礎と応用を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 １．数列と数列の極限 ２．指数関数・対数関数・三角関数・逆三角関数の定義と性質 ３．関数の極限と導関数の定義 ４．基本関数の導関数 ５．導関数の計算法 ６．高次導関数 ７．テイラー展開 ８．不定積分の概念と基本性質、計算技法 ９．定積分の概念と基本性質、計算技法 10．広義積分	講義30時間 演習30時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎導入	微分積分学Ⅱ-c	「微分積分学Ⅰ」に接続し、1 変数関数の積分の計算技法の発展を学ぶ。さらに、2変数関数の微分法と積分法の基礎を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 １．置換積分法、部分積分法の技法 ２．広義積分 ３．偏導関数 ４．高次偏導関数 ５．２変数関数の極値 ６．重積分	講義30時間 演習30時間
		微分積分学Ⅱ-d	「微分積分学Ⅰ－ｄ」に接続し、多変数関数の微分法と積分法の基礎と応用を学ぶ。また、数列と級数の収束・発散について学ぶ。授業は週2 回、講義と演習を織り交ぜて行う。 １．偏導関数 ２．高次偏導関数 ３．2変数関数の極値 ４．重積分 ５．重積分の応用 ６．数列の極限と級数およびその応用	講義30時間 演習30時間
		離散数学	情報科学のいろいろな分野を学ぶ際に必要になると思われる、デジタルな数学概念のいくつかについて、それらの基礎を学ぶ。 集合に関する高度な概念の導入による、高度な数え上げ方法の修得や、漸化式と微分の類似性への着目による、数列の一般項を求める方法の修得、合同類という具体的な集合を通じた、一般の代数系に関する基本的な概念の修得、あるいは、初等・中等教育では習わない、グラフ理論に関する基本的な概念の修得を目指す。	
		情報法規と情報モラル	法律の一般的な考え方から、情報通信に関する国内法、国際条約等を解説し、さらに近年になって制定された不正アクセス禁止法などの情報セキュリティに関連した法律を講義する。具体的には、プライバシーと個人情報保護、情報の知的財産権、不正アクセス禁止法、さらにサイバー犯罪やサイバーセキュリティに関する法制度について、具体的な事例、判例をもとに解説する。また、情報モラルについても法的側面から考察していく。	
		情報社会の コミュニケーション	急速に発展したディジタル社会において、我々はスマートフォンやPCなどの機器を通して日常生活の中で各種情報に触れ、また、SNSやその他の手段で人とコミュニケーションをとっている。本科目では、そもそも情報とは何かを考えるとともに、情報を扱う上で基礎的な知識を概念的に身に付ける。情報とコミュニケーションについて、人と人が直接会う場合、電気通信による場合で何が起こっているか、電気通信の発展の過程とともに学習する。また、現在の情報社会で起こっている問題にも触れる。これらを学習することによって、将来のコミュニケーションの方向性について、各人が主体的に考えられるようにする。	
		情報社会と情報倫理	情報通信技術(ICT)の急激な進展は、社会変動をもたらし、人々のコミュニケーションや行動にも様々な変化をもたらした。そうした社会の変化に伴って、人と人との関係のあり方を規定する社会的ルールとしての道徳や倫理、法も変容している。この授業では、ICTの諸特性と現代社会への影響について、多角的に考察していく。身近なSNSやネットゲームを糸口に、情報社会におけるビッグデータやAIの活用の可能性と問題点について取り上げていく。これら現代の社会問題に対処するためには、ICTのユーザー（利用者）として、またICTの研究や開発に携わる者（提供者）として、どのような情報倫理を身につけるべきか15回の授業を通じて考察していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎導入	情報と人間	現代社会の特質を指して高度情報化社会と呼ばれるようになって久しい。だが、その間にも情報技術の進歩は目覚ましく、私たちの生活や社会に多大な影響を及ぼし、さらなる変化を生み出している。本講義は、この現代社会における情報現象を人文・社会科学的視点から読み解く知見を学び、これからの情報化社会をみずから捉え考えていく為の、多様で柔軟な視点・思考を身に付けることを目的とする。具体的には、近年注目される社会情報学をはじめ、基礎情報学、メディア社会論等の知見を紹介しつつ、情報環境がもたらす私たち人間への影響や社会の在り方について考えていきたい。	
		情報と知的財産権	知的財産権の内容は、社会の変化とともに変遷している。ここでは、主に著作権について情報との関わりで見てゆく。従来の工業所有権の目的（産業の発達に寄与すること）と異なり、著作権法の目的は「文化の発展に寄与すること」である。急速なディジタル化とネットワーク化によって、商業サイドからの強力な圧力を受け、権利者、特に著作者よりも著作権者と利用者のバランスが 崩れてきている。著作者と利用者の間でお互いの権利範囲を明示し認識しあうことで、この失われたバランスを取り戻すことはできないのだろうか。情報を学ぶ者として、広い視野で知的財産権とは何かを考えて欲しい。	
専門教育	専門基礎	情報システム概論	Society5.0 がめざす超スマート社会では，従来の情報技術をベースとしつつ， IoT（モノのインターネット）や AI（人工知能）、ビッグデータ解析，自律知能ロボット，サイバー空間が重要な情報基盤技術となり，これらを統合した新しい情報システムの創生が期待されている。本科目は、情報システムを代表する知能ロボットやヘルスケアシステムを対象として、情報システムの機能や構造を学ぶ。 （オムニバス方式　全15回） （1. 河原崎徳之/2回） 人が情報システム機器を使用する際の使いやすいヒューマン・インフェース技術に関して学習する。 （3. 高橋勝美/1回） ヘルスケアシステム構築の基礎となるバイタルサインデータの取得方法について学習する。 （2. 高尾秀伸/2回） 人が使用しやすい情報システムを設計する際に必要とされる人間中心設計の考え方よよび認知行動科学について学習する。 （28. 高橋良彦/2回） 生活支援ロボットなどの人間支援システムを制御する技術について学修する。 （4. 兵頭和人/1回） 情報システムに必要とされる組み込み技術、WebSocket を利用した遠隔制御システムについて学習する。 （5. 吉野和芳/2回） 情報システムに応用されている画像認識技術について学習する。 （6. 吉満俊拓/2回） 人が不整地・傾斜地で継続的に作業を行なわなければならない状況で用いるアシスト機器を対象として、動作状態を計測する情報処理について学習する。 （8. 吉留忠史/1回） AI技術を応用して人の身振りや手ぶり、行動を認識する手法について学ぶ。 （7. 三枝亮/2回） 機械・システム・ロボットなどの人工物が人や環境に働きかけながら発達し、応対する人の心や力も育まれるような、人と機械の共生的な行動・発達の方法論について学習する。	オムニバス形式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎	情報システムのための電気電子回路	情報システム構築に必要な電気電子回路の基礎知識を講義する。電気回路に関しては、オームの法則、キルヒホッフの法則、直流回路網、電磁気に関する基本法則、交流波形、RLC直列共振回路などについて学習する。電気回路計算に習熟するために演習問題を行う。電子回路に関しては、半導体の基礎、pn接合ダイオード、トランジスタの増幅回路、トランジスタのスイッチング回路、オペアンプ回路、AD・DA変換器について学習する。	
		情報システムのための力学	情報システムの具体的な対象としてのロボットや福祉機器を制御するために必要となる物体の力学についての学習を行う。ロボット・福祉機器・生体の運動を例にとり、静力学および動力学を中心に講義、演習を行う。学習項目としては、力の分解と合成、力のつり合い、重心や慣性モーメントの算出、極座標系、運動エネルギー、弾性エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力積と運動量、多関節機構の動力学などについて学ぶ。	
		情報システム工学 Ⅰ	システムとは複数の要素を組み合わせて個々の要素にはなかった機能を発現させる仕組みであり，情報システムは複合した情報から元よりも価値の高い情報を生成する系と見なせる．本科目では，信号処理と知能ロボットを題材として，情報の取得，処理，統合，生成に関する理論と実例を学ぶ．信号処理ではフーリエ変換，ラプラス変換，デジタルフィルタなどの理論，知能ロボットでは感覚統合や運動生成などの実例を概説する．また，情報システムを必要とする当事者や活用方法に明るい識者を招き，対人的な情報システムや感性情報処理の可能性を討議する．	
		IoTシステム	IoTシステムは多層にわたる多様な技術の組み合わせで実現している。IoTシステムを理解するため、基本的な知識・技術といった個々の要素だけでなく体系についても理解する。また、技術的な視点だけでなく、サービスの提供、ユーザの視点から必要となる事項についても学習する。具体的には、センサ技術等のIoTデバイス、IoTエリアネットワークを構成するネットワーク技術、データ分析の手法、セキュリティ、産業システムと標準化、法制度と各国の動向などを扱う。	
		情報通信技術	情報システムの様々な機器や電子素子はネットワークを構成し、互いに情報を送受している。有線通信・無線通信の基礎知識から設計、プログラミング例を講義する。主に、シリアル通信、有線・無線LAN、Bluetoothについて学習する。情報通信技術の知識を教授するとともに、実例を交えた電子回路の設計、C言語によるプログラミングを講義する。	
		シミュレーション設計技法Ⅰ	情報システムとしての機器を設計・製作を行うためには、所定の要求を満たす構造等を決定し、図面にあらわす必要がある。 本講義では、機器製作の元となる３次元形状の制作方法を学習する。 ３次元物体の造形方法の基礎を学習し、さらにコンピュータを用いた３次元CADを利用した造形方法について学習する。実際の物体からCAD上でオブジェクトを描くことにより、３次元形状の設計方法を習得し、自らのアイデアを具体化できることを目指す。	
		情報システム工学Ⅱ	本科目は、知能ロボットを題材として、情報システムにおける一連の情報処理の流れについて学び、情報処理システムを大局的に理解する。ロボットは機械、電気、情報などの基本技術が融合したシステムインテグレーションであり、さらに、知能ロボットはAI技術により優れた認識機能を有する。ロボットにおけるセンサからの情報取得の方法、センサ情報から周囲の状況を認識する方法などについて理解する。また、自律移動ロボットに必要な自己位置認識や経路生成に用いられる機械学習などのAI技術についても学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門基礎	画像情報処理	人間は外界の情報の約9割を視覚から取り入れて行動しているように、視覚に関連する情報は、スマートホンやロボットなどの機器の動作を決定するためにも重要である。本講義では、ビデオカメラで得られた映像をコンピュータで処理し，その映像から機器の動作決定に必要な情報を取り出す画像処理技法について学習する。また、授業内では、OpenCVという画像ライブラリを使った画像処理プログラミングの方法についても体験的に学習する。	
		ビッグデータ解析	世の中にはSNSによるテキストデータ、モバイル端末を活用した画像・動画データ、IoTによる計測データをはじめ多くのデータ（ビッグデータ）が溢れている。本講義ではビッグデータの収集方法をはじめ、データの管理方法、データを使用するための前処理、データ分析手法（基本統計量、多変量解析、数理最適化他）およびデータの可視化など、ビッグデータに関する一連の解析手法を学ぶ。なお、理解度が高まるよう、実在するデータを汎用ソフトウェアで解析する機会を多く設ける。	
		シミュレーション設計技法II	情報システムとしての機器を設計・製作を行うためには、所定の要求を満たす構造等を決定し、図面にあらわす必要がある。 本講義では、機器製作に必要な製品を図面に表す２次元図面製図法の基礎を学習し、さらに３次元物体を２次元図面上に描画する手法・実際の加工方法に基づいた作図法を理解し、自らのアイデアを実物として設計・製作出来ることをめざす。	
		情報システムと人間科学	我々はいろいろな人工物に囲まれて生活している。器具・機器の使い勝手や安全性、生活の快適さなどは、人と物・環境との相互作用である。したがって、人の身体・感覚特性を理解した上で、いろいろな情報システムを開発・設計する必要がある。このような観点から人と物・環境との接点（インターフェース）を学習する。	
		情報システム プログラミング基礎	コンピュータのプログラミング技術を十分に理解し、基礎から身に付け、情報システム構築に結び付けることができるようにする。広く利用されているプログラミング言語を対象に、簡単な例題からアルゴリズムを考え、プログラムを構成する中で、プログラムの書き方、言語構造などを理解する。短答式テストによってプログラミングに関する理解度を確認する。	講義：30時間 演習：30時間
		情報システム基礎ユニットI	ロボット用のソフトウェアプラットフォームであるROSを使用して、シミュレータ上で動く移動ロボットやロボットアームの開発からソフトウェアの基礎力と技術力を身に着ける。また、開発したソフトウェアのモデリングを行い、報告書の作成、成果発表会を通じてコミュニケーション能力を高める。	講義：30時間 演習：30時間
		情報システム基礎ユニットII	ロボット用のソフトウェアプラットフォームであるROSを使用して、実ロボットを動かすための基礎力と技術力を身に着ける。シミュレータとは異なり、実環境による多くの外的要因がロボットの動作に影響を与えることを理解する。情報システム基礎ユニットＩと同様に、開発したソフトウェアのモデリングを行い、報告書の作成、成果発表会を通じてコミュニケーション能力を高める。	講義：30時間 演習：30時間
	専門	情報システムセキュリティ	今日の情報システムではインターネットが必要不可欠なインフラ（基盤）となっている。情報システムではデータ収集、メッセージ交換、メディア通信、デバイス制御などがさまざまな情報がインターネットを介してやり取りされている。一方で、インターネットの脆弱性を攻撃して、他人に不利益をもたらす行為や、他人の情報を盗み悪用する行為も年々増えていて、かつ巧妙化、複雑化している。インターネットを情報システムの社会基盤（インフラ）とするためにはネットワークセキュリティの技術がますます重要になっている。本講義では、情報セキュリティの基礎を復習しながら、ファイアウォール、ＶＰＮ構築技術、不正侵入検知システムなどネットワークに関わるセキュリティ技術を解説する。また、不正アクセス対策技術、コンピュータウイルス対策や無線通信のセキュリティ対策についても概説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門	サイバー空間技術	サイバー空間(Cyberspace) は、コンピュータやネットワーク上に構築された仮想的な空間（仮想空間）を指す。リアルな実世界を指すフィジカル空間と対を成すものである。情報システムではサイバー空間が新たな情報入出力の場として期待されている。本授業では、サイバー空間の歴史、情報システムにおけるサイバー空間の役割、サイバー空間の具体的な利用例を学ぶ。また、サイバー空間技術としてバーチャルリアリティ技術などのエクステンデッドリアリティ（XR）で用いられる各種技術を学ぶ。そして、サイバー空間とフィジカル空間を融合した新しい情報活用の場について考察していく。	
		ヒューマンコンピュータインタラクション	パソコンやケータイをはじめとする情報機器は現代人に欠かせない存在となっている。使いやすく「人に優しい」情報機器を開発したり、うまくユーザーに適合させるためには、人間の感覚・知覚・認知の諸特性に関する知識と、その科学的な測定方法について知っていることが重要になる。本講義では、人間の視・聴覚などの感覚特性や記憶や思考など大脳で行われる人間特有の認知情報処理の仕組みについて理解するとともに、その特性を生かした使いやすいインタフェース技術について学ぶ。	
		組み込みアプリケーション入門	組み込みシステムは、ハードウェアとソフトウェアが一体となって、装置やシステムの機能を実現している。本講義では組み込みシステムのアプリケーションソフトウェアについて学習する。具体的には、ユーザインターフェースとしても注目されているAndroid端末用のソフトウェア開発に必要な以下の知識を修得する。 （1）Android端末用のGUIの設計 （2）Android端末を使用した通信アプリケーションの設計 （3）バージョン間の互換性を考慮した設計 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		組み込みシステム入門	組み込みシステムを設計する場合には、ハードウェアとソフトウェアに関する知識が必要である。本講義では組み込みシステム設計に必要な以下の基礎事項を学習する。 （1）マイコンを使用した制御システムの設計 （2）制約条件を満たす部材の選定方法 （3）組み込み機器用開発環境の構築 （4）組み込み機器用の制御システムの製作 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		ロボットメカニズム	情報システムの代表であるロボットやメカトロ機器を構成する機構の設計・製作の基礎を学ぶ。ロボットを制御するためには、様々な機構のからくりを運動学的および力学的に解明する必要がある。そのため、機械の機構の概要とその力学的解析法を学ぶ。ロボットの運動方程式、リンク機構、カム機構、摩擦伝導機構、歯車機構などを取り上げる。講義後半では、簡単な機構を用いたお茶運びロボットのアイデアコンテストを行い、設計プレゼンテーションと競技を行う。	
		センシングシステム	人間の感覚機能を工学的に実現するセンサ技術の理論的説明を行い、さらに各種センサの実例を通して、情報システム分野のセンシング原理と実際のシステムを概説する。センシングの基礎、力覚センサ、視覚・聴覚センサ、接触・触覚センサ、測定の誤差と精度、増幅回路、信号処理（不規則雑音の性質、波形の平滑化、雑音の圧縮、相関関数、フーリエ解析）などについて学習する。また、日常使用されているRFID、GPS、認証システムの原理についても講義する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門	次世代通信技術	Society 5.0に向けて、IoT、人工知能（AI）、ロボットなどの情報システムの社会への応用が進んでいる。そこではネットワークや無線通信などの情報通信技術が重要な構成要素となっている。特に情報システム実装では、情報通信の「大容量化」に加えて、「低遅延性」を有する通信ネットワークが必須の技術となる。本科目では、次世代の情報システムを支える通信技術の学ぶ。 授業では、通信工学の基礎技術と歴史について学んだのち、次世代の通信技術の基盤となる技術を学ぶ。そして、次世代通信技術の利用場面や課題について学ぶ。	
		ヘルスケアシステム	健康寿命の延伸は、国の重要課題であり、国を始めとして各地方自治体で多くの健康施策が行われている。そのような中で、センサー技術やIT技術による健康データの取得や管理が可能なとなり健康データの見える化の取り組みが行われている。健康を維持するためには、身体および精神的機能を良い状態に維持することが重要である。そのためには人からどのような健康データを取得し、解析することがよいか、社会的に実施されているヘルスケアの取り組みはどのように実施されているかについて学び、持続可能なヘルスケアシステムの開発に必要な考え方やデータ取得および解析の知識を学ぶ。	
		ロボットとAI	ウィーナーによるサイバネティックスの提唱以降、ロボット技術と計算機科学の融合は深まりつつある。生き物の活動を観察すると、そこには物理的な制限が課せられており、生き物は適切な行動を生成、選択することで制限に対処しようとする様子が伺える。生き物に倣って、人工知能に物理的な身体と環境を与え、行動を最適化するように仕向けることで、生き物のように知能を発達させる人工物が出現するかもしれない。本科目では人工知能の理論的な基礎を習得し、認知発達ロボットの要素技術を理解することで、知能が身体をもつことの意味を学ぶ。	
		組み込みアプリケーション開発	本講義では、「組み込みアプリケーション入門」で得られた技術を応用して、Android端末と外部ハードウェアによって構成されるシステムを開発する際に必要な以下の技術に関する学習を行う。 （1）Android端末へ接続する外部機器の設計 （2）Android端末を用いた計測システムの設計 （3）Android端末を用いた計測・制御システムの設計 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		組み込みシステム設計	本講義では、「組み込みシステム入門」で得られた技術を応用して、より複雑な機器を制御するシステムを開発する際に必要な以下の技術に関する学習を行う。 （1）複数のマイコンから構成されるシステムの設計 （2）モジュール間通信プロトコルの設計 （3）複数のマイコンを用いた制御システムの製作 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		システム制御	情報システムとして機器を動作させる場合は、その機構をうまく制御して望むような運動を実現する必要がある。本講義では、その基礎的な技術としての制御工学について講義する。具体的には、ラプラス変換、伝達関数、ブロック線図、フィードバック制御、システムの安定性等について学ぶ。	
		情報システムの社会実装	情報システムの社会実装とは情報通信（ICT）技術を社会問題解決のために応用することをさす。本授業では、具体的な製品やサービスの形で社会において活用されている情報システムの実例をもとに、社会実装における情報システムの特徴や課題を考察していく。具体的な製品やサービスに展開するために、情報入出力インターフェース、データ収集、データ処理といった情報システム技術に求められることは何か、実例からこれらを学び、情報システムの応用に対しての理解を深める。授業では、Society5.0に代表される，情報システムのこれからの社会実装についても考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

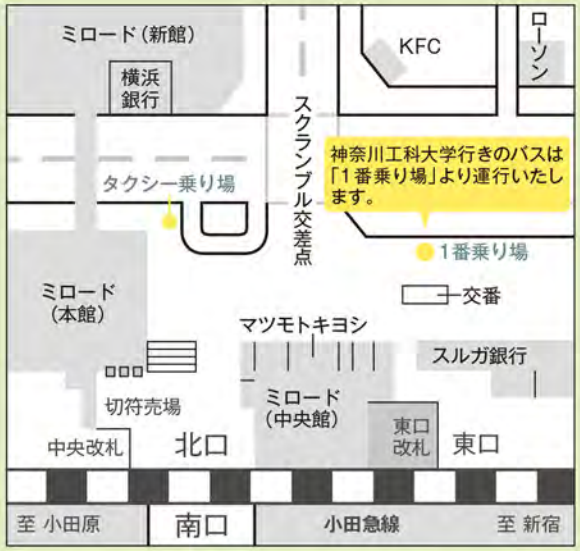
授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報システム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門	情報システム応用ユニット	ユニットプログラムにおいては、特徴の異なるいくつかの情報システムのテーマの中からひとつを選択し、ものづくりの中で計画・実行・評価のサイクルを繰り返し、問題発見・解決能力を養う。専門的な技術力を養うと同時に、知識として足りない部分を見つけ、講義科目を学ぶ動機へとつなげる。また、報告会や報告書により説明能力を養う。本科目では、各テーマの基礎的な学習が主となり、初めの計画は各テーマに設定された基本的なものから始める。	講義：30時間 演習：60時間
		情報システム専門ユニット	情報システム応用ユニットから継続して行われ、ものづくりの中で問題発見・解決能力や説明能力を身に付け、講義科目を学ぶ動機付けとする。本科目では、これまでに身に付けてきた開発プロセスを確認し、各テーマの課題における問題を解決するための企画書作成、設計・製作、費用算出、作業計画などを通して管理（行程、コスト）能力も高めるよう展開する。	講義：30時間 演習：60時間
		卒研セミナーⅠ	指導教員のもとで研究に関連する文献の調査や原著の講読、それらの発表・討論を通して、研究分野のより深い学習をめざす。	
		卒業研究Ⅰ	指導教員のもとで研究テーマを選定し、装置の開発、実験、理論的検討、調査研究を行う。これらを通して、未知の問題を解決する力を養う。さらに、研究、調査資料等のまとめ方、報告書や論文の作成方法、発表や自己表現の技術を身につける。卒業研究に関して中間報告を行う。	
		卒研セミナーⅡ	卒研セミナーⅠに引き続き、指導教員のもとで研究に関連する文献の調査や原著の講読、それらの発表・討論を通して、研究分野のより深い学習をめざす。	
		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰに続き、指導教員のもとで研究テーマを選定し、装置の開発、実験、理論的検討、調査研究を行う。これらを通して、未知の問題を解決する力を養う。さらに、研究、調査資料等のまとめ方、報告書や論文の作成方法、発表や自己表現の技術を身につける。卒業研究に関して最終報告を行う。	

■神奈川県内における厚木市の位置

■最寄り駅からの交通機関



本厚木駅・バス乗り場のご案内

ルート1 直通バス

「厚木バスセンター」1-2番乗り場(本厚木駅より徒歩3分)より、1系統運行。/バス約17～20分

ルート2 一般路線バス(2路線)

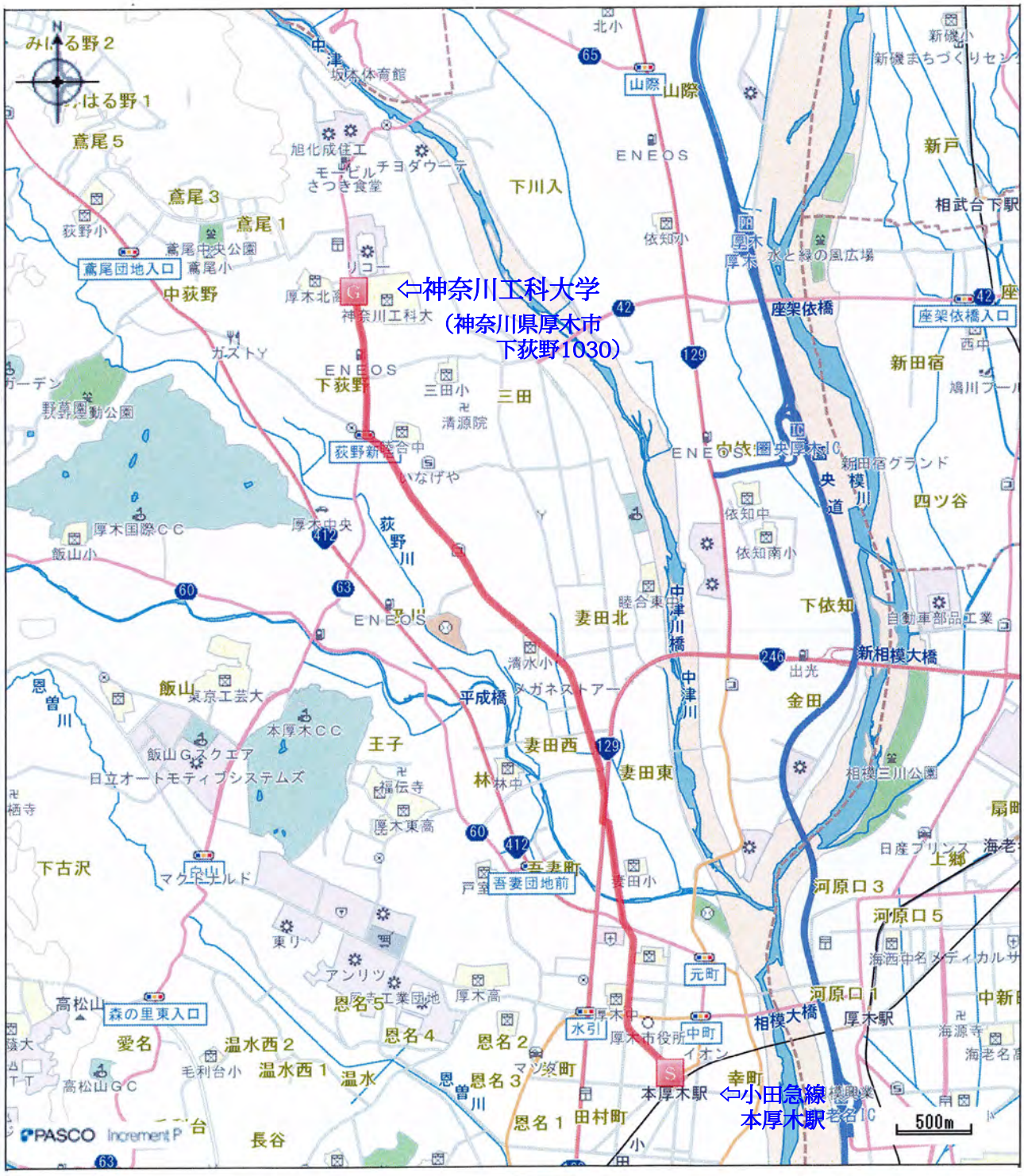
● **「神奈川工科大学前」停留所/バス約20～25分+徒歩0分**

「本厚木駅北口」1番線乗り場より、2系統運行。
▶「あつぎ郷土博物館」行き / ▶「神奈川工科大学経由・鳶尾団地」行き

● **「荻野新宿」停留所/バス約18～23分+徒歩7分**

「本厚木駅北口」1番線乗り場より、4系統運行。
▶「上荻野車庫」行き / ▶「半原」行き
▶「まつかげ台」行き / ▶「鳶尾団地」行き

神奈川工科大学
校地位置関係図



学校法人幾徳学園　神奈川工科大学　校舎配置図

●校地面積：１２６，５６２．０６㎡（校舎敷地+運動場敷地）

敷地合計：134,503.75㎡（校舎敷地：88,546.13㎡、運動場用地：38,015.93㎡、その他敷地（駐車場，シェアハウス，山中湖セミナーハウス等）：7,941.69㎡）

●校舎面積：９９，５３３．３５㎡（９７，５５８．３５㎡）

※赤色部分は校地面積に算入されない部分

※青色が申請学科にて利用する建物

※★印は申請学科の専用施設がある建物

校舎面積

建物記号	建物の名称	建物延床面積
A5号館	幾徳会館	1,854.86 ㎡
A6号館	KAIT HALL	1,268.41 ㎡
B5号館	第二・第三講義棟	5,057.94 ㎡
B7号館	ECO棟	150.97 ㎡
C1号館	図書館	5,204.22 ㎡
C2号館	第一・第二実験研究棟	9,637.78 ㎡
C3号館	リサイクル棟	456.03 ㎡
C4号館	内燃機関棟	585.60 ㎡
C5号館	第三実験研究棟	7,317.39 ㎡
C6号館	★第四実験研究棟	8,802.18 ㎡
D2号館	先進技術研究所	1,229.68 ㎡
D3号館	工学教育研究推進機構	2,922.70 ㎡
D5号館	KAIT TOWN棟（建築中）	1,225.00 ㎡
E1号館	情報・ロボット棟	2,933.85 ㎡
E2号館	★応用化学生物棟	2,945.32 ㎡
E3号館	ロボット・プロジェクト棟	1,242.00 ㎡
E4号館	★電気・化学実験棟	1,656.00 ㎡
E5号館	溶接製図棟	876.71 ㎡
E7号館	新実験実習棟（建築中）	750.00 ㎡
E6号館	自動車工学棟	1,356.14 ㎡
R号館	冷暖房機械棟	92.00 ㎡
K1号館	情報学部棟	16,282.55 ㎡
K2号館	学生サービス棟	7,545.72 ㎡
K3号館	講義棟	12,045.97 ㎡
K4号館	看護・医療棟	5,943.30 ㎡
---	屋外トイレ	69.16 ㎡
---	守衛所	37.07 ㎡
---	危険物保管庫	28.00 ㎡
---	廃液保管庫	16.80 ㎡
A1号館	KAITアリーナ（体育館）	5,402.99 ㎡ ※
A2号館	第一体育館	1,303.62 ㎡ ※
A3号館	第一クラブハウス	579.88 ㎡ ※
A4号館	第二クラブハウス	456.95 ㎡ ※
D1号館	KAIT工房	1,988.40 ㎡ ※
---	雨天練習場	260.00 ㎡ ※
C7号館	スマートハウス認証センター	172.98 ㎡ ※
F1号館	シェアハウス（女子寮）	2,632.47 ㎡ ※
---	山中荘	640.12 ㎡ ※
合計（※は算入外）		99,533.35 ㎡

校舎配置図　1:1500（A3）

校舎平面図　【略】

神奈川工科大学学則

（昭和50年４月１日制定）

第１章　総　　則

（設立の目的）

第　１　条　本学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育成して文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。

（建学の理念）

第１条の２　本学は、広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊な教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて科学技術立国に寄与するとともに、教育・研究を通じて地域社会との連携強化に努める。

（教育目的と目標）

第１条の３　本学は、教育の目的・目標を「別表Ａ」に定め、これを公表するものとする。

（人材の養成及び教育研究上の目的）

第１条の４　本学は、学部、学科、課程ごとの人材の養成及び教育研究上の目的を「別表Ｂ」にそれぞれ定め、これを公表するものとする。

第１条の５　（自己評価等）

本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

（学部・学科及び収容定員）

第　２　条　本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	175 名	700 名
	電気電子情報工学科	128 名	512 名
	応用化学生物学科	145 名	580 名
情報学部	情報工学科	170 名	680 名
	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110 名	440 名
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	180 名	720 名
	情報ｼｽﾃﾑ学科	80 名	320 名
健康医療科学部	看護学科	80 名	320 名
	管理栄養学科	40 名	160 名
	臨床工学科	40 名	160 名
計		1,148 名	4,592 名

２．　前項の他に教職課程を置く。

第２条の２　削除

２．　削除

３．　削除

第２章　　職員組織

（職　　員）

第　３　条　　本学に次の職員を置く。

学 長

教育職員（教授・准教授・講師・助教・助手及びその他の教員）

事務職員・技術職員等

２．　職員及びその職制に関する規則は別に定める。

（学　　長）

第　４　条　　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

２．　学長のもとに副学長を置くことができる。

３．　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

（教育職員の職務）

第　５　条　　教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

２．　准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

３．　助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

４．　助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

５．　講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

（職員の事務分掌）

第　６　条　　学長のもとに教学事項に関する事務を分掌するため、副学長、学部長、学科長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職センター委員長、自己評価委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工業教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長、系列総会会長、国際センター所長及び教職教育センター所長を置く。

２．　学長のもとに一般事項に関する事務を分掌するため事務局を置く。

第３章　　教授会及び大学協議会

（教授会）

第　７　条　　大学に教授会を置く。

２．　教授会は、専任教授をもって組織する。

３．　教授会は、学長が招集し、その議長となる。

４．　教授会は、教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。

５．　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
(2) 学位の授与
(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

６． 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

７． 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。

（大学協議会）

第７条の２ 本学に大学協議会を置く。

２． 大学協議会に関する規定は、別に定める。

第４章 修業年限・学年・学期及び休日・休業日

（修業年限）

第 8 条 本学の修業年限は４年とする。

（在学期間）

第 9 条 本学学生の在学期間は、通算して８年を超えることはできない。

（学　　年）

第 10 条 学年は４月１日より始まり３月31日に終わる。

（学　　期）

第 11 条 学年を分けて、次の２学期とする。

(1)前 期 ４月１日から９月３０日まで
(2)後 期 １０月１日から３月３１日まで

２．前項の規定にかかわらず、後期に属する授業科目は夏期休業終了後から始まる。

（休　　日）

第 12 条 休日は次のとおりとする。

(1) 日 曜 日
(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(3) 創立記念日 ５月７日

２． 前項に定めた休日は都合により授業日にすることがある。

（休 業 日）

第 13 条 休業日は次のとおりとする。

(1) 春期休業 ３月21日から ４月７日まで
(2) 夏期休業 ７月21日から ９月15日まで
(3) 冬期休業 12月21日から翌年１月10日まで

２． 前項に定めた休業日は都合により多少移動することがある。

３． 臨時休業については、その都度学長が定めるものとする。

第５章 教育課程及び履修方法

（授業科目）

第　14　条　　本学の授業科目の区分は、次に示す共通基盤教育、専門教育並びに教職に関する科目とする。

共通基盤教育：豊かな人間性と広い視野を養うとともに、総合的な判断力を養うための科目群。

専門教育：科学技術者としての基盤を培うための専門基礎導入科目、専門基礎科目並びにそれぞれの専門分野において有為な科学技術者を養成するための専門科目群。

（授業科目及び単位数）

第　15　条　　授業科目の種類及び単位数は、別表第１から第４までのとおりとする。

（履修方法）

第　16　条　　学生は、前条に定める授業科目及び別に定める「履修規程」に従い授業科目（以下「科目」という）を必修及び選択により履修しなければならない。

２．　履修しようとする科目については､科目担当教員の承認を受けなければならない。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第16条の２　　学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、３０単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２．　前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第16条の３　　学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（平成３年度文部省告示第68号）を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

２．　前項により与えることができる単位数は、前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第16条の４　　学生が入学前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２．　学生が入学前に行った前条第１項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。

３．　前２項により修得したものとみなし､又は与えることのできる単位数は､編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて３０単位を超えないものとする。

（遠隔授業）

第16条の５　　教授会が、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定める（大学設置基準第２５条）ところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

２　　前項により与えることができる単位数は、６０単位を超えないものとする。

（科目の単位）

第　17　条　　各授業科目の単位数は、教授会において定めるものとする。

２．　授業科目の単位数の算定に当たっては、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、原則として次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。

(2) 演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。

(3) 実験、実習、製図及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲で必要と認められる時間の授業をもって１単位とする。

(4) 講義と演習を併用する科目については、講義 10 時間と演習 10 時間の授業をもって１単位とする。

３．　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して単位数を定めることができる。

（１年間の授業期間）

第17条の２　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、３５週にわたることを原則とする。

（修了認定の方法）

第　18　条　科目修了の認定は、平素の成績及び筆記試験又は論文等による。但し実験・実習・演習・製図・保健体育実技等は、平素の成績によって認定することができる。

（修了認定の資格）

第　19　条　各科目について、出席すべき時間数の３分の２以上に達しない者は、その科目の修了認定を受ける資格が与えられないものとする。

（修了認定の評価）

第　20　条　科目の成績は、秀・優・良・可・不可の５段階をもって表示し、不可は、未修了とする。

（成績評価基準等の明示）

第 20 条の２　本学の授業科目は、授業の方法及び内容並びに１年間の授業計画をあらかじめ明示するものとする。

２．　成績評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切におこなうものとする。

（教育職員の組織的研修等）

第 20 条の３　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第６章　卒業及び学位授与

（卒　　業）

第　21　条　本学に４年以上在学し、別表第５に規定する卒業要件を充足した者には、卒業証書を授与する。

（教員の免許状）

第　22　条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

２．　本学の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第

４の３に掲げるとおりとする。

（学位授与）

第　23　条　本学を卒業した者には、学科の分野により次の学位を授与する。

(1) 学士の分野（工学関係）

工学部	学士（工学）
情報学部	学士（工学）
健康医療科学部　臨床工学科	学士（工学）

(2) 学士の分野（家政関係）

健康医療科学部　管理栄養学科	学士（栄養学）

(3) 学士の分野（保健衛生学関係－看護学関係）

健康医療科学部　看護学科	学士（看護学）

（特別課程に係る修了証明書の交付）

第 23 条の２　本学は、文部科学大臣の定めるところにより、本学の学生以外を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

第７章　入学・転学・休学・復学・退学等

（入学の時期）

第　24　条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

（入学の資格）

第　25　条　本学の第１年次に入学できるものは、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学の許可）

第　26　条　入学志願者に対しては、学力試験の結果及び出身学校長から送付された調査書等を資料として選考し、入学を許可する。但し、必要に応じて面接試験を行うことがある。

（入学手続）

第　27　条　　入学の許可を得た者は、指定の期限内に所定の様式による誓約書、保証書、出身高等学校の卒業証明書、その他必要書類及び所定の入学納付金を提出しなければならない。

２．　前項の手続を指定の期限内に行なわなかった者については、入学許可を取り消す。

（保　証　人）

第　28　条　　保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で本人の身上に関する一切の責任を負い得る者でなければならない。

（学士入学）

第　29　条　　本学を卒業し、さらに他の学科に入学を志願する者若しくは他の修学年限４年の大学を卒業し、さらに本学に入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

（再　入　学）

第　30　条　　やむを得ない事由により、本学の学籍を離れた者で同一学科に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

（編　入　学）

第　31　条　　第３年次又は２年次においては欠員ある場合は大学２年次又は１年次終了者、短期大学卒業者、高等専門学校卒業者、専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び学校教育法施行規則第92条の３で認められた入学志願者について試験を行い編入学を許可することがある。

２．　編入学の時期は、学年始めとし、本人の既修の授業科目単位数についてはその一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目、単位数を決定する。

（転部・転科）

第　32　条　　在学中に転部又は転科を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転部又は転科を許可することがある。

（休　　学）

第　33　条　　病気その他やむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を保証人連署の上提出し、許可を受けなければならない。なお、病気のときは、医師の診断書を添えなければならない。

２．　休学の期間は１年を超えることはできない。但し、特別の事情があるときは、その期間の延長を許可することがある。なお、その場合通算して４年以上になってはならない。

３．　休学した期間は、これを在学期間に算入しない。

（復　　学）

第　34　条　　休学者はその理由が消滅したときは、その旨を保証人連署の上願い出て許可を受け、復学することができる。

（転　　学）

第　35　条　　在学者が他の大学に入学又は転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。但し、二重学籍については、これを認めない。

（退　　学）

第　36　条　　在学者が退学しようとするときは、その事由を詳記した願書を保証人連署の上願

い出て、許可を受けなければならない。

（除　　籍）

第　37　条　　次の各号の一に該当する者は除籍する。

(1) 在学期間が所定の年数を超える者

(2) 納付金等を滞納し催告してもこれに応じない者

第８章　　外国人留学生

（外国人留学生）

第　38　条　　外国人で本学に留学を志願する者は、選考の上、入学を許可する。

第９章　　研究生・科目等履修生・単位互換履修生・特別聴講学生

（研　究　生）

第　39　条　　研究生は、本学教員の直接の助言指導を受け、特定の研究課題について研究するものとする。

２．　研究生として入学を志願できる者は次のとおりとする。

(1) 本学又は他の大学を卒業した者

(2) 大学卒業程度の学力があると認められた者

３．　研究生として入学を志願する者は、研究しようとする事項を記載した入学願書に履歴書及び検定料を添えて願い出なければならない。また、入学願書には、指導教員の選定につき希望を記載するものとする。

４．　研究生の在学期間は１年とする。但し、引続き在学を希望する者に対しては、さらに在学期間を延長することができる。

５．　研究生は、指導教員及び科目担当教員の承認を得て講義、実験及び演習等に出席することができる。

６．　研究生は、研究期間修了時に研究事項を記載した報告書を提出しなければならない。

（科目等履修生）

第　40　条　　第25条に定める者で本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、一般の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

２．　科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。

３．　科目等履修生で、履修科目の試験に合格した者に対しては、単位を与える。

（単位互換履修生・特別聴講学生）

第　41　条　　他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、単位互換履修生又は特別聴講学生として入学を許可することがある。

（研究生等の規則）

第　42　条　　特別の規定のない限り本学則の規程は、研究生、科目等履修生、単位互換履修生及び特別聴講学生にもこれを準用する。但し、第16条、第21条、第23条はこの限りでない。

第10章　入学検定料・学生納付金

（入学検定料・学生納付金）

第　43　条　入学検定料及び年間学生納付金の納入額は「別表第６」に定めるとおりとする。なお、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金は「別表第７」に定めるとおりとする。

２．　学生納付金等は、所定の期限までに、納入しなければならない。

３．　学生納付金中授業料は、年額を２回に均等分割し納入するものとする。
但し、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生は分納を認めない。

４．　在学生に対しては、事情により授業料の全額又は一部免除を行うことがある。

５．　転学又は退学した者は、その在籍した学期までの学生納付金を納入しなければならない。

６．　休学した場合、その休学期間中における学籍管理料を納入しなければならない。

７．　既に納付した納付金は、別に定めがある場合を除き、これを返還しない。

第11章　賞　　罰

（表　　彰）

第　44　条　在学生にして人物並びに学業優秀な者に対しては、これを表彰することがある。

（懲　　戒）

第　45　条　本学所定の規則に違反し、秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者は懲戒処分とする。

２．　懲戒は訓告、停学及び退学とする。

（懲戒による退学）

第　46　条　前条の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

(2) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(3) 学業を怠り成業の見込がないと認められた者

(4) 正当の理由がなくて出席が常でない者

第12章　学生の指導と課程外教育

（生活指導）

第　47　条　在学生の個人並びに集団の生活指導と課程外の教育を重視し、そのための諸機関を置く。

（健康管理）

第　48　条　在学生の健康管理のために健康管理室を置く。

第13章　研　究　所

（研　究　所）

第　49　条　本学に必要に応じて研究所を置くことができる。

２．　研究所に関する規程は、別に定める。

第14章　　公開講座及び講習会等

（公開講座等）

第　50　条　　本学は、文化の向上、成人教育その他の目的のために公開講座・講習会等を開設することがある。

附　　則１．　この学則の実施に関する必要な細則は、別に「履修規程」等に定める。

２．　この学則は、昭和50年４月１日から施行する。

３．　この学則の改正は、昭和53年４月１日から施行する。

４．　この学則の改正は、昭和54年４月１日から施行する。

５．　この学則の改正は、昭和55年４月１日から施行する。

６．　この学則の改正は、昭和56年４月１日から施行する。

７．　この学則の改正は、昭和57年４月１日から施行する。

８．　この学則の改正は、昭和58年４月１日から施行する。

９．　この学則の改正は、昭和59年４月１日から施行する。

10.　この学則の改正は、昭和60年４月１日から施行する。

11.　この学則の改正は、昭和61年４月１日から施行する。但し、第２条の規定にかかわらず昭和62年度から平成６年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１８０名
	電気工学科	１８０名
	工業化学工学科	１７０名
	機械システム工学科	１００名
	情報工学科	１００名
計		７３０名

12.　この学則の改正は、昭和62年４月１日から施行する。

13.　この学則の改正は、昭和63年４月１日から施行する。

14.　この学則の改正は、平成元年４月１日から施行する。

15.　第２条及び附則11の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成２年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械システム工学科	１３０名
	情報工学科	１３０名

この学則の改正は、平成２年４月１日から施行する。

16.　この学則の改正は、平成３年４月１日から施行する。

17.　第２３条の改正は、平成４年３月１日から施行する。

18.　この学則の改正は、平成４年４月１日から施行する。

19.　この学則の改正は、平成５年４月１日から施行する。

20.　この学則の改正は、平成６年４月１日から施行する。

21.　第２条及び附則11の定めにかかわらず、機械工学科、電気電子工学科及び工業化学工学科の入学定員については、引き続き平成７年度から平成11年度までの期間において次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１８０名
	電気電子工学科	１８０名
	工業化学工学科	１７０名

この学則の改正は、平成７年４月１日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部電気工学科の名称は、改正後の学則第２条、第22条第２項、別表第２、別表第３、別表第５及び附則２１（入学定員に限る）の規定にかかわらず、平成７年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

22.　附則21に定める工業化学工学科の学科名称は、平成８年度から応用化学科とする。

23.　この学則の改正は、平成８年４月１日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部工業化学工学科の名称は、改正後の学則第２条、第22条第２項、別表第２、別表第３、別表第５及び附則２２の規定にかかわらず、平成８年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

24.　第２条及び附則15の定めにかかわらず、情報工学科の入学定員については、平成９年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	情報工学科	１９０名

この学則の改正は、平成９年４月１日から施行する。

25.　この学則の改正は、平成10年４月１日から施行する。

26.　第２条、附則11、附則15及び附則24の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成11年度に限り次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械システム工学科	１３０名
	情報工学科	１９０名

この学則の改正は、平成11年４月１日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部機械システム工学科の名称は、改正後の学則第２条、第22条第２項、別表第２、別表第３、及び別表第５の規定にかかわらず、平成11年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

27.　この学則の改正は、平成12年４月１日から施行する。

ただし、第２条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成12年度の入学定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１６０名
	電気電子工学科	１６８名
	応用化学科	１６４名
	システムデザイン工学科	１２７名
	情報工学科	１７０名

28.　この学則の改正は、平成13年４月１日から施行する。

ただし、第２条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成13年度の入学定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１６０名
	電気電子工学科	１６６名
	応用化学科	１６３名
	システムデザイン工学科	１２４名
	情報工学科	２１５名

29.　この学則の改正は、平成14年４月１日から施行する。

ただし、第２条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成14年度の入学定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１５０名
	電気電子工学科	１４４名
	応用化学科	１５２名
	システムデザイン工学科	１２１名

30.　この学則の改正は、平成15年４月１日から施行する。

ただし、第２条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成15年度の入学定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員
工　学　部	機械工学科	１４６名
	電気電子工学科	１４２名
	応用化学科	１５１名
	システムデザイン工学科	１１７名

なお、工学部情報工学科は、平成15年３月31日をもって廃止する。

また、平成15年３月31日に工学部情報工学科に在学し、平成15年４月１日に情報学部情報工学科に在学する者が、工学部情報工学科で修得した単位は、情報学部情報工学科で修得したものとみなす。

31.　この学則の改正は、平成16年４月１日から施行する。

なお、工学部情報ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科は、平成16年３月31日をもって廃止する。

また、平成16年３月31日に工学部情報ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科に在学し、平成16年４月１日に情報学部情報ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科に在学する者が、工学部情報ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科で修得した単位は、情報学部情報ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科で修得したものとみなす。

32.　この学則の改正は、平成17年４月１日から施行する。

33.　この学則の改正は、平成18年４月１日から施行する。

なお、工学部システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、平成 18 年３月 31 日をもって廃止する。ただし、工学部電気電子工学科、システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、改正後の学則第２条、第 22 条第２項、別表第１、別表第２別表第３、及び別表第５の規定にかかわらず、平成 18 年３月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

34.　この学則の改正は、平成 19 年４月１日から施行する。

35.　この学則の改正は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

なお、工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科は、平成 20 年 3 月 31 日をもって廃止する。また、平成 20 年 3 月 31 日に工学部自動車システム開発工学科、ロボット･メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科に在学し、平成２０年４月１日に創造工学部自動車システム開発工学科及びロボット･メカトロニクス学科並びに応用バイオ科学部応用バイオ科学科に在学する者が、工学部自動車システム開発工学科で修得した単位は、創造工学部自動車システム開発工学科で修得したものとみなし、工学部ロボット･メカトロニクス学科で修得した単位は、創造工学部ロボット･メカトロニクス学科で修得したものとみなし、工学部応用バイオ科学科で修得した単位は、応用バイオ科学部応用バイオ科学科で修得したものとみなす。

36.　この学則の改正は、平成 21 年４月１日から施行する。

37.　この学則の改正は、平成 22 年４月１日から施行する。

38.　この学則の改正は、平成 23 年４月１日から施行する。

39.　この学則の改正は、平成 24 年４月１日から施行する。

40.　この学則の改正は、平成 25 年４月１日から施行する。

41.　この学則の改正は、平成 26 年４月１日から施行する。

42.　この学則の改正は、平成 27 年４月１日から施行する。

43.　この学則の改正は、平成 28 年４月１日から施行する。

44.　この学則の改正は、平成 29 年４月１日から施行する。

45.　この学則の改正は、平成 30 年４月１日から施行する。

46.　この学則の改正は、平成 31 年４月１日から施行する。

なお、留学生別科の第 2 条の 2、第 2 条の 2 の 2、第 2 条の 2 の 3 を削除する。

特別課程に係る修了証明書の交付として第 23 条の 2 を追加する。

47.　この学則の改正は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

なお、工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科は、令和 2 年 3 月 31 日をもって廃止する。また、令和 2 年 3 月 31 日に工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科に在学し、令和 2 年 4 月 1 日に健康医療科学部臨床工学科、管理栄養科学科に在学する者が、工学部臨床工学科で修得した単位は、健康医療科学部臨床工学科で修得したものとみなし、応用バイオ科学部栄養生命科学科で修得した単位は、健康医療科学部管理栄養科学科で修得したものとみなす。加えて、令和 2 年 3 月 31 日に看護学部看護学科に在籍し、令和 2 年 4 月 1 日に健康医療科学部看護学科に在籍する者は、看護学部看護学科で修得した単位は、健康医療科学部看護学科で修得したものとみなす。

48.　この学則の改正は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

なお、学芸員課程は、令和 3 年 3 月 31 日をもって廃止する。

49.　この学則の改正は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

50.　この学則の改正は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

51.　この学則の改正は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

なお、工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科および応用バイオ科学部応用

バイオ科学科は、令和 6 年 3 月 31 日をもって廃止する。ただし、工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット･メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科および応用バイオ科学部応用バイオ科学科は、改正後の学則第２条、第 15 条、第 22 条第 2 項、第 23 条、別表第１、別表第２、別表第３、別表第４および別表第５の規定にかかわらず､令和 6 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

工学部機械工学科

工学部電気電子情報工学科

工学部応用化学生物学科

情報学部

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目			必選別 工学部 機械工学科	必選別 工学部 電気電子情報工学科	必選別 工学部 応用化学生物学科	必選別 情報学部 学科共通	単位数	標準年次
導入系		アカデミックICTスキル	◎	◎	◎	◎	1	1
		専門分野概論　（動機付け教育）	◎	◎	◎	◎	1	1
		理工学入門（数･物･化 補間教育）　*1	○	○	○	○	1	1
		スタディスキル	◎	◎	◎	◎	1	1
倫理系		技術者倫理	◎	◎	□	◎	2	3
		生命倫理	－	－	□	－	2	(1)　3
人文社会系		現代社会講座	◎	◎	◎	◎	2	1
	a群	経済の科学	○	○	○	○	2	2・3
		歴史の科学	○	○	○	○	2	2・3
		社会の科学	○	○	○	○	2	2・3
		文化の科学	○	○	○	○	2	2・3
		グローバル化の科学	○	○	○	○	2	2・3
		心の科学	○	○	○	○	2	2・3
		日本国憲法	○	○	○	○	2	2・3
		環境論	○	○	○	○	2	2・3
		人文社会科学アクティブ演習	○	○	○	○	2	3
		［教職］学校と教育の歴史　*2	○	○	○	○	2	1
		［教職］教育心理学　*2	○	○	○	○	2	1
		［教職］教職概論　*2	○	○	○	○	2	1
	b群	哲学	○	○	○	○	2	3・4
		倫理学	○	○	○	○	2	3・4
		文学	○	○	○	○	2	3・4
		教育学	○	○	○	○	2	3・4
		心理学	○	○	○	○	2	3・4
		［教職］教育相談　*2	○	○	○	○	2	3
		［教職］教育課程論　*2	○	○	○	○	2	3
人文社会系	c群	政治学	○	○	○	○	2	3・4
		経済学	○	○	○	○	2	3・4
		法学	○	○	○	○	2	3・4
		社会学	○	○	○	○	2	3・4
		経営学	○	○	○	○	2	3・4
		［教職］教育行政論　*2	○	○	○	○	2	2
		［教職］総合的な学習の時間の理論と実践　*	○	○	○	○	2	2
健康・スポーツ系		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	○	○	○	○	1	1
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	○	○	○	○	1	1
		身体活動・スポーツ論	○	○	○	○	1	2
		生涯スポーツ実習	○	○	○	○	1	2

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

工学部機械工学科

工学部電気電子情報工学科

工学部応用化学生物学科

情報学部

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目				必選別 工学部 機械工学科	必選別 工学部 電気電子情報工学科	必選別 工学部 応用化学生物学科	必選別 情報学部 学科共通	単位数	標準年次
言語系	英語基礎		英語Ⅰ	○	○	○	○	1	1
			英語Ⅱ	○	○	○	○	1	1
			英語Ⅲ	○	○	○	○	1	1・2
			英語Ⅳ	○	○	○	○	1	1・2
			英語Ⅴ	○	○	○	○	1	2
	言語応用	a群	科学技術英語Ⅰ	○	○	○	○	1	3
			科学技術英語Ⅱ	○	○	○	○	1	3
			英会話Ⅰ	○	○	○	○	1	1
			英会話Ⅱ	○	○	○	○	1	1
			総合英語演習	○	○	○	○	1	1・2
			TOEIC Ⅰ	○	○	○	○	1	2・3
			TOEIC Ⅱ	○	○	○	○	1	3・4
		b群	日本語表現技術	○	○	○	○	2	1・2
			プレゼンテーション技術	○	○	○	○	2	2
			技術文章の書き方	○	○	○	○	2	3
数理情報系	身の回りの数学　*1			◎	◎	◎	◎	2	1・2・3
	実感する科学			◎	◎	◎	◎	2	1
	情報･ＡＩリテラシー　（情報基礎）			◎	◎	◎	◎	2	1
	ＡＩとデータサイエンス（情報応用）			○	○	○	○	2	2
キャリア系	キャリア設計Ⅰ			◎	◎	◎	◎	1	1
	キャリア設計Ⅱ			◎	◎	◎	◎	1	2
	キャリア設計Ⅲ			◎	◎	◎	◎	1	3
	社会人に向けての準備講座			○	○	○	○	1	4
	企業特別講座			○	○	○	○	1	
	インターンシップⅠ			○	○	○	○	2	
	インターンシップⅡ			○	○	○	○	3	
	課題解決型インターンシップ			○	○	○	○	2	
	産学連携プロジェクト			○	○	○	○	2	
合　計								106	

（注）＊１．「身の回りの数学」の配当期は、各学科の時間割で確認すること。

＊２．教職課程履修者のみ受講可とする

別表第１　（２０２４年度入学生）

外国語系科目

授業科目	必 選 別							単位数	標準年次
	工学部			情報学部	健康医療科学部				
	機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学生物学科	学科共通	看護学科	管理栄養学科	臨床工学科		
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	―	2	1・2・3・4
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	―	2	1・2・3・4
海外SDGs研修	△	△	△	△	―	―	―	1	1・2・3・4
合計								5	

(注) １．卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目

授業科目	必 選 別							単位数	標準年次
	工学部			情報学部	健康医療科学部				
	機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学生物学科	学科共通	看護学科	管理栄養学科	臨床工学科		
言語と文化Ⅰ	○	○	○	○	―	―	―	2	2
言語と文化Ⅱ	○	○	○	○	―	―	―	2	2
自己表現法Ⅰ	○	○	○	○	―	―	―	2	3
自己表現法Ⅱ	○	○	○	○	―	―	―	2	3
日本語・日本事情Ⅰ	○	○	○	○	―	―	―	2	1
日本語・日本事情Ⅱ	○	○	○	○	―	―	―	2	1
合計								12	

(注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。
　　2. 人文社会系、言語系の一部科目に読み替えることがある。

【略】

別表第２　専門教育（2024 年度入学生）

工学部	機械工学科
工学部	電気電子情報工学科
工学部	応用化学生物学科
情報学部	情報工学科
情報学部	情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報学部	情報メディア学科
健康医療科学部	看護学科
健康医療科学部	管理栄養学科
健康医療科学部	臨床工学科

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
情報学部 情報システム学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別	単位数	標準年次
専門基礎導入	情報技術基礎導入科目群	プログラミング入門A	◎	3	1
		プログラミング入門B	◎	3	1
		プログラミング入門C	◎	3	1
		コンピュータシステム入門	◎	1	1
		マルチメディア入門	◎	1	1
		ソフトウェア入門	◎	1	1
		ネットワーク入門	◎	1	1
		アルゴリズム入門	◎	1	1
		情報デザイン入門	◎	1	1
		データベース入門	◎	1	1
		情報セキュリティ入門	◎	1	1
		AI/DS導入ユニット	◎	4	2
	情報数理系	線形代数学Ⅰ-a	○	2	1
		線形代数学Ⅰ-b	○	2	1
		線形代数学Ⅱ-a	○	2	2
		線形代数学Ⅱ-b	○	2	2
		微分積分学Ⅰ-c	○	3	2
		微分積分学Ⅰ-d	○	3	2
		微分積分学Ⅱ-c	○	3	2
		微分積分学Ⅱ-d	○	3	2
		離散数学	○	2	2
	情報社会系	情報法規と情報モラル	○	2	3
		情報社会のコミュニケーション	○	2	3
		情報社会と情報倫理	○	2	3
		情報と人間	○	2	3
		情報と知的財産権	○	2	3

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
情報学部 情報システム学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授　業　科　目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	情報システム概論	◎	2	1
	情報システムのための電気電子回路	○	2	1
	情報システムのための力学	○	2	1
	情報システム工学 Ⅰ	○	2	2
	IoTシステム	○	2	2
	情報通信技術	○	2	2
	シミュレーション設計技法 Ⅰ	○	2	2
	情報システム工学Ⅱ	○	2	2
	画像情報処理	○	2	2
	ビッグデータ解析	○	2	2
	シミュレーション設計技法　II	○	2	2
	情報システムと人間科学	○	2	2
	＜ユニットプログラム＞			
	情報システムプログラミング基礎	◎	3	1
	情報システム基礎ユニットⅠ	◎	3	2
	情報システム基礎ユニットⅡ	◎	3	2
専門	情報システムセキュリティ	○	2	3
	サイバー空間技術	○	2	3
	ヒューマンコンピュータインタラクション	○	2	3
	組み込みアプリケーション入門	○	2	3
	組み込みシステム入門	○	2	3
	ロボットメカニズム	○	2	3
	センシングシステム	○	2	3
	次世代通信技術	○	2	3
	ヘルスケアシステム	○	2	3
	ロボットとAI	○	2	3
	組み込みアプリケーション開発	○	2	3
	組み込みシステム設計	○	2	3
	システム制御	○	2	3
	情報システムの社会実装	○	2	3
	＜ユニットプログラム＞			
	情報システム応用ユニット	◎	4	3
	情報システム専門ユニット	◎	4	3
	〈卒業研究関係〉			
	卒研セミナーⅠ	◎	1	4
	卒業研究Ⅰ	◎	3	4
	卒研セミナーⅡ	◎	1	4
	卒業研究Ⅱ	◎	3	4

別表第３　Stop the CO_2プログラム（２０２４年度入学生）

機械－工学部機械工学科

電気－工学部電気電子情報工学科

化生－工学部応用化学生物学科

情工－情報学部情報工学科

情ネ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情メ－情報学部情報メディア学科

情シ－情報学部情報システム学科

看護－健康医療科学部看護学科

栄養－健康医療科学部管理栄養学科

臨床－健康医療科学部臨床工学科

（○選択、△自由、－配当無し）

	授業科目	必選別										単位数	標準年次
		工学部			情報学部				健康医療科学部				
		機械	電気	化生	情工	情ネ	情メ	情シ	看護	栄養	臨床		
［Stop the CO2専用科目群］													
a群	Stop the CO_2入門	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	1
	Stop the CO_2プロジェクトⅠ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	1	1
b群	Stop the CO_2プロジェクトⅡ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
	Stop the CO_2プロジェクトⅢ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3
c群	Stop the CO_2最前線	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
	環境と新エネルギー	○	－	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3
［各学科提供StopTheCO_2関連科目群］													
伝熱工学		［機械工学科開講科目］											
環境・エネルギー		［電気電子情報工学科開講科目］											
エネルギーと電力システム制御		［電気電子情報工学科開講科目］											
環境保全学		［応用化学生物学科開講科目］											
大気・水質環境		［応用化学生物学科開講科目］											
エネルギー化学入門		［応用化学生物学科開講科目］											
微生物学		［応用化学生物学科開講科目］											
生物工学		［応用化学生物学科開講科目］											

１．［Stop the CO2専用科目群・各学科提供StopTheCO2関連科目群］の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。

２．Stop the CO2プログラムの科目から、9単位以上を修得した場合に修了証を交付する。

なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。

【略】

別表第 4- 1　教職課程「教育の基礎的理解に関する科目等」配当表（2024 年度新入生）

別表第 4- 2　教科及び教科の指導法に関する科目①～⑬（2024 年度入学生）

工学部	機械工学科（①中学/技術、②中学/数学、③高校/工業、④高校/数学）
工学部	電気電子情報工学科（⑤中学/技術、⑥中学/数学、⑦高校/工業、⑧高校/数学）
工学部	応用化学生物学科（⑨高校/工業、⑩中学/理科、⑪高校/理科）
情報学部	情報工学科（⑫高校/情報）
健康医療科学部	管理栄養学科（⑬栄養教諭）

別表第４の３　教員免許状の種類（２０２４年度入学生）

<table>
<tr><th colspan="2">免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科</th><th>免 許 状 の 種 類</th><th>免許教科</th></tr>
<tr><td rowspan="6">工　学　部</td><td rowspan="4">機械工学科
電気電子情報工学科</td><td rowspan="2">中学校教諭一種免許状</td><td>技　術</td></tr>
<tr><td>数　学</td></tr>
<tr><td rowspan="2">高等学校教諭一種免許状</td><td>工　業</td></tr>
<tr><td>数　学</td></tr>
<tr><td rowspan="4">応用化学生物学科</td><td>中学校教諭一種免許状</td><td>理　科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">高等学校教諭一種免許状</td><td>工　業</td></tr>
<tr><td>理　科</td></tr>
<tr><td>情 報 学 部</td><td>情報工学科</td><td>高等学校教諭一種免許状</td><td>情　報</td></tr>
<tr><td>健康医療科学部</td><td>管理栄養学科</td><td colspan="2">栄養教諭一種免許状</td></tr>
</table>

別表第４の４　学芸員課程に関する科目

削　除

【略】

別表第５　卒業要件（2024 年度入学生）

工学部	機械工学科
工学部	電気電子情報工学科
工学部	応用化学生物学科
情報学部	情報工学科
情報学部	情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報学部	情報メディア学科
健康医療科学部	看護学科
健康医療科学部	管理栄養学科
健康医療科学部	臨床工学科

別表第５　卒業要件（２０２４年度入学生）

情報学部　情報システム学科

教育区分				必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系			必修	3
	倫理系			必修	2
	人文社会系			必修	2
		a 群		選択	2
		b 群		選択	2
		c 群		選択	2
	健康・スポーツ系			選択	1
	言語系	英語基礎		選択	3
		言語応用	a 群	選択	2
			b 群	選択	2
	数理情報系			必修	6
	キャリア系			必修	3
				選択	2
				（小計）	32
専門教育	専門基礎導入			必修	21
	専門基礎・専門			必修	27
				選択	26
				（小計）	74
任意					18
合計					124

別表第６　入学検定料・学生納付金（２０２４年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料	合計
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学生物学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次　1,370,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円	1年次　1,570,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科 情報システム学科				

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
健康医療科学部 管理栄養学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
			2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
			3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
			4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
健康医療科学部 臨床工学科			1年次	1,460,000円	1年次	1,660,000円
			2年次	1,480,000円	2年次	1,480,000円
			3年次	1,500,000円	3年次	1,500,000円
			4年次	1,520,000円	4年次	1,520,000円
健康医療科学部 看護学科			1年次	1,660,000円	1年次	1,860,000円
			2年次	1,680,000円	2年次	1,680,000円
			3年次	1,700,000円	3年次	1,700,000円
			4年次	1,720,000円	4年次	1,720,000円

（注）1. この表の学生納付金は2024年度以降に入学する学生に適用する。但し、2023年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。

2. 表中の入学検定料①は、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、共通テスト方式(大学入学共通テスト利用による選抜)入試に適用する。

3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。

4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

別表第７　研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金（２０２４年度入学生）

研究生及び科目等履修生の納付金

（１）研究生納付金

費　　目	金　　額	備　　考
入学検定料	１５，０００円	
入　学　金	１００，０００円	本学卒業生は入学金を免除する
授　業　料	２００，０００円	（年額）

（２）科目等履修生の納付金

費　　目	金　　額	備　　考
入学検定料	１５，０００円	
履　修　料	１０，０００円	１単位あたり

（３）特別聴講学生の納付金

費　　目	金　　額	備　　考
授　業　料	１０，０００円	１単位あたり

別表Ａ「教育目的と教育目標」

『考え、行動する人材の育成』　－社会で活躍できる人づくり－

この教育目的を実現するために、以下の４項目を本学の教育目標とする。

（1）創造する力

（2）豊かな人間性

（3）コミュニケーション能力

（4）基礎学力

別表Ｂ「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」

【基礎・教養教育センター】

基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、健康医療系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。

【教職教育センター】

各学科が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教師の育成を目的とする。目標とする人材像は、社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を惹起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教師である。

【工学部】

機械工学、電気電子情報工学、応用化学、生物工学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○機械工学科

機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者、および、機械工学の基礎知識・技能を身に付けた指導者の育成

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者および電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付けた指導者の育成

○応用化学生物学科

化学と生物学に関する基礎的な理論と知識を身に付け、物質や生物の原理や法則の知識をを活かして、人間社会に役立つものを創り出すことができる幅広い職業人の育成

【情報学部】
　情報工学、情報ネットワーク、メディアコンテンツ情報、システムの設計や開発の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題の解決、または新たな情報システムやメディアコンテンツの創作に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○情報工学科
　システム・ソフトウエア技術を基軸とする高度な専門性とともに、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者の育成

○情報ネットワーク・コミュニケーション学科
　情報ネットワークの専門知識・技能を身につけ、それらを活用する力を持ち、社会で活躍できる技術者の育成

○情報メディア学科
　創造性豊かで探求心あふれ、また社会人としての社会的責任と倫理観を持ち、情報メディアとそれを利用するアプリケーションやコンテンツを創作できる人材の育成

○情報システム学科
　情報と情報技術に関する基礎的な知識の体系的・系統的な理解のもとに、情報システムの利用や開発及び管理に関する課題を合理的かつ創造的に解決することができる人材の育成

【健康医療科学部】
　健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成

○看護学科
　看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成

○管理栄養学科
栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成

○臨床工学科
臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成

2024年度　神奈川工科大学学則の一部変更

１．変更事項及び変更理由

(1) 改組・再編に係る第１条の４（人材の養成及び教育研究上の目的）「別表B」の変更

①工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学科の５学科を廃止することに伴い削除する。

②新たに工学部応用化学生物学科、情報学部情報システム学科の２学科を設置することに伴い、追記する。

(2) 改組・再編に係る第２条（学部・学科及び収容定員）の変更

①工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学科の５学科を廃止する。

②新たに工学部応用化学生物学科、情報学部情報システム学科の２学科を設置する。

③大学全体の入学定員、収容定員は変更せず、以下のとおり各学科の入学定員、収容定員を変更する。

イ．工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学科の廃止に伴い、各入学定員を振り替え、工学部応用化学生物学科の入学定員145名、収容定員580名、情報学部情報システム学科の入学定員80名、収容定員320名とする。

ロ．工学部機械工学科の入学定員120名を175名とし、収容定員480名を700名とする。

ハ．工学部電気電子情報工学科の入学定員78名を128名とし、収容定員312名を512名とする。

(3) 改組・再編に係る第23条（学位授与）第１号学士の分野（工学関係）の一部変更

創造工学部および応用バイオ科学部の廃止に伴い、両学部の学位を廃止する。

(4) 改組・再編に係る第15条（授業科目及び単位数）の「別表第1」から「別表第４の３」の変更

①「別表第1」（共通基盤教育）は、創造工学部、応用バイオ科学部の廃止および新学科の設置に伴う変更ならびにカリキュラムの一部を変更する。

②「別表第2」（専門教育）、「別表第3」（Stop the CO_2プログラム）は、創造工学部、応用バイオ科学部の廃止および新学科の設置に伴い変更する。

③「別表第４の２」（教科及び教科の指導法に関する科目）、「別表第４の３」（教員免許状の種類）は、免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科、免許状の種類、免許教科について、一部変更する。

(5) 改組・再編に係る第21条（卒業）の「別表第5」（卒業要件）の変更

創造工学部、応用バイオ科学部の廃止および新学科の設置に伴い変更する。

理由：(1) ～(5)　大学全体の学部学科構成を見直し、改組・再編するため。

２．変更年月日

2024 年 4 月 1 日

３．新旧対照表

別添のとおり

４．備考

情報学部情報システム学科の新設については、2022 年 10 月に文部科学省に提出した事前相談の結果「届出による設置が可能」に基づく 2024 年度学則変更である。

工学部応用化学生物学科の新設については、2023 年 1 月に文部科学省に提出した事前相談に対し、3 月中旬に「届出による設置が可能」との結果を受ける前提での 2024 年度学則変更である。

新旧対照表で提案する内容は、学事会議あるいは理事会、評議員会での審議・意見聴取により一部変更する可能性がある。

以上

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

（２０２４年度入学生）

前 略

（学部・学科及び収容定員）

第　２　条　　本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	175 名	700 名
	電気電子情報工学科	128 名	512 名
	応用化学生物学科	145 名	580 名
情報学部	情報工学科	170 名	680 名
	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110 名	440 名
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	180 名	720 名
	情報ｼｽﾃﾑ学科	80 名	320 名
健康医療科学部	看護学科	80 名	320 名
	管理栄養学科	40 名	160 名
	臨床工学科	40 名	160 名
計		1,148 名	4,592 名

2. 前項の他に教職課程を置く。

第３条から第22条　省略

現行（旧）

（２０２３年度入学生）

前 略

（学部・学科及び収容定員）

第　２　条　　本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	120 名	480 名
	電気電子情報工学科	78 名	312 名
	応用化学科	60 名	240 名
情報学部	情報工学科	170 名	680 名
	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110 名	440 名
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	180 名	720 名
創造工学部	自動車ｼｽﾃﾑ開発工学科	55 名	220 名
	ﾛﾎﾞｯﾄ・ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ学科	50 名	200 名
	ﾎｰﾑｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ開発学科	40 名	160 名
応用ﾊﾞｲｵ科学部	応用ﾊﾞｲｵ科学科	125 名	500 名
健康医療科学部	看護学科	80 名	320 名
	管理栄養学科	40 名	160 名
	臨床工学科	40 名	160 名
計		1,148 名	4,592 名

2. 前項の他に教職課程を置く。

第３条から第22条　省略

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）	現行（旧）
（学位授与） 第　23　条　　本学を卒業した者には、学科の分野により次の学位を授与する。 (1) 学士の分野（工学関係） 工学部　　学士（工学） 情報学部　　学士（工学） 健康医療科学部　臨床工学科　　学士（工学） (2) 学士の分野（家政関係） 健康医療科学部　管理栄養学科　　学士（栄養学） (3) 学士の分野（保険衛生学関係－看護学関係） 健康医療科学部　看護学科　　学士（看護学）	（学位授与） 第　23　条　　本学を卒業した者には、学科の分野により次の学位を授与する。 (1) 学士の分野（工学関係） 工学部　　学士（工学） 情報学部　　学士（工学） 創造工学部　　学士（工学） 応用バイオ科学部　　学士（理工学） 健康医療科学部　臨床工学科　　学士（工学） (2) 学士の分野（家政関係） 健康医療科学部　管理栄養学科　　学士（栄養学） (3) 学士の分野（保険衛生学関係－看護学関係） 健康医療科学部　看護学科　　学士（看護学）
第23条の２から第50条　省略	第23条の２から第50条　省略
附　　則　1．から　49．省略	附　　則　1．から　49．省略
50．この学則の改正は、令和5年4月1日から施行する。 51．この学則の改正は、令和6年4月1日から施行する。 なお、工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科および応用バイオ科学部応用バイオ科学科は、令和6年3月31日をもって廃止する。ただし、工学部応用化学科、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス開発学科および応用バイオ科学部応用バイオ科学科は、改正後の学則第2条、第15条、第22条第2項、第23条、別表第１、別表第２、別表第３、別表第４および別表第５の規定にかかわらず、令和6年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。	50．この学則の改正は、令和5年4月1日から施行する。

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

工学部機械工学科
工学部電気電子情報工学科
工学部応用化学生物学科

情報学部

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

	授業科目	必選別 工学部 機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学生物学科	情報学部 学科共通	単位数	標準年次
導入系	アカデミックICTスキル	◎	◎	◎	◎	1	1
	専門分野概論　（動機付け教育）	◎	◎	◎	◎	1	1
	理工学入門（数･物･化 補間教育）　*1	○	○	○	○	1	1
	スタディスキル	◎	◎	◎	◎	1	1
倫理系	技術者倫理	◎	◎	□	◎	2	3
	生命倫理	－	－	□	－	2	(1)　3
人文社会系	現代社会講座	◎	◎	◎	◎	2	1
a群	経済の科学	○	○	○	○	2	2・3
	歴史の科学	○	○	○	○	2	2・3
	社会の科学	○	○	○	○	2	2・3
	文化の科学	○	○	○	○	2	2・3
	グローバル化の科学	○	○	○	○	2	2・3
	心の科学	○	○	○	○	2	2・3
	日本国憲法	○	○	○	○	2	2・3
	環境論	○	○	○	○	2	2・3
	人文社会科学アクティブ演習	○	○	○	○	2	3
	［教職］学校と教育の歴史　*2	○	○	○	○	2	1
	［教職］教育心理学　*2	○	○	○	○	2	1
	［教職］教職概論　*2	○	○	○	○	2	1
b群	哲学	○	○	○	○	2	3・4
	倫理学	○	○	○	○	2	3・4
	文学	○	○	○	○	2	3・4
	教育学	○	○	○	○	2	3・4
	心理学	○	○	○	○	2	3・4
	［教職］教育相談　*2	○	○	○	○	2	3
	［教職］教育課程論　*2	○	○	○	○	2	3

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）

Ｍ－工学部機械工学科　MM-機械工学コース　ＭＥ-教員養成コース　MF－航空宇宙学コース、　ＭＴ-機械工学特別専攻
Ｅ－工学部電気電子情報工学科　ＥＡ－実践的ｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ､ＥＥ－教員養成コース　ＥＣ－電気主任技術者ｺｰｽ　ＥＴ-電気電子特別専攻
Ｃ－工学部応用化学科　ＣＡ－化学応用コース、ＣＪ－総合化学ｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ、ＣＥ-教員養成（工業）コース　ＣＴ-医生命科学特別専攻

Ｉ－情報学部情報工学科　ＩＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｎ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科　ＮＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｄ－情報学部情報メディア学科　ＤＴ-ICTスペシャリスト特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

	授業科目	必選別 工学部 MM	ME	MF	MT	EA	EE	EC	ET	CA	CJ	CE	CT	情報学部 I	IT	N	NT	D	DT	単位数	標準年次
導入系	スタディスキル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1	1
倫理系	情報社会と情報倫理	○	○	○	□	○	○	○	□	○	○	○	□	◎	□	◎	□	◎	□	2	3
	技術者倫理	○	○	◎	□	○	○	○	□	○	◎	○	□	－	□	－	□	－	□	2	3
	生命倫理	○	○	○	□	○	○	○	□	○	○	○	□	－	□	－	□	－	□	2	3
人文社会系	現代社会講座	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	－	◎	－	◎	－	◎	－	2	1
	新聞理解表現演習Ⅰ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
	新聞理解表現演習Ⅱ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
	実践プレゼンテーション・スキル	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
	社会時事・討論演習	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
	グローバル・コミュニケーション	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
	社会・経済事情	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
a群	暮らしの経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	日本国憲法	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	□	◎	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	日本近現代史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	ヨーロッパの歴史と文化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	アジアの文化と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	少子高齢化と社会問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	マスメディア論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	宗教と倫理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	比較文化論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	芸術論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	社会参加とボランティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	国際化と異文化理解	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	現代社会の心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	環境論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	人文社会科学演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3
	学校と教育の歴史　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1
	教育心理学　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1
	教職概論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1
b群	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
	倫理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
	文学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
	教育学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
	心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・*3
	教育相談　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3
	教育課程論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

工学部機械工学科
工学部電気電子情報工学科
工学部応用化学生物学科

情報学部

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目			必選別 工学部 機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学生物学科	情報学部 学科共通	単位数	標準年次
人文社会系	c群	政治学	○	○	○	○	2	3・4
		経済学	○	○	○	○	2	3・4
		法学	○	○	○	○	2	3・4
		社会学	○	○	○	○	2	3・4
		経営学	○	○	○	○	2	3・4
		［教職］教育行政論　*2	○	○	○	○	2	2
		［教職］総合的な学習の時間の理論と実践	○	○	○	○	2	2
健康・スポーツ系		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	○	○	○	○	1	1
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	○	○	○	○	1	1
		身体活動・スポーツ論	○	○	○	○	1	2
		生涯スポーツ実習	○	○	○	○	1	2
言語系	英語基礎	英語Ⅰ	○	○	○	○	1	1
		英語Ⅱ	○	○	○	○	1	1
		英語Ⅲ	○	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅳ	○	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅴ	○	○	○	○	1	2
	言語応用 a群	科学技術英語Ⅰ	○	○	○	○	1	3
		科学技術英語Ⅱ	○	○	○	○	1	3
		英会話Ⅰ	○	○	○	○	1	1
		英会話Ⅱ	○	○	○	○	1	1
		総合英語演習	○	○	○	○	1	1・2
		TOEIC Ⅰ	○	○	○	○	1	2・3
		TOEIC Ⅱ	○	○	○	○	1	3・4
	言語応用 b群	日本語表現技術	○	○	○	○	2	1・2
		プレゼンテーション技術	○	○	○	○	2	2
		技術文章の書き方	○	○	○	○	2	3

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）

Ｍ－工学部機械工学科　MM-機械工学コース　ＭＥ-教員養成コース　MF－航空宇宙学コース、　ＭＴ-機械工学特別専攻
Ｅ－工学部電気電子情報工学科　ＥＡ－実践的ｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ､ＥＥ－教員養成コース　ＥＣ－電気主任技術者ｺｰｽ　ＥＴ-電気電子特別専攻
Ｃ－工学部応用化学科　ＣＡ－化学応用コース、ＣＪ－総合化学ｴﾝｼﾞﾆｱコース、ＣＥ-教員養成（工業）コース　ＣＴ-医生命科学特別専攻

Ｉ－情報学部情報工学科　ＩＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｎ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科　ＮＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｄ－情報学部情報メディア学科　ＤＴ-ICTスペシャリスト特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目			必選別 工学部 MM	ME	MF	MT	EA	EE	EC	ET	CA	CJ	CE	CT	情報学部 I	IT	N	NT	D	DT	単位数	標準年次
人文社会系	c群	政治学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		経済学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		法学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		社会学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		企業と経営	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		教育行政論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2
		総合的な学習の時間の理論と実践　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2
健康・スポーツ系		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		レクレーションスポーツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	2
		生涯スポーツ実技	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	2
		学外スポーツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1・2・3・4
英語基礎系		英語Ⅰ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	○	－	○	－	1	1
		英語Ⅱ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	1	1
		英語Ⅲ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	1	1・2
		英語Ⅳ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	1	1・2
		英語Ⅴ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	1	2
		英語Ⅵ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	－	1	2
		Reading Ⅰ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
		Reading Ⅱ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
		Reading Ⅲ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
		Reading Ⅳ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
		Listening Ⅰ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
		Listening Ⅱ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
		Listening Ⅲ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
		Listening Ⅳ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	2
言語応用系		科学技術英語Ⅰ	○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	□	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	1	3
		科学技術英語Ⅱ	○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	□	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	1	3
		英会話Ⅰ	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	□	◎	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		英会話Ⅱ	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	□	◎	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		総合英語演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		TOEIC Ⅰ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	□	○	－	○	－	○	－	○	－	1	2・3
		TOEIC Ⅱ	○	○	○	－	○	○	○	－	○	□	○	－	○	－	○	－	○	－	1	3
		Reading and Listening A-Ⅰ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
		Reading and Listening A-Ⅱ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
		Reading and Listening B-Ⅰ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
		Reading and Listening B-Ⅱ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	3
		文章表現技術	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1・2
		日本語表現技術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	□	○	□	○	2	1・2
		プレゼンテーション技術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	□	○	□	○	2	2
		技術文章の書き方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	○	□	○	□	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

工学部機械工学科
工学部電気電子情報工学科
工学部応用化学生物学科

情報学部

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

	授業科目	必選別 工学部 機械工学科	電気電子情報工学科	応用化学生物学科	情報学部 学科共通	単位数	標準年次
数理情報系	身の回りの数学　＊1	◎	◎	◎	◎	2	1・2・3
	実感する科学	◎	◎	◎	◎	2	1
	情報・ＡＩリテラシー　（情報基礎）	◎	◎	◎	◎	2	1
	ＡＩとデータサイエンス（情報応用）	○	○	○	○	2	2
キャリア系	キャリア設計Ⅰ	◎	◎	◎	◎	1	1
	キャリア設計Ⅱ	◎	◎	◎	◎	1	2
	キャリア設計Ⅲ	◎	◎	◎	◎	1	3
	社会人に向けての準備講座	○	○	○	○	1	4
	企業特別講座	○	○	○	○	1	
	インターンシップⅠ	○	○	○	○	2	
	インターンシップⅡ	○	○	○	○	3	
	課題解決型インターンシップ	○	○	○	○	2	
	産学連携プロジェクト	○	○	○	○	2	
合　計						106	

（注）＊1．「身の回りの数学」の配当期は、各学科の時間割で確認すること。
＊2．教職課程履修者のみ受講可とする

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）

Ｍ－工学部機械工学科　MM-機械工学コース　ＭＥ-教員養成コース　MF－航空宇宙学コース、　ＭＴ-機械工学特別専攻
Ｅ－工学部電気電子情報工学科　ＥＡ－実践的ｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ、ＥＥ－教員養成コース　ＥＣ－電気主任技術者ｺｰｽ　ＥＴ-電気電子特別専攻
Ｃ－工学部応用化学科　ＣＡ－化学応用コース、ＣＪ－総合化学ｴﾝｼﾞﾆｱコース、ＣＥ-教員養成（工業）コース　ＣＴ-医生命科学特別専攻

Ｉ－情報学部情報工学科　ＩＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｎ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科　ＮＴ-ICTスペシャリスト特別専攻
Ｄ－情報学部情報メディア学科　ＤＴ-ICTスペシャリスト特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

	授業科目	必選別 工学部 MM	ME	MF	MT	EA	EE	EC	ET	CA	CJ	CE	CT	情報学部 I	IT	N	NT	D	DT	単位数	標準年次
数理情報系	身の回りの数学　＊1	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	2	1・2・3
	実感する科学Ⅰ　＊1	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	2	1・2・3
	実感する科学Ⅱ　＊1	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	－	○	－	○	－	○	2	1・2・3
	情報リテラシー	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	ＡＩとデータサイエンス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2
キャリア系	キャリア設計	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1	1
	キャリア開発	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	早期インターンシップ準備演習	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	1	1
	早期インターンシップ	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	－	◎	－	◎	2	2
	インターンシップⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
	インターンシップⅡ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	3
	課題解決型インターンシップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2・3
合計																				140	

（注）＊1．「身の回りの数学」「実感する科学Ⅰ・Ⅱ」の配当期は、各学科の時間割で確認すること。
＊2．教職課程履修者のみ受講可とする

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

健康医療科学部看護学科
健康医療科学部管理栄養学科
健康医療科学部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目		必選別 健康医療科学部 看護学科	管理栄養学科	臨床工学科	単位数	標準年次
導入系	アカデミックICTスキル	－	－	－	1	1
	専門分野概論　（動機付け教育）	－	－	－	1	1
	理工学入門（数･物･化 補間教育）　*1	－	－	－	1	1
	スタディスキル	◎	◎	◎	1	1
倫理系	技術者倫理	－	－	－	2	3
	生命倫理	◎	◎	◎	2	(1)　3
人文社会系	現代社会講座	◎	－	－	2	1
	a群　経済の科学	－	○	○	2	2・3
	歴史の科学	－	○	○	2	2・3
	社会の科学	－	○	○	2	2・3
	文化の科学	－	○	○	2	2・3
	グローバル化の科学	－	○	○	2	2・3
	心の科学	－	○	○	2	2・3
	日本国憲法	○	○	○	2	2・3
	環境論	○	○	○	2	2・3
	人文社会科学アクティブ演習	－	○	○	2	3
	［教職］学校と教育の歴史　*2	－	○	－	2	1
	［教職］教育心理学　*2	－	○	－	2	1
	［教職］教職概論　*2	－	○	－	2	1

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）
Ｖ－創造工学部自動車システム開発工学科　ＶＥ-教員養成（工業）コース　ＶＴ－次世代自動車開発特別専攻
Ｒ－創造工学部ロボット・メカトロニクス学科　ＲＥ-教員養成コース　ＲＴ-ロボットクリエーター特別専攻
Ｈ－創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科　ＨＳ－健康ｽﾎﾟｰﾂｺｰｽ　ＨＥ-教員養成コース　ＨＴ-電気電子特別専攻
Ｂ－応用バイオ科学部応用バイオ科学科　ＢＬ－生命科学コース　ＢＴ－医生命科学特別専攻

Ｕ－健康医療科学部看護学科
Ｌ－健康医療科学部管理栄養学科
Ａ－健康医療科部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目		必選別 創造工学部 V	VE	VT	R	RE	RT	H	HS	HE	HT	応用バイオ科学部 B	BL	BT	健康医療科学部 U	L	A	単位数	標準年次
導入系	スタディスキル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1	1
倫理系	情報社会と情報倫理	○	○	□	○	○	□	○	○	○	□	－	－	□	－	－	－	2	3
	技術者倫理	○	○	□	○	○	□	◎	◎	◎	□	－	－	□	－	－	－	2	3
	生命倫理	○	○	□	○	○	□	○	○	○	□	◎	◎	□	◎	◎	◎	2	3
人文社会系	現代社会講座	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	－	－	2	1
	新聞理解表現演習Ⅰ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
	新聞理解表現演習Ⅱ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
	実践プレゼンテーション・スキル	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2
	社会時事・討論演習	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2
	グローバル・コミュニケーション	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	社会・経済事情	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	a群　暮らしの経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	日本国憲法	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	日本近現代史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	ヨーロッパの歴史と文化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	アジアの文化と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	少子高齢化と社会問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	マスメディア論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	宗教と倫理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	比較文化論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	芸術論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	社会参加とボランティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	国際化と異文化理解	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	現代社会の心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	環境論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1・2
	人文社会科学演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	3
	学校と教育の歴史　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	1
	教育心理学　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	1
	教職概論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	1

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

健康医療科学部看護学科
健康医療科学部管理栄養学科
健康医療科学部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目			必選別 健康医療科学部 看護学科	管理栄養学科	臨床工学科	単位数	標準年次
人文社会系	b群	哲学	○	○	○	2	3・4
		倫理学	○	○	○	2	3・4
		文学	○	○	○	2	3・4
		教育学	○	○	○	2	3・4
		心理学	○	○	○	2	3・4
		［教職］教育相談　*2	－	○	－	2	3
		［教職］教育課程論　*2	－	○	－	2	3
	c群	政治学	○	○	○	2	3・4
		経済学	○	○	○	2	3・4
		法学	○	○	○	2	3・4
		社会学	－	○	○	2	3・4
		経営学	－	○	○	2	3・4
		［教職］教育行政論　*2	－	○	－	2	2
		［教職］総合的な学習の時間の理論と実践　*	－	○	－	2	2
健康・スポーツ系		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	○	○	○	1	1
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	○	○	○	1	1
		身体活動・スポーツ論	－	○	○	1	2
		生涯スポーツ実習	－	○	○	1	2
言語系	英語基礎	英語Ⅰ	○	○	○	1	1
		英語Ⅱ	○	○	○	1	1
		英語Ⅲ	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅳ	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅴ	－	○	－	1	2

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）

Ｖ－創造工学部自動車システム開発工学科　ＶＥ-教員養成（工業）コース　ＶＴ－次世代自動車開発特別専攻
Ｒ－創造工学部ロボット・メカトロニクス学科　ＲＥ-教員養成コース　ＲＴ-ロボットクリエーター特別専攻
Ｈ－創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科　ＨＳ－健康ｽﾎﾟｰﾂｺｰｽ　ＨＥ-教員養成コース　ＨＴ-電気電子特別専攻
Ｂ－応用バイオ科学部応用バイオ科学科　ＢＬ－生命科学コース　ＢＴ－医生命科学特別専攻

Ｕ－健康医療科学部看護学科
Ｌ－健康医療科学部管理栄養学科
Ａ－健康医療科部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目			必選別 創造工学部 V	VE	VT	R	RE	RT	H	HS	HE	HT	応用バイオ科学部 B	BL	BT	健康医療科学部 U	L	A	単位数	標準年次
人文社会系	b群	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		倫理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		文学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		教育学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・*3
		教育相談　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3
		教育課程論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3
	c群	政治学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		経済学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		法学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2・3
		社会学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	2・3
		企業と経営	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	2・3
		教育行政論　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
		総合的な学習の時間の理論と実践　*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
健康・スポーツ系		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1
		レクレーションスポーツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	1	2
		生涯スポーツ実技	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	1	2
		学外スポーツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	1	1・2・3・4
英語基礎系		英語Ⅰ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	○	1	1
		英語Ⅱ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	○	1	1
		英語Ⅲ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅳ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	○	1	1・2
		英語Ⅴ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	－	○	－	1	2
		英語Ⅵ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	－	○	－	1	2
		Reading Ⅰ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
		Reading Ⅱ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
		Reading Ⅲ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2
		Reading Ⅳ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2
		Listening Ⅰ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
		Listening Ⅱ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
		Listening Ⅲ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2
		Listening Ⅳ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	2

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）

別表第１　共通基盤教育（２０２４年度入学生）

健康医療科学部看護学科
健康医療科学部管理栄養学科
健康医療科学部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目				必選別 健康医療科学部 看護学科	管理栄養学科	臨床工学科	単位数	標準次年
言語系	言語応用	a群	科学技術英語Ⅰ	◎	○	－	1	3
			科学技術英語Ⅱ	－	○	－	1	3
			英会話Ⅰ	○	○	○	1	1
			英会話Ⅱ	○	○	○	1	1
			総合英語演習	－	○	○	1	1・2
			TOEIC Ⅰ	－	○	－	1	2・3
			TOEIC Ⅱ	－	○	－	1	3・4
		b群	日本語表現技術	◎	○	○	2	1・2
			プレゼンテーション技術	◎	○	○	2	2
			技術文章の書き方	－	○	○	2	3
数理情報系			身の回りの数学　＊1	－	◎	－	2	1・2・3
			実感する科学	－	◎	－	2	1
			情報・ＡＩリテラシー（情報基礎）	◎	◎	◎	2	1
			ＡＩとデータサイエンス（情報応用）	－	－	－	2	2
キャリア系			キャリア設計Ⅰ	－	－	－	1	1
			キャリア設計Ⅱ	－	－	－	1	2
			キャリア設計Ⅲ	－	－	－	1	3
			社会人に向けての準備講座	－	－	－	1	4
			企業特別講座	－	－	－	1	
			インターンシップⅠ	－	－	－	2	
			インターンシップⅡ	－	－	－	3	
			課題解決型インターンシップ	－	－	－	2	
			産学連携プロジェクト	－	－	－	2	
合計							106	

（注）＊1．「身の回りの数学」の配当期は、各学科の時間割で確認すること。
＊2．教職課程履修者のみ受講可とする

現行（旧）

別表第１　共通基盤教育（２０２３年度入学生）

Ｖ－創造工学部自動車システム開発工学科　ＶＥ-教員養成（工業）コース　ＶＴ－次世代自動車開発特別専攻
Ｒ－創造工学部ロボット・メカトロニクス学科　ＲＥ-教員養成コース　ＲＴ-ロボットクリエーター特別専攻
Ｈ－創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科　ＨＳ－健康ｽﾎﾟｰﾂｺｰｽ　ＨＥ-教員養成コース　ＨＴ-電気電子特別専攻
Ｂ－応用バイオ科学部応用バイオ科学科　ＢＬ－生命科学コース　ＢＴ－医生命科学特別専攻

Ｕ－健康医療科学部看護学科
Ｌ－健康医療科学部管理栄養学科
Ａ－健康医療科部臨床工学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

授業科目		必選別 創造工学部 Ｖ	VE	VT	R	RE	RT	H	HS	HE	HT	応用バイオ科学部 B	BL	BT	健康医療科学部 U	L	A	単位数	標準年次
言語応用系	科学技術英語Ⅰ	○	○	◎	－	－	◎	○	○	○	◎	－	－	◎	◎	○	－	1	3
	科学技術英語Ⅱ	○	○	◎	－	－	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	－	1	3
	英会話Ⅰ	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1
	英会話Ⅱ	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1
	総合英語演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	1	1
	TOEIC Ⅰ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	－	1	2・3
	TOEIC Ⅱ	○	○	－	○	○	－	○	○	○	－	○	○	－	○	○	－	1	3
	Reading and Listening A-Ⅰ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	Reading and Listening A-Ⅱ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	Reading and Listening B-Ⅰ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	Reading and Listening B-Ⅱ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	3
	文章表現技術	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	◎	－	－	2	1・2
	日本語表現技術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	1・2
	プレゼンテーション技術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	2	2
	技術文章の書き方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	2	3
数理情報系	身の回りの数学　＊1	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	－	◎	－	2	1・2・3
	実感する科学Ⅰ　＊1	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	－	◎	－	2	1・2・3
	実感する科学Ⅱ　＊1	－	－	○	－	－	○	◎	◎	－	○	－	－	○	－	－	－	2	1・2・3
	情報リテラシー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	ＡＩとデータサイエンス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	2	2
キャリア系	キャリア設計	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	1	1
	キャリア開発	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	2	1
	早期インターンシップ準備演習	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	1	1
	早期インターンシップ	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	－	◎	－	－	－	2	2
	インターンシップⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	2	2・3
	インターンシップⅡ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	3	3
	課題解決型インターンシップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	2	1・2・3
合計																		140	

（注）＊1．「身の回りの数学」「実感する科学Ⅰ・Ⅱ」の配当期は、各学科の時間割で確認すること。
＊2．教職課程履修者のみ受講可とする

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 工学部 応用化学科 Ａ：化学応用コース　Ｊ：総合化学エンジニアコース　Ｅ：教員養成コース（工業）　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 A	必選別 J	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎導入	a群	微分積分学Ⅰ-c	□	□	□	－	3	1
		微分積分学Ⅰ-d	□	□	□	－	3	1
		線形代数学	－	－	－	○	3	1
		線形代数学I-a	□	◎	□	－	2	1
		確率統計	□	○	□	－	2	2
		解析学I	－	－	－	◎	3	1
		微分方程式	－	－	－	○	3	2
		確率統計S	－	－	－	◎	2	1
	基礎力学Ⅰ－a		◎	◎	◎	－	2	2
	基礎力学Ⅱ－a		○	◎	○	－	2	2
	基礎電磁気学Ⅰ－a		◎	◎	◎	－	2	3
	基礎電磁気学Ⅱ－a		○	◎	○	－	2	3
	物理学Ａ		－	－	－	◎	3	1
	物理学Ｂ		－	－	－	○	3	1
	物理学Ｃ		－	－	－	○	2	2
	物理学Ｄ		－	－	－	○	2	2
	物理・化学ユニットプログラム		○	○	○	○	3	3
	b群	基礎化学Ⅰ－b	□	□	□	－	2	1
		基礎化学Ⅰ－d	□	□	□	－	3	1
	c群	基礎化学Ⅱ－b	○	○	○	－	2	1
		基礎化学Ⅱ－d	○	○	○	－	3	1
	化学Ａ		－	－	－	◎	2	1
	化学Ｂ		－	－	－	◎	2	1
	基礎生物学		○	○	○	－	2	2
	生物学概論Ⅰ		○	○	○	－	2	1・2
	生物学概論Ⅱ		○	○	○	－	2	1・2
	地学概論Ⅰ		○	○	○	－	2	2
	地学概論Ⅱ		○	○	○	－	2	2
	ライフサイエンス		－	－	－	◎	2	1
	目的設定能力を涵養する		○	○	○	○	1	1
	目的意識を明確化する		○	○	○	○	1	1

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 工学部 応用化学科 Ａ：化学応用コース　Ｊ：総合化学エンジニアコース　Ｅ：教員養成コース（工業）　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分			授業科目	必選別 A	必選別 J	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎			卒業研究体験実習	◎	◎	◎	◎	1	1
			化学基礎演習	◎	◎	◎	○	1	1
			コンピュータ技術の応用	○	◎	○	○	2	2
			分析化学	◎	◎	◎	◎	2	1
			環境化学実験	◎	◎	◎	◎	2	1
			合成化学実験ユニットプログラム	◎	◎	◎	◎	3	2
			溶液の性質と熱力学	◎	◎	◎	◎	2	2
			環境化学・環境生物	◎	◎	◎	○	2	2
			化学技術と分離操作	○	◎	◎	○	2	3
			医科学概論	－	－	－	◎	2	1
	d群		地球と生命の元素	□	－	□	－	2	1
			非金属元素の化学	□	◎	□	◎	2	1
	e群		身の回りの金属元素	□	－	□	－	2	2
			金属元素の化学	□	◎	□	◎	2	2
	f群		有機医薬品化学入門	□	－	□	－	2	1
			基礎有機化学	□	◎	□	◎	2	1
	g群		医薬品の効果と反応	□	－	□	－	2	2
			有機官能基の化学	□	◎	□	◎	2	2
	h群		化学反応はなぜ進行するのか	□	－	□	－	2	2
			物理化学基礎	□	◎	□	◎	2	2
	i群		化学反応の応用技術	□	－	□	－	2	2
			化学工学基礎	□	◎	□	◎	2	2
	j群		物理化学実験ユニットプログラム	□	－	□	－	3	2
			物理化学実験ユニットプログラムＪ	□	◎	□	◎	3	2
専門	専門デザイン	マテリアルデザイン	医薬・有機合成入門	○	□	○	◎	2	2
			有機反応化学	○	□	○	◎	2	3
			高分子化学	○	□	○	○	2	3
			エネルギー材料化学	○	□	○	○	2	3
			医薬品合成化学	○	□	○	◎	2	3
		環境・バイオデザイン	生体物質化学	○	□	○	○	2	2
			大気・水質環境 ＊	○	□	○	○	2	3
			環境化学計測	○	□	○	○	2	3
		エネルギーデザイン	エネルギー化学入門 ＊	○	□	○	○	2	2
			化学プラント工学	○	□	○	○	2	3
			化学反応工学	○	□	○	○	2	3
			エネルギーシステムデザイン	○	□	○	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

廃止

現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２３年度入学生）
工学部 応用化学科
Ａ：化学応用コース　Ｊ：総合化学エンジニアコース　Ｅ：教員養成コース（工業）　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 A	必選別 J	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	k群	応用化学実験	□	－	□	－	2	3
		応用化学実験Ｊ	□	◎	□	◎	2	3
		生物化学実験	○	◎	○	◎	1	3
		総合物理学概論	○	○	○	○	2	3
		総合化学概論	○	○	○	○	2	3
		生理学	－	－	－	◎	2	2
		薬理学	－	－	－	◎	2	3
		生命機能材料化学	○	○	○	◎	2	3
		基礎医学	－	－	－	◎	2	2
		免疫化学	－	－	－	◎	2	3
		エンジニアリング・デザインと生物模倣技術	○	○	－	－	2	3
		１年生特別専攻ゼミⅠ	○	○	○	◎	1	1
		１年生特別専攻ゼミⅡ	－	－	－	◎	1	1
		２年生特別専攻ゼミⅠ	－	－	－	◎	1	2
		２年生特別専攻ゼミⅡ	－	－	－	◎	1	2
		３年生特別専攻ゼミ	－	－	－	◎	1	3
		海外化学研修Ⅰ	○	○	○	○	2	1・2・3
		国際化学実験	○	○	○	○	1	1・2・3
		企業における課題と解決を学ぶ	◎	◎	◎	－	2	3
	卒研準備群	機器分析ユニットプログラム	□	□	◎	○	4	3
		特別専攻海外研修	－	－	－	□	2	3
		海外化学研修Ⅱ	□	□	○	□	4	3
	l群	卒業研究	□	－	□	－	6	4
		卒業研究Ｊ	□	◎	－	－	6	4
		卒業研究Ｅ	－	－	□	－	6	4
		卒業研究（特別専攻）	－	－	－	◎	6	4
	m群	総合化学ゼミ	○	◎	○	◎	1	4
		卒研ゼミＥ	－	－	○	－	1	4
	（検定プログラム）							
		甲種危険物取扱者（検定）	○	○	○	○	2	
		技術英語能力検定（検定）	○	○	○	－	2	
		公害防止管理者（検定）	○	○	○	－	2	
		鉛作業主任者（検定）	○	○	○	－	1	
		特定化学物質および四ｱﾙｷﾙ鉛等作業主任者（検定）	○	○	○	－	1	
		有機溶剤作業主任者　（検定）	○	○	○	－	1	
		ガス溶接技能者（検定）	○	○	○	－	1	

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

廃止

現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２３年度入学生）
工学部 応用化学科
Ａ：化学応用コース　Ｊ：総合化学エンジニアコース　Ｅ：教員養成コース（工業）　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目	必選別 A	必選別 J	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	（オナーズプログラム）						
	プレ卒業研究Ⅰ	○	○	○	－	1	1
	プレ卒業研究Ⅱ	○	○	○	－	1	2
	プレ卒業研究Ⅲ	○	○	○	－	1	2
	プレ卒業研究Ⅳ	○	○	○	－	1	3
	プレ卒業研究Ⅴ	○	○	○	－	1	3
	（Stop the CO2 プログラム）						
	Stop the CO_2 入門	○	○	○	－	2	1
	Stop the CO_2 プロジェクトⅠ	○	○	○	－	1	1
	Stop the CO_2 プロジェクトⅡ	○	○	○	－	2	2
	Stop the CO_2 プロジェクトⅢ	○	○	○	－	2	3
	Stop the CO_2 最前線	○	○	○	－	2	2
	環境と新エネルギー	○	○	○	－	2	3
	（教職（工業））						
	教職科目（工業）群 工業概論	(注1)卒業要件単位数には含まない。かつ、教職課程登録者のみ履修可		◎	(注1)左記に同じ	2	1
	職業指導Ⅰ			◎		1	3
	職業指導Ⅱ			○		1	3
	工業科教育法Ⅰ			◎		2	3
	工業科教育法Ⅱ			◎		2	3
	教育コンテンツ開発実践			○		2	2
	教育パフォーマンス実践			○		2	2
	ティーチャーズ実践			○		2	2
合計		Ａ：179 Ｊ：156 Ｅ：192 Ｔ：134					
（教職（理科）関連）							
地学実験 理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ		別表第４－２参照 (注2)卒業要件単位数には含まない。 (注3)教職課程登録者のみ履修可。					

＊ Stop the CO2関連科目

（注）１．「専門基礎導入」の科目（□選択必修）の履修について
Aコース・Eコース【 a群から2科目以上修得すること、b群から1科目を択一し修得すること 】
Jコース【 a群から1科目を択一し修得すること、 b群から1科目を択一し修得すること 】
２．「専門基礎」の科目（□選択必修）の履修について
Aコース・Eコースでは、d～jの各群より1科目を択一して修得すること
３．「専門」の専門デザインの科目（□選択必修）の履修について
Jコース【 3つの専門デザインのうち、択一した専門デザインから3科目以上修得すること 】
４．「専門」の科目（□選択必修）の履修について
Aコース・Eコース　【いずれのコースも、k群から1科目を択一し修得すること、l群から1科目を択一し修得すること 】
５．「専門」の卒研準備群は、Aコース、Jコース、Tコース【 いずれも、1科目を択一し修得する
６．「専門」の検定プログラムは、Aコース、Jコース、Eコース、Tコース【 いずれも、６単位までを上限とする 】
７．a群の「微分積分学Ⅰ－c」と「微分積分学Ⅰ－d」はいずれか1科目のみ単位修得できる。
また、c群、m群では、各群より1科目のみ単位修得できる。

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
工学部 応用化学生物学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 応用化学生物学科	単位数	標準年次
専門教育科目	専門基礎科目	微分積分学Ⅰ－c	◎	3	1
		線形代数学Ⅰ－a	○	2	2
		確率統計	○	2	2
		基礎化学Ⅰ－a	○	2	1
		基礎化学Ⅰ－b	○	2	1
		基礎化学Ⅱ－a	○	2	1
		基礎化学Ⅱ－b	○	2	1
		基礎力学Ⅰ－a	○	2	2
		基礎力学Ⅱ－a	○	2	2
		基礎電磁気学Ⅰ－a	○	2	3
		基礎電磁気学Ⅱ－a	○	2	3
		地学概論Ⅰ	○	2	2
		地学概論Ⅱ	○	2	2
		物理・化学ユニットプログラム	○	3	3
		データサイエンスプログラム入門	○	2	2
		統計データ解析基礎	○	2	2
	専門基本科目	応用化学概論	◎	4	1
		生物工学概論	◎	4	1
		有機化学	◎	2	1
		分析化学	◎	2	1
		生化学Ⅰ	○	2	2
		生化学Ⅱ	○	2	2・3
		物理化学基礎	○	2	2
		化学工学基礎	○	2	2
	専門基幹科目	地球と生命の元素	○	2	2
		非金属元素の化学	○	2	2
		身の回りの金属元素	○	2	2
		金属元素の化学	○	2	2
		医薬品の効果と反応	○	2	2
		有機官能基の化学	○	2	2
		化学反応はなぜ進行するのか	○	2	2
		化学反応の応用技術	○	2	2
		バイオ工学基礎	○	2	2
		生物無機化学	○	2	2
		生物有機化学	○	1	2
		バイオ物理化学Ⅰ	○	2	2
		バイオ物理化学Ⅱ	○	2	2
		微生物学　*1	○	2	2
		分子生物学	○	2	2
		細胞生物学	○	2	2
		遺伝子工学	○	2	2

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
工学部 応用化学生物学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 応用化学生物学科	単位数	標準年次
専門教育科目	専門応用科目	化学反応工学	○	2	3
		化学技術と分離操作	○	2	3
		化学と生活入門	○	2	2
		マテリアル反応化学	○	2	3
		ライフ材料化学	○	2	3
		高分子科学	○	2	3
		エネルギー化学入門　*1	○	2	2
		エネルギー材料化学	○	2	3
		化学プラント工学	○	2	3
		エネルギーシステムデザイン	○	2	3
		応用微生物学	○	2	2
		発生生物学基礎	○	2	2
		進化生物学Ⅰ	○	2	2
		進化生物学Ⅱ	○	2	2
		海洋生物学	○	2	3
		植物科学	○	2	3
		植物バイオテクノロジー	○	2	3
		動物バイオテクノロジー	○	1	3
		生物工学　*1	○	1	3
		バイオ製品科学	○	2	2
		機器分析	○	2	2
		エンジニアリング・デザインと生物模倣技術	○	2	3
		生命科学Ⅰ	◎	2	1
		生命科学Ⅱ	◎	3	1
		生命有機化学Ⅰ	○	3	2
		生命有機化学Ⅱ	○	2	3
		生命物理化学	○	2	2
		免疫化学	○	2	3
		神経生物学	○	2	3
		発生生物学	○	2	3
		進化生態学	○	4	3
		脳科学	○	2	3
		バイオインフォマティクス	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
工学部 応用化学生物学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 応用化学生物学科	単位数	標準年次
専門教育科目	専門関連科目	環境科学	○	2	2
		大気・水質環境　*1	○	2	3
		環境工学	○	2	3
		環境保全学　*1	○	2	3
		環境化学計測	○	2	3
		医薬・有機合成入門	○	2	2
		医薬品合成化学	○	2	3
		基礎医学	○	2	2
		公衆衛生学	○	2	2
		薬理学	○	2	3
		化粧品科学	○	2	3
		食品機能化学	○	2	2
		食品衛生学	○	2	2
		食品分析学	○	2	3
		食品加工学	○	2	3
	専門演習科目	生命化学演習	○	1	3
		生物科学演習	○	1	3
		総合ゼミⅠ	○	1	4
		総合ゼミⅡ	○	1	4
		研究実践ゼミナール	○	1	3
	専門実験科目	応用化学・生物工学ユニットプログラムⅠ	◎	4	1
		応用化学・生物工学ユニットプログラムⅡ	◎	4	1
		合成化学実験ユニットプログラム	○	3	2
		物理化学実験ユニットプログラム	○	3	3
		応用化学実験	○	2	3
		環境化学実験	○	2	3
		微生物学実験	○	2	2
		生化学実験	○	2	2
		応用バイオ実験	○	2	3
		応用バイオユニットプログラム	○	4	3
		応用バイオプロジェクト	○	1	3
		機器分析ユニットプログラム	○	4	3
		国際化学実験	○	1	1・2・3・4
		バイオ特別実験	○	1	1・2・3・4
		生命科学実験Ⅰ	○	2	2
		生命科学実験Ⅱ	○	2	3
		生命科学ユニットプログラム	○	4	3
	専門研究科目	プレ卒業研究Ⅰ	○	1	2
		プレ卒業研究Ⅱ	○	1	2
		プレ卒業研究Ⅲ	○	1	3
		プレ卒業研究Ⅳ	○	1	3
		卒業研究Ⅰ	◎	3	4
		卒業研究Ⅱ	◎	3	4

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
工学部 応用化学生物学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 応用化学生物学科	単位数	標準年次
専門教育科目	専門実践科目	海外化学研修Ⅰ	○	2	1・2・3
		海外化学研修Ⅱ	○	4	3
		海外バイオ研修Ⅰ	○	2	1・2・3
		海外バイオ研修Ⅱ	○	4	3
		国際コミュニティバイオ英語Ⅰ	○	1	2
		国際コミュニティバイオ英語Ⅱ	○	1	3
		中級IT国家資格取得支援講義	○	2	3
		企業における課題と解決を学ぶ	○	2	3
（教職関連）					
		工業概論 職業指導Ⅰ 職業指導Ⅱ 地学実験 工業科教育法Ⅰ 工業科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ	別表第４－２参照 （注１）卒業要件単位数には含まない。 （注２）教職課程登録者のみ履修可。		

備考
＊1　Stop the CO2 関連科目

※「海外バイオ研修Ⅰ」は「バイオ特別実験」を履修していることがのぞましい。
「海外バイオ研修Ⅱ」は「国際コミュニティバイオ英語Ⅰ・Ⅱ」を履修していることがのぞましい。

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
情報学部 情報システム学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別	単位数	標準年次
専門基礎導入	情報技術基礎導入科目群	プログラミング入門A	◎	3	1
		プログラミング入門B	◎	3	1
		プログラミング入門C	◎	3	1
		コンピュータシステム入門	◎	1	1
		マルチメディア入門	◎	1	1
		ソフトウェア入門	◎	1	1
		ネットワーク入門	◎	1	1
		アルゴリズム入門	◎	1	1
		情報デザイン入門	◎	1	1
		データベース入門	◎	1	1
		情報セキュリティ入門	◎	1	1
		AI/DS導入ユニット	◎	4	2
	情報数理系	線形代数学Ⅰ-a	○	2	1
		線形代数学Ⅰ-b	○	2	1
		線形代数学Ⅱ-a	○	2	2
		線形代数学Ⅱ-b	○	2	2
		微分積分学Ⅰ-c	○	3	2
		微分積分学Ⅰ-d	○	3	2
		微分積分学Ⅱ-c	○	3	2
		微分積分学Ⅱ-d	○	3	2
		離散数学	○	2	2
	情報社会系	情報法規と情報モラル	○	2	3
		情報社会のコミュニケーション	○	2	3
		情報社会と情報倫理	○	2	3
		情報と人間	○	2	3
		情報と知的財産権	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２４年度入学生）
情報学部 情報システム学科

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授　業　科　目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	情報システム概論	◎	2	1
	情報システムのための電気電子回路	○	2	1
	情報システムのための力学	○	2	1
	情報システム工学Ⅰ	○	2	2
	IoTシステム	○	2	2
	情報通信技術	○	2	2
	シミュレーション設計技法Ⅰ	○	2	2
	情報システム工学Ⅱ	○	2	2
	画像情報処理	○	2	2
	ビッグデータ解析	○	2	2
	シミュレーション設計技法　II	○	2	2
	情報システムと人間科学	○	2	2
	＜ユニットプログラム＞			
	情報システムプログラミング基礎	◎	3	1
	情報システム基礎ユニットⅠ	◎	3	2
	情報システム基礎ユニットⅡ	◎	3	2
専門	情報システムセキュリティ	○	2	3
	サイバー空間技術	○	2	3
	ヒューマンコンピュータインタラクション	○	2	3
	組み込みアプリケーション入門	○	2	3
	組み込みシステム入門	○	2	3
	ロボットメカニズム	○	2	3
	センシングシステム	○	2	3
	次世代通信技術	○	2	3
	ヘルスケアシステム	○	2	3
	ロボットとAI	○	2	3
	組み込みアプリケーション開発	○	2	3
	組み込みシステム設計	○	2	3
	システム制御	○	2	3
	情報システムの社会実装	○	2	3
	＜ユニットプログラム＞			
	情報システム応用ユニット	◎	4	3
	情報システム専門ユニット	◎	4	3
	〈卒業研究関係〉			
	卒研セミナーⅠ	◎	1	4
	卒業研究Ⅰ	◎	3	4
	卒研セミナーⅡ	◎	1	4
	卒業研究Ⅱ	◎	3	4

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部　自動車システム開発工学科 Ａ：一般　Ｅ：教員養成コース(工業)　Ｔ：次世代自動車開発特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 A	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎導入	a群	微分積分学Ⅰ－c	□	□	-	3	1
		微分積分学Ⅰ－d	□	□	◎	3	1
	b群	基礎数学	□	-	-	2	1
		微分積分学Ⅱ－c	□	□	-	3	1・2
		微分積分学Ⅱ－d	□	□	◎	3	1
	微分方程式		-	-	◎	3	2
	c群	線形代数学Ⅰ－a	□	□	-	2	1
		線形代数学Ⅰ－b	□	□	-	2	1
	d群	線形代数学Ⅱ－a	□	□	-	2	1
		線形代数学Ⅱ－b	□	□	-	2	1
	線形代数学		-	-	◎	3	1
	機械系数学		◎	◎	-	2	2
	ベクトル解析		-	-	○	2	2
	確率統計		○	○	-	2	2
	確率統計Ｓ		-	-	○	2	1
	フーリエ解析		-	-	○	2	2
	e群	基礎力学Ⅰ－a	■	■	-	2	1
		基礎力学Ⅰ－c	□	□	-	3	1
		基礎力学Ⅰ－d	□	□	-	3	1
	f群	基礎力学Ⅱ－a	■	■	-	2	2
		基礎力学Ⅱ－c	□	□	-	3	1
		基礎力学Ⅱ－d	□	□	-	3	1
	g群	基礎電磁気学Ⅰ－a	□	□	-	2	1
		基礎電磁気学Ⅰ－b	□	□	-	2	1
	h群	基礎電磁気学Ⅱ－a	□	□	-	2	1
		基礎電磁気学Ⅱ－b	□	□	-	2	1
	物理学Ａ		-	-	◎	3	1
	物理学Ｂ		-	-	◎	3	1
	物理学Ｃ		-	-	◎	2	2
	物理学Ｄ		-	-	○	2	2
	振動と波動		-	-	○	2	2
	熱・統計物理学		○	○	○	2	3
	量子物理		○	○	○	2	3
	基礎化学Ⅰ－a		○	○	-	2	3
	化学Ａ		-	-	◎	2	1
	化学Ｂ		-	-	○	2	1
	物理･化学ユニットプログラム		◎	◎	◎	3	1
	ライフサイエンス		-	-	○	2	1
専門基礎	学部共通	ものづくりデザインの基礎	○	○	○	2	2
		プログラミング基礎	○	○	○	2	1
		基礎電気回路	◎	◎	◎	2	2
	創造工学部 V科専門基礎	工学基礎演習Ⅰ	○	-	-	1	1
		工学基礎演習Ⅱ	○	-	-	1	1
		基礎製図	◎	◎	◎	2	1
		自動車のための情報・通信入門	◎	◎	◎	2	2
		自動車要素設計Ⅰ	◎	◎	◎	2	2
		自動車要素設計Ⅱ	◎	◎	◎	2	2
		機械力学	◎	◎	◎	2	2
		材料力学	○	○	○	2	2
		熱力学	○	○	○	2	2
		流体力学	○	○	○	2	2

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部　自動車システム開発工学科 Ａ：一般　Ｅ：教員養成コース（工業）　Ｔ：次世代自動車開発特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 A	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	インテリジェント化	データ解析と人工知能	○	○	○	2	2
		制御工学	○	○	□	2	3
		次世代自動運転	○	○	□	2	3
	電気自動車	カーエレクトロニクス	○	○	○	2	2
		次世代自動車動力	○	○	□	2	3
	先進自動車性能	マルチボディダイナミクス	○	○	□	2	2
		次世代自動車力学	○	○	□	2	3
		カーエアロダイナミクス	○	○	□	2	3
		機構学	○	○	○	2	3
		次世代自動車安全	○	○	□	2	3
	スマート・ストラクチャー	自動車開発プロセス概論	○	○	○	2	2
		材料強度力学	○	○	□	2	3
	環境・交通	応用熱力学	○	○	□	2	2
		自動車エンジン工学 ＊	○	○	○	2	3
	教職科目群	工業概論	-	◎	-	2	1
		職業指導Ⅰ	-	◎	-	1	3
		職業指導Ⅱ	-	○	-	1	3
		工業科教育法Ⅰ	-	◎	-	2	3
		工業科教育法Ⅱ	-	◎	-	2	3
		教育コンテンツ開発実践	-	○	-	2	2
		教育パフォーマンス実践	-	○	-	2	2
		ティーチャーズ実践	-	○	-	2	
	（ユニットプログラム）						
		自動車システム工学プロジェクト入門	◎	◎	-	2	1
		自動車システム工学プロジェクトⅠ	○	○	-	2	2
		自動車システム工学プロジェクトⅡ	○	○	-	2	2
		自動車設計プロジェクト	○	○	-	2	2
		自動車開発プロジェクトⅠ	○	○	-	2	3
		自動車開発プロジェクトⅡ	○	○	-	2	3

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部　自動車システム開発工学科 Ａ：一般　Ｅ：教員養成コース(工業)　Ｔ：次世代自動車開発特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授　業　科　目	必選別 A	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	次世代自動車開発プロジェクトⅠ	-	-	◎	2	2
	次世代自動車開発プロジェクトⅡ	-	-	○	2	2
	次世代自動車開発プロジェクトⅢ	-	-	○	2	2
	次世代自動車開発プロジェクトⅣ	-	-	○	2	3
	次世代自動車開発プロジェクトⅤ	-	-	○	2	3
	（総合科目）					
	自動車工学概論	◎	◎	◎	1	1
	１年生特別専攻ゼミⅠ	-	-	◎	1	1
	１年生特別専攻ゼミⅡ	-	-	◎	1	1
	２年生特別専攻ゼミⅠ	-	-	◎	1	2
	２年生特別専攻ゼミⅡ	-	-	◎	1	2
	海外自動車工学研修	○	○	-	2	2
	海外自動車工学研修S	-	-	○	2	3
	輪講	○	○	○	2	4
	卒業研究	◎	◎	◎	6	4
合計					Ａ：134 Ｅ：144 Ｔ：118	

（教職関連）

工業概論 職業指導Ⅰ 職業指導Ⅱ 工業科教育法Ⅰ 工業科教育法Ⅱ	別表第４－２　参照 (注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。

（Stop the CO_2 プログラム）

Stop the CO_2 入門 Stop the CO_2 プロジェクトⅠ Stop the CO_2 プロジェクトⅡ Stop the CO_2 プロジェクトⅢ Stop the CO_2 最前線 環境と新エネルギー	Stop the CO2 プログラム 別表第３参照 (注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。

＊：Stop the CO_2関連科目

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 Ｓ：一般　Ｅ：教員養成コース　Ｔ：ロボットクリエータ特別専攻 （◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授業科目	必選別 S	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎導入		基礎数学	○	○	－	2	1
		解析学Ⅰ	－	－	◎	3	1
		線形代数学	－	－	◎	3	1
		確率統計Ｓ	－	－	◎	2	1
	a群	離散数学	－	－	□	2	2
		ベクトル解析	－	－	□	2	2
		フーリエ解析	－	－	□	2	2
		微分方程式	－	－	□	3	2
		微分積分学Ⅰ-c	○	○	－	3	1
		微分積分学Ⅰ-d	○	○	－	3	1
		微分積分学Ⅱ-c	○	○	－	3	2
		微分積分学Ⅱ-d	○	○	－	3	2
		線形代数学Ⅰ-a	○	○	－	2	2
		線形代数学Ⅰ-b	○	○	－	2	2
		線形代数学Ⅱ-a	○	○	－	2	2
		線形代数学Ⅱ-b	○	○	－	2	2
		物理学Ａ	－	－	◎	3	2
	b群	物理学Ｂ	－	－	□	3	2
		化学Ａ	－	－	□	2	2
		ライフサイエンス	－	－	□	2	2
		物理学Ｃ	－	－	○	2	3
		物理学Ｄ	－	－	○	2	3
		化学Ｂ	－	－	○	2	2
		基礎力学Ⅰ-a	○	○	－	2	1
		基礎力学Ⅰ-b	○	○	－	2	1
		基礎力学Ⅱ-a	○	○	－	2	1
		基礎力学Ⅱ-b	○	○	－	2	1
		振動と波動	○	○	○	2	2
		物理・化学ユニットプログラム	○	○	－	3	2
専門基礎	創造工学部共通科目群	ものづくりデザインの基礎	○	○	○	2	2
		基礎電気回路	◎	◎	○	2	1
		回路設計入門	◎	◎	－	2	1
		組み込みソフトウェア設計	◎	◎	○	2	2
		情報通信技術	◎	◎	○	2	3
		センサ工学	◎	◎	－	2	3
	ロボット・人間特性基礎科目群	プログラミング	◎	◎	○	2	1
		応用力学	◎	◎	○	2	1
		ロボット工学概論	◎	◎	－	2	1
		設計製図	◎	◎	－	2	2
		コンピュータアーキテクチャ	○	○	○	2	1
		人間工学	○	○	○	2	2
		生活ニーズと支援技術	○	○	○	2	1

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 Ｓ：一般　Ｅ：教員養成コース　Ｔ：ロボットクリエータ特別専攻 （◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分		授　業　科　目	必選別 Ｓ	必選別 Ｅ	必選別 Ｔ	単位数	標準年次
専門	ロボット・人間特性応用科目群	機構学	□	□	□	2	2
		材料力学	□	□	□	2	2
		機械力学	□	□	□	2	2
		制御工学	□	□	□	2	2
		ＣＡＤ	□	□	□	2	2
		アナログ回路	□	□	□	2	2
		ディジタル回路	□	□	□	2	2
		ロボットシミュレーション	□	□	□	2	2
		ロボット運動学	□	□	□	2	2
		組み込み機器入門	□	□	□	2	3
		Android開発入門	□	□	□	2	3
		身体動作の科学	□	□	□	2	2
		加齢と運動機能	□	□	□	2	2
	ロボット・人間特性発展科目群	流れ学	○	○	○	2	3
		画像処理工学	○	○	○	2	3
		知能情報処理	○	○	○	2	3
		ロボットとＡＩ	○	○	○	2	3
		メカトロニクス	○	○	○	2	3
		ロボット製品設計	○	○	○	2	3
		ヒューマン・ロボットインタラクション	○	○	○	2	3
		ハードウェア記述言語	○	○	○	2	3
		ロボットビークル	○	○	○	2	3
		組み込み機器設計	○	○	○	2	3
		Android開発実践	○	○	○	2	3
		認知行動科学論	○	○	○	2	2
		人間工学計測法	○	○	○	2	3
	ユニットプログラム	ロボメカ基礎ユニットⅠ	○	○	○	4	1
		ロボメカ基礎ユニットⅡ	○	○	○	4	1
		ロボット開発設計ユニットⅠ	○	－	－	4	2
		ロボット開発設計ユニットⅡ	○	－	－	4	2
		ロボット開発設計ユニットⅢ	○	－	－	4	3
		ロボット開発設計ユニットⅣ	○	－	－	4	3
		ロボット教材開発ユニットⅠ	－	○	－	4	2
		ロボット教材開発ユニットⅡ	－	○	－	4	2
		ロボット教材開発ユニットⅢ	－	○	－	4	3
		ロボット教材開発ユニットⅣ	－	○	－	4	3
	特別専攻科目群	ロボットクリエータ養成ゼミⅠ	－	－	◎	1	1
		ロボットクリエータ養成ゼミⅡ	－	－	◎	1	1
		ロボットクリエータ養成ゼミⅢ	－	－	◎	1	2
		ロボットクリエータ養成ゼミⅣ	－	－	◎	1	2
		ロボットクリエータ養成ゼミⅤ	－	－	◎	1	3
		ロボットクリエータ養成ゼミⅥ	－	－	◎	1	3
		次世代ロボット開発Ⅰ（ロボット機械要素技術）	－	－	◎	2	1
		次世代ロボット開発Ⅱ（ロボット電子要素技術）	－	－	◎	2	1
		次世代ロボット開発Ⅲ（ロボット制御技術）	－	－	◎	2	2
		次世代ロボット開発Ⅳ（ロボット通信技術）	－	－	◎	2	2
		次世代ロボット開発Ⅴ（自律ロボット技術）	－	－	◎	2	3
		次世代ロボット開発Ⅵ（ロボット知能化技術）（集中講義）	－	－	◎	2	3
		アドバンストロボティックス	－	－	○	2	2
		ネットワークロボティックス	－	－	○	2	2
		ロボットインテリジェンス	－	－	○	2	3

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 Ｓ：一般　Ｅ：教員養成コース　Ｔ：ロボットクリエータ特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分			授業科目	必選別 S	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	教職科目群	C群	工業概論	※1	□	※1	2	1
			職業指導Ⅰ		□		2	3
			職業指導Ⅱ		□		2	3
			工業科教育法Ⅰ		□		2	3
			工業科教育法Ⅱ		□		2	3
		d群	機械概論		□		2	1
			電気概論		□		2	1
			栽培概論		□		2	1
			金属加工概論		□		2	2
			木材加工概論		□		2	2
			情報とコンピュータ概論		□		2	2
			環境・エネルギー		○		2	2
			エネルギーと電力システム制御		○		2	3
			技術科教育法Ⅰ		□		2	2
			技術科教育法Ⅱ		□		2	2
			技術科教育法Ⅲ		□		2	3
			技術科教育法Ⅳ		□		2	3
			教育コンテンツ開発実践	－	○	－	2	2
			教育パフォーマンス実践	－	○	－	2	2
			教員研修実践	－	○	－	2	3
専門			輪講	◎	◎	◎	2	4
			卒業研究	◎	◎	◎	6	4
		プロジェクト系認定	プロジェクト研究実践Ⅰ	○	○	○	2	1・2・3
			プロジェクト研究実践Ⅱ	○	○	○	2	1・2・3
			プロジェクト研究実践Ⅲ	○	○	○	2	1・2・3
			プロジェクト研究実践Ⅳ	○	○	○	2	1・2・3
			プロジェクト研究実践Ⅴ	○	○	○	2	1・2・3
			プロジェクト研究実践Ⅵ	○	○	○	2	1・2・3
			特別専攻海外創造工学研修	－	－	◎	2	
			海外創造工学研修	○	○	－	2	1・2・3・4
		資格系認定	MOS検定（WORD）	○	○	○	1	1・2・3・4
			MOS検定（EXCEL）	○	○	○	1	1・2・3・4
			初級情報処理技術者試験（検定）	○	○	○	2	1・2・3・4
			基本情報処理技術者試験（検定）	○	○	○	2	1・2・3・4
合計							Ｓ：165 Ｅ：205 Ｔ：165	

（Stop the CO_2 プログラム）

Stop the CO_2 入門 Stop the CO2 ライフデザイン Stop the CO_2 プロジェクトⅠ Stop the CO_2 プロジェクトⅡ Stop the CO_2 プロジェクトⅢ Stop the CO_2 最前線 環境と新エネルギー 新素材と省エネ技術	Stop the CO_2 プログラム 別表第４-４参照 (注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。

※1 卒業要件には含まない。教職課程登録者のみ履修可。

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 Ａ：一般　　Ｓ：健康スポーツコース　　Ｅ：教員養成コース　　Ｔ：電気電子特別専攻 （◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 A	必選別 S	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎導入	基礎数学		○	○	○	－	2	1
	a群	微分積分学Ⅰ-c	□	□	□	－	3	1
		微分積分学Ⅰ-d	□	□	□	－	3	1
	解析学Ⅰ		－	－	－	◎	3	1
	微分方程式		－	－	－	○	3	2
	線形代数学		－	－	－	◎	3	1
	電気電子数学		◎	◎	◎	○	3	1
	確率統計Ｓ		－	－	－	○	2	1
	ベクトル解析		－	－	－	○	2	2
	フーリエ解析		－	－	－	○	2	2
	基礎力学Ⅰ-d		◎	◎	◎	－	3	1
	基礎力学Ⅱ-d		○	○	○	－	3	1
	基礎電磁気学Ⅰ-b		◎	◎	◎	－	2	2
	基礎電磁気学Ⅱ-b		◎	◎	◎	－	2	3
	物理学A		－	－	－	◎	3	1
	物理学B		－	－	－	◎	3	1
	物理学C		－	－	－	○	2	2
	物理学D		－	－	－	○	2	2
	振動と波動		○	○	○	○	2	2
	量子物理		○	○	○	○	2	3
	物理・化学ユニットプログラム		◎	◎	◎	◎	3	2
	基礎化学Ⅰ-a		○	○	○	－	2	1
	化学A		－	－	－	○	2	1
	化学B		－	－	－	○	2	1
	基礎生物学		○	○	○	－	2	2
	ライフサイエンス		－	－	－	○	2	1
専門基礎 特別専攻	電気磁気学Ⅰ		－	－	－	◎	3	2
	電気磁気学Ⅱ		－	－	－	◎	3	2
	回路解析Ⅰ		－	－	－	◎	3	2
	回路解析Ⅱ		－	－	－	◎	3	2
専門基礎	創造工学部共通	ものづくりデザインの基礎	○	○	○	○	2	2
		電気電子回路Ⅰ　*1，*2，*3	◎	◎	◎	◎	3	1
		電気電子回路Ⅱ　*1，*2，*3	◎	◎	◎	◎	3	1
		電気電子回路Ⅲ　*1	◎	◎	◎	◎	3	2
		情報技術の基礎　*1	◎	◎	◎	◎	2	1
		C言語プログラム　*1	◎	◎	◎	◎	2	1
		センサと計測技術　*1	◎	◎	◎	○	3	3
		メカトロニクスの基礎　*1，*2，*3	◎	◎	◎	◎	2	2

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 Ａ：一般　　Ｓ：健康スポーツコース　　Ｅ：教員養成コース　　Ｔ：電気電子特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 A	必選別 S	必選別 E	必選別 T	単位数	標準年次
専門	b群	家電製品と組込み技術 *1,*2,*3	□	－	◎	◎	2	2
		健康スポーツと組込み技術 *4	□	◎	－	－	2	2
	c群	スマートハウスとエネルギー管理 *1,*3,*5,*6	□	－	◎	○	2	3
		電気屋内配線設計Ⅰ *4,*7	□	◎	－	－	2	2・3
	d群	電気電子工学	□	－	◎	◎	2	3
		電気屋内配線設計Ⅱ *4,*7	□	◎	－	－	2	2・3
	e群	ホームエレクトロニクス *1,*2,*3,*6	□	－	◎	○	2	3
		スポーツと電気設備 *4,*7	□	◎	－	－	2	3
	f群	電気電子回路設計 *1,*2,*3	□	－	◎	◎	3	3
		健康・美容家電設計 *4	□	◎	－	－	3	3
	ロボット家電と制御 *1		◎	◎	◎	○	2	3
	家電製品と電気法規 *1		○	○	○	○	2	3
	プロダクトデザインと3DCAD *1		○	○	○	○	2	2
	スマートハウスと製図 *1		◎	◎	◎	○	2	3
	デジタル音響機器と信号処理 *1,*6		○	○	○	○	2	3
	環境・エネルギー *8		○	○	○	○	2	2
	情報通信技術とその応用 *8		○	○	○	○	2	3
	教職科目	木材加工概論 *1,*2	*9		◎	*9	2	1
		金属加工概論 *1,*2			◎		2	1
		機械概論 *1,*2			◎		2	1
		電気概論 *1,*2			◎		2	1
		栽培概論 *1,*2			○		2	1
		情報とコンピュータ概論 *1,*2			○		2	1
		ティーチャーズ実践 *1,*7			○		2	
		教育コンテンツ開発実践 *1			○		2	2
		教育パフォーマンス実践 *1			○		2	2
		技術科教育法Ⅰ *1,*2			○		2	2
		技術科教育法Ⅱ *1,*2			○		2	2
		技術科教育法Ⅲ *1,*2			○		2	3
		技術科教育法Ⅳ *1,*2			○		2	3
		工業概論 *1,*3			◎		2	1
		職業指導Ⅰ *1,*3			◎		1	3
		職業指導Ⅱ *1,*3			○		1	3
		工業科教育法Ⅰ *1,*3			○		2	3
		工業科教育法Ⅱ *1,*3			○		2	3
	（創造工学部共通）							
	企業連携学習		○	○	○	○	2	2・3
	（問題解決型ユニットプログラム）							
	ものづくりプロジェクトⅠ *1		◎	◎	◎	◎	2	1
	ものづくりプロジェクトⅡ *1		◎	◎	◎	◎	2	2
	ものづくりチャレンジプロジェクト		○	○	○	○	2	1・2・3・4
	g群	企業連携プロジェクト入門 *1	□	－	◎	◎	2	2
		スポーツ科学プロジェクト入門 *4	□	◎	－	－	2	2
	h群	企業連携プロジェクトⅠ *1,*10	□	－	◎	◎	3	3
		スポーツ科学プロジェクトⅠ *4	□	◎	－	－	3	3

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	

別表第２　専門教育（２０２３年度入学生）
創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科
Ａ：一般　　Ｓ：健康スポーツコース　　Ｅ：教員養成コース　　Ｔ：電気電子特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 A	S	E	T	単位数	標準年次
専門	i群	企業連携プロジェクトⅡ　*1, *10	□	－	◎	◎	3	3
		スポーツ科学プロジェクトⅡ　*4	□	◎	－	－	3	3
	海外創造工学研修		○	○	○	○	2	
	（卒業研究関係）							
	ホームエレクトロニクス開発ゼミ		◎	◎	◎	◎	2	4
	１年生特別専攻ゼミⅠ		－	－	－	◎	1	1
	１年生特別専攻ゼミⅡ		－	－	－	◎	1	1
	２年生特別専攻ゼミⅠ		－	－	－	◎	1	2
	２年生特別専攻ゼミⅡ		－	－	－	◎	1	2
	特別専攻海外研修		－	－	－	◎	2	3
	i群	卒業制作プロジェクト　*10	□	□	□	－	6	4
		卒業研究　*10	□	□	□	◎	6	4
	（認定）							
	家電技術者検定Ⅰ		○	○	○	○	2	
	家電技術者検定Ⅱ		○	○	○	○	2	
	家電情報技術者検定Ⅰ		○	○	○	○	2	
	家電情報技術者検定Ⅱ		○	○	○	○	2	
	LabVIEWアカデミー検定		○	○	○	○	2	
	（集中講座）							
	エレクトロニクス入門講座(認定)		○	○	○	○	2	
	マイコン回路設計講座　*1		○	○	○	○	2	
	FPGA設計講座　*8		○	○	○	○	2	1・2・3・4
	LabVIEW特訓講座		○	○	○	○	2	
	電験三種支援講座（検定）		○	○	○	○	2	
	ロボットプログラム制御の基礎		○	○	○	○	1	
	高圧電気工事技術（座学）　*11 *12		○	○	○	○	2	2・3・4
	高圧電気工事技術（実技）　*11		○	○	○	○	2	2・3・4
	（Stop the CO_2 プログラム）							
	Stop the CO_2 入門		○	○	○	－	2	1
	Stop the CO_2 プロジェクトⅠ		○	○	○	－	1	1
	Stop the CO_2 プロジェクトⅡ		○	○	○	－	2	2
	Stop the CO_2 プロジェクトⅢ		○	○	○	－	2	3
	Stop the CO_2 最前線		○	○	○	－	2	2
	環境と新エネルギー		○	○	○	－	2	3
合計							A:164 S:145 E:179 T:155	

（注）*1：教職用科目
*2：教職用科目（中学/技術・必修）
*3：教職用科目（高校/工業・必修）
*4：健康スポーツコース科目
*5：Stop the CO2関連科目
*6：電気電子特別専攻選択科目
*7：一部集中実習で実施
*8：一般コースの学生への開講期は４年次となる。
　また履修に関しては履修条件（104単位以上修得およびGPA 2.0以上）がある。
*9：一般コース、健康スポーツコースは卒業要件単位数には含まない。教職課程登録者のみ履修可。
*10：教員養成コースは教育系テーマを選択可。
*11：第2種電気工事士免許取得者のみ履修可能
*12：第1種電気工事士筆記試験免除者は履修しなくても良い

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 応用バイオ科学部　応用バイオ科学科 Ｂ：応用バイオコース　　Ｌ：生命科学コース　　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目	必選別 B	必選別 L	必選別 T	単位数	標準年次
専門基礎導入	微分積分学Ⅰ-c	－	◎	－	3	1
	基礎力学Ⅰ-a	○	◎	－	2	1
	基礎力学Ⅱ-a	○	○	－	2	1
	基礎電磁気学Ⅰ-a	○	◎	－	2	2
	物理・化学ユニットプログラム	◎	◎	◎	3	1
	基礎化学Ⅰ-a	○	◎	－	2	1
	基礎化学Ⅱ-a	○	◎	－	2	1
	地学概論Ⅰ	○	○	○	2	2
	地学概論Ⅱ	○	○	○	2	2
	解析学Ⅰ	－	－	◎	3	1
	微分方程式	－	－	○	3	2
	線形代数学	－	－	○	3	1
	確率統計S	－	－	◎	2	1
	物理学A	－	－	◎	3	1
	物理学B	－	－	○	3	1
	物理学C	－	－	○	2	2
	物理学D	－	－	○	2	2
	化学A	－	－	◎	2	1
	化学B	－	－	◎	2	1
	ライフサイエンス	－	－	◎	2	1
専門基礎	生命科学Ⅰ	◎	◎	○	2	1
	生命科学Ⅱ	◎	◎	○	2	1
	微生物学	○	○	○	2	1
	バイオ工学基礎	◎	－	○	1	1
	バイオ物理化学Ⅰ	○	○	○	2	1
	バイオ物理化学Ⅱ	○	◎	○	2	2
	生化学入門	◎	－	○	2	1
	分析化学	◎	－	◎	2	1
	生物統計学基礎	－	◎	－	2	1
	有機化学	◎	◎	◎	2	1
	生物無機化学	○	○	○	2	2
	進化生物学Ⅰ	－	◎	－	2	1
	進化生物学Ⅱ	－	◎	－	2	2
	化学・生物学基礎実験	－	－	◎	2	1
	化学・生物学基礎ユニットプログラム	◎	◎	－	4	1
	バイオ基礎ユニットプログラム	◎	－	◎	3	1
	生命科学基礎ユニットプログラム	－	◎	－	4	1
	医科学概論	－	－	◎	2	1
	初年次ゼミナール	－	○	－	1	1

※下線の部分は変更箇所

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 応用バイオ科学部　応用バイオ科学科 Ｂ：応用バイオコース　　Ｌ：生命科学コース　　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授業科目		必選別 B	必選別 L	必選別 T	単位数	標準年次
専門	細胞生物学		○	◎	○	2	2
	分子生物学		○	◎	○	2	2
	遺伝子工学*1		○	□	○	2	2
	応用微生物学		○	－	○	2	2
	植物バイオテクノロジー*1		○	□	○	2	3
	動物バイオテクノロジー		○	－	○	2	3
	バイオ機器分析ユニットプログラム		◎	－	◎	4	2
	機器分析実験		◎	－	○	2	3
	生物工学		○	－	○	2	3
	生物有機化学		○	◎	◎	2	2
	生化学Ⅰ		◎	◎	◎	2	2
	生化学Ⅱ		◎	◎	◎	2	2・3
	高分子科学*1		○	□	○	2	3
	食品化学・微生物学実験		◎	◎	◎	2	2
	生化学実験		◎	－	◎	2	2
	応用バイオ科学実験		◎	－	○	2	3
	生命科学実験Ⅰ		－	◎	－	2	2
	生命科学実験Ⅱ		－	◎	－	2	3
	生命科学ユニットプログラム*2		－	□	－	4	3
	生物化学演習*3		－	□	－	1	3
	生命科学演習*3		－	□	－	1	3
	機器分析		○	－	－	2	3
	データサイエンスプログラム入門		－	◎	－	2	2
	統計データ解析基礎		－	◎	－	2	2
	バイオインフォマティクス		○	○	○	2	3
	中級IT国家資格取得支援講義		－	○	－	2	3
	環境	公衆衛生学	○	－	○	2	2
		環境科学	○	－	－	2	2
		環境工学	○	－	－	2	3
		環境保全学	○	－	－	2	3
	ライフサイエンス	基礎医学	○	○	◎	2	2
		病態薬理学	○	－	○	2	3
		免疫化学*1	○	□	◎	2	3
		化粧品科学*1	○	□	○	2	3
		生理活性物質化学	○	－	○	2	3
	食品	食品機能化学*1	○	□	○	2	2
		食品衛生学	○	－	－	2	2
		食品分析学	○	－	－	2	3
		食品加工学*1	○	□	－	2	3
		分子栄養学	○	－	－	2	3

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第２　専門教育（２０２３年度入学生） 応用バイオ科学部　応用バイオ科学科 Ｂ：応用バイオコース　　Ｌ：生命科学コース　　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授　業　科　目	必選別 B	必選別 L	必選別 T	単位数	標準年次
専門	生理学	－	－	◎	2	2
	薬理学	－	－	◎	2	3
	生命機能材料化学	－	－	◎	2	3
	有機反応化学	－	－	◎	2	3
	医薬品合成化学	－	－	◎	2	3
	植物科学*1	○	□	－	2	3
	生命有機化学Ⅰ	○	○	－	2	2
	生命有機化学Ⅱ*1	－	□	－	2	3
	発生生物学基礎	－	◎	－	2	2
	発生生物学*1	－	□	－	2	3
	神経生物学	－	◎	－	2	3
	生命物理化学	－	◎	－	2	2
	脳科学*1	○	□	－	2	3
	海洋生物学*1	－	□	－	2	3
	進化生態学*1	－	□	－	2	3
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝと生物模倣技術*1	－	□	－	2	3
	先端バイオ科学	○	－	○	2	3
	バイオ製品科学	○	○	○	2	2
	１年生特別専攻ゼミⅠ	－	－	◎	1	1
	１年生特別専攻ゼミⅡ	－	－	◎	1	1
	２年生特別専攻ゼミⅠ	－	－	◎	1	2
	２年生特別専攻ゼミⅡ	－	－	◎	1	2
	３年生特別専攻ゼミ	－	－	◎	1	3
	輪講	◎	◎	◎	2	4
	卒業研究	◎	◎	◎	6	4
	（オプショナルプログラム）					
	バイオ総合演習Ⅰ	○	－	○	1	2
	バイオ総合演習Ⅱ	○	－	○	1	3
	機器分析特別実験	○	－	○	2	3
	課題研究Ⅰ	○	○	－	1	1・2
	課題研究Ⅱ	○	○	－	1	2・3
	国際コミュニティバイオ英語Ⅰ	○	○	○	1	2
	国際コミュニティバイオ英語Ⅱ	○	○	○	1	3
	海外バイオ研修Ⅰ	○	○	○	2	1・2・3
	海外バイオ研修Ⅱ*2	○	□	□	4	3
	特別専攻海外研修	－	－	□	2	3
	研究実践ゼミナール	－	○	－	1	3
	バイオ特別実験	○	○	○	1	1・2・3

※下線の部分は変更箇所

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

廃止

現行（旧）

別表第２　専門教育（２０２３年度入学生）
応用バイオ科学部　応用バイオ科学科
Ｂ：応用バイオコース　　Ｌ：生命科学コース　　Ｔ：医生命科学特別専攻

（◎必修、□選択必修、○選択、－配当なし）

教育区分	授　業　科　目	必選別 B	必選別 L	必選別 T	単位数	標準年次
専門	（認定）					
	バイオ技術者中級（検定）	○	○	○	2	2
	バイオ技術者上級（検定）	○	○	○	2	3
	化粧品成分検定（検定）	○	○	○	1	3
	基本情報技術者(検定)	○	○	○	2	3
合計					B:149 L:146 T:159	

□選択必修科目の卒業要件について(BLコース)
*1 発展プログラム科目：これらの科目のうちから4科目以上選択履修し、8単位以上修得すること
*2 「生命科学ユニットプログラム」及び「海外バイオ研修II」のうちから4単位以上修得すること
*3 「生物科学演習」及び「生命化学演習」のうちから1単位以上修得すること

（Stop the CO_2 プログラム）	
Stop the CO_2 入門 Stop the CO_2 プロジェクトⅠ Stop the CO_2 プロジェクトⅡ Stop the CO_2 プロジェクトⅢ Stop the CO_2 最前線 環境と新エネルギー	Stop the CO2 プログラム 別表第３参照 (注)卒業要件上、修得後の単位については、 任意として集計される。

（教職関連）	
地学実験 理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ	別表第４－２　参照 (注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。

※下線の部分は変更箇所

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表第３　Stop the CO_2プログラム（２０２４年度入学生）

機械－工学部機械工学科
電気－工学部電気電子情報工学科
化生－工学部応用化学生物学科
情工－情報学部情報工学科
情ネ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情メ－情報学部情報メディア学科
情シ－情報学部情報システム学科

看護－健康医療科学部看護学科
栄養－健康医療科学部管理栄養学科
臨床－健康医療科学部臨床工学科

（○選択、△自由、－配当無し）

	授業科目	必選別										単位数	標準年次
		工学部			情報学部				健康医療科学部				
		機械	電気	化生	情工	情ネ	情メ	情シ	看護	栄養	臨床		
［Stop the CO2専用科目群］													
a群	Stop the CO_2入門	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	1
	Stop the CO_2プロジェクトⅠ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	1	1
b群	Stop the CO_2プロジェクトⅡ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
	Stop the CO_2プロジェクトⅢ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3
c群	Stop the CO_2最前線	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	2	2
	環境と新エネルギー	○	－	○	○	○	○	○	－	○	－	2	3

［各学科提供StopTheCO$_2$関連科目群］

伝熱工学　［機械工学科開講科目］
環境・エネルギー　［電気電子情報工学科開講科目］
エネルギーと電力システム制御　［電気電子情報工学科開講科目］
環境保全学　［応用化学生物学科開講科目］
大気・水質環境　［応用化学生物学科開講科目］
エネルギー化学入門　［応用化学生物学科開講科目］

微生物学　［応用化学生物学科開講科目］
生物工学　［応用化学生物学科開講科目］

１．［Stop the CO2専用科目群・各学科提供StopTheCO2関連科目群］の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。
２．Stop the CO2プログラムの科目から、9単位以上を修得した場合に修了証を交付する。
　なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。

現行（旧）

別表第３　Stop the CO_2プログラム（２０２３年度入学生）

Ｍ－工学部機械工学科（MM 機械工学コース、ME 教員養成コース、MF 航空宇宙学専攻）
Ｅ－工学部電気電子情報工学科（EA 実践的ｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ、EE 教員養成コース、EC 電気主任技術者ｺｰｽ）
Ｃ－工学部応用化学科（CA 化学応用コース、CE 教員養成コース、、CI 総合化学エンジニアコース）
Ｉ－情報学部情報工学科
Ｎ－情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科
Ｄ－情報学部情報メディア学科
Ｖ－創造工学部自動車システム開発工学科（VA 一般コース、VE 教員養成コース）
Ｒ－創造工学部ロボット・メカトロニクス学科（RS 一般コース、RE 教員養成コース）
Ｈ－創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科（HA 一般コース、HS 健康ｽﾎﾟｰﾂｺｰｽ、HE 教員養成コース）
Ｂ－応用バイオ科学部応用バイオ科学科（BB 応用バイオコース、BL 生命科学コース）
Ｕ－健康医療科学部看護学科
Ｌ－健康医療科学部管理栄養学科
Ａ－健康医療科学部臨床工学科

特別専攻－機械工学、電気電子、医生命科学、ＩＣＴスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエータ

（○選択、△自由、－配当無し）

	授業科目	必選別															単位数	標準年次
		工学部				情報学部			創造工学部			――	健康医療科学部			特別専攻		
		MM/ME	MF	E	C	I	N	D	V	R	H	B	U	L	A			
［Stop the CO$_2$専用科目群］																		
a群	Stop the CO_2入門	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	2	1
	Stop the CO_2プロジェクトⅠ	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	1	1
b群	Stop the CO_2プロジェクトⅡ	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	2	2
	Stop the CO_2プロジェクトⅢ	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	2	3
c群	Stop the CO_2最前線	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	2	2
	環境と新エネルギー	○	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	2	3

［各学科提供StopTheCO$_2$関連科目群］

伝熱工学　［M科開講科目］
環境・エネルギー　［E科開講科目］
エネルギーと電力システム制御　［E科開講科目］
環境保全・エコロジー　［C科開講科目］
大気・水質環境　［C科開講科目］
エネルギー化学入門　［C科開講科目］
自動車エンジン工学　［V科開講科目］
スマートハウスとエネルギー管理　［H科開講科目］
微生物学　［B科開講科目］
生物工学　［B科開講科目］

１．［Stop the CO2専用科目群・各学科提供StopTheCO2関連科目群］の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。
２．Stop the CO2プログラムの科目から、9単位以上を修得した場合に修了証を交付する。
　なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑨　（２０２４年度入学生）

応用化学生物学科（高校／工業）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		環境化学実験	◎	2	1	
		化学反応の応用技術	□	2	2	
		化学工学基礎	□	2	2	
		応用化学実験	□	2	3	
		分析化学	◎	2	1	
		身の回りの金属元素	○	2	2	
		金属元素の化学	○	2	2	
		医薬品の効果と反応	○	2	2	
		有機官能基の化学	○	2	2	
		マテリアル反応化学	○	2	3	
		医薬品合成化学	○	2	3	
		機器分析ユニットプログラム	◎	4	3	
		大気・水質環境	○	2	3	
		環境化学計測	○	2	3	
		医薬・有機合成入門	○	2	2	
		エネルギー材料化学	○	2	3	
		化学技術と分離操作	◎	2	3	
		化学プラント工学	○	2	3	
		化学反応工学	○	2	3	
		エネルギー化学入門	○	2	2	
		エネルギーシステムデザイン	○	2	3	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数（選択必修含む）：高等学校教諭一種　40単位以上						

現行（旧）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑨　（２０２３年度入学生）

応用化学科（高校／工業）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		環境化学実験	◎	2	1	
		化学反応の応用技術	□	2	2	
		化学工学基礎	□	2	2	
		応用化学実験	□	2	3	
		応用化学実験Ⅰ	□	2	3	
		分析化学	◎	2	1	
		身の回りの金属元素	○	2	2	
		金属元素の化学	○	2	2	
		医薬品の効果と反応	○	2	2	
		有機官能基の化学	○	2	2	
		有機反応化学	○	2	3	
		医薬品合成化学	○	2	3	
		機器分析ユニットプログラム	◎	4	3	
		大気・水質環境	○	2	3	
		環境化学計測	○	2	3	
		医薬・有機合成入門	○	2	2	
		エネルギー材料化学	○	2	3	
		化学技術と分離操作	◎	2	3	
		化学プラント工学	○	2	3	
		化学反応工学	○	2	3	
		エネルギー化学入門	○	2	2	
		エネルギーシステムデザイン	○	2	3	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数（選択必修含む）：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑩　（２０２２年度入学生）

応用化学科（中学／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	物理学	総合物理学概論	◎	2	3	
		基礎力学Ⅰ－a	◎	2	2	
		基礎力学Ⅱ－a	◎	2	2	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	3	
		基礎電磁気学Ⅱ－a	◎	2	3	
		物理化学基礎	○	2	2	
		化学反応はなぜ進行するのか	○	2	2	
		溶液の性質と熱力学	○	2	2	
	物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	物理・化学ユニットプログラム	◎	3	3	
	化学	総合化学概論	◎	2	3	
		基礎化学Ⅰ－b	□	2	1	
		基礎化学Ⅰ－d	□	3	1	
		基礎化学Ⅱ－b	□	2	1	
		基礎化学Ⅱ－d	□	3	1	
		地球と生命の元素	○	2	1	
		非金属元素の化学	○	2	1	
		有機医薬品化学入門	○	2	1	
		基礎有機化学	○	2	1	
		高分子化学	○	2	3	
	化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	合成化学実験ユニットプログラム	◎	3	2	
		物理化学実験ユニットプログラム	□	3	2	
		物理化学実験ユニットプログラムＪ	□	3	2	
	生物学	生物学概論Ⅰ	◎	2	1・2	
		生物学概論Ⅱ	○	2	1・2	
		生体物質化学	○	2	2	
	生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	生物化学実験	◎	1	3	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	○	2	2	
	地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	地学実験	◎	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅲ	◎	2	3	
		理科教育法Ⅳ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数（選択必修含む）：中学校教諭一種　43単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑪　（２０２２年度入学生）

応用化学科（高校／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	物理学	総合物理学概論	◎	2	3	
		基礎力学Ⅰ－a	◎	2	2	
		基礎力学Ⅱ－a	◎	2	2	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	3	
		基礎電磁気学Ⅱ－a	◎	2	3	
		物理化学基礎	○	2	2	
		化学反応はなぜ進行するのか	○	2	2	
		溶液の性質と熱力学	○	2	2	
	化学	総合化学概論	◎	2	3	
		基礎化学Ⅰ－b	□	2	1	
		基礎化学Ⅰ－d	□	3	1	
		基礎化学Ⅱ－b	□	2	1	
		基礎化学Ⅱ－d	□	3	1	
		地球と生命の元素	○	2	1	
		非金属元素の化学	○	2	1	
		有機医薬品化学入門	○	2	1	
		基礎有機化学	○	2	1	
		高分子化学	○	2	3	
	生物学	生物学概論Ⅰ	◎	2	1･2	
		生物学概論Ⅱ	○	2	1･2	
		生体物質化学	○	2	2	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	○	2	2	
	「物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）」	物理・化学ユニットプログラム	□	3	3	6科目中1科目以上修得
		合成化学実験ユニットプログラム	□	3	2	
		物理化学実験ユニットプログラム	□	3	2	
		物理化学実験ユニットプログラムⅠ	□	3	2	
		生物化学実験	□	1	3	
		地学実験	□	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
教員免許状取得の必修単位数（選択必修含む）：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑩　（２０２４年度入学生）

応用化学生物学科（中学／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	物理学	基礎力学Ⅰ－a	◎	2	1	
		基礎力学Ⅱ－a	○	2	1	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	2	
		バイオ物理化学Ⅰ	○	2	1	
		バイオ物理化学Ⅱ	◎	2	2	
	物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	物理・化学ユニットプログラム	◎	3	1	
	化学	基礎化学Ⅰ－a	○	2	1	
		基礎化学Ⅱ－a	◎	2	1	
		有機化学	◎	2	1	
		生物無機化学	○	2	2	
		食品機能化学	○	2	2	
		生物有機化学	○	2	2	
	化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	化学・生物ユニットプログラムⅠ	◎	4	1	
		微生物学実験	◎	2	2	
	生物学	生命科学Ⅰ	◎	2	1	
		生命科学Ⅱ	◎	2	1	
		進化生物学Ⅰ	◎	2	1	
		微生物学	○	2	1	
		生化学Ⅰ	◎	2	2	
		生化学Ⅱ	◎	2	2・3	
		分子生物学	○	2	2	
		植物バイオテクノロジー	○	2	3	
	生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	生化学実験	□	2	2	
		生命科学実験Ⅰ	□	2	2	
		応用バイオ実験	□	2	3	
		生命科学実験Ⅱ	□	2	3	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	◎	2	2	
	地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	地学実験	◎	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅲ	◎	2	3	
		理科教育法Ⅳ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：中学校教諭一種　46単位以上						

現行（旧）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目㉓　（２０２３年度入学生）

応用バイオ科学科（中学／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	物理学	基礎力学Ⅰ－a	◎	2	1	
		基礎力学Ⅱ－a	○	2	1	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	2	
		バイオ物理化学Ⅰ	○	2	1	
		バイオ物理化学Ⅱ	◎	2	2	
	物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	物理・化学ユニットプログラム	◎	3	1	
	化学	基礎化学Ⅰ－a	○	2	1	
		基礎化学Ⅱ－a	◎	2	1	
		有機化学	◎	2	1	
		生物無機化学	○	2	2	
		食品機能化学	○	2	2	
		生物有機化学	○	2	2	
	化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	化学・生物学基礎ユニットプログラム	◎	4	1	
		食品化学・微生物学実験	◎	2	2	
	生物学	生命科学Ⅰ	◎	2	1	
		生命科学Ⅱ	◎	2	1	
		生化学入門	□	2	1	
		進化生物学Ⅰ	□	2	1	
		微生物学	○	2	1	
		基礎医学	○	2	2	
		細胞生物学	○	2	2	
		生化学Ⅰ	◎	2	2	
		生化学Ⅱ	◎	2	2・3	
		免疫化学	○	2	3	
		分子生物学	○	2	2	
		植物バイオテクノロジー	○	2	3	
	生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	生化学実験	□	2	2	
		生命科学実験Ⅰ	□	2	2	
		応用バイオ科学実験	□	2	3	
		生命科学実験Ⅱ	□	2	3	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	◎	2	2	
	地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	地学実験	◎	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅲ	◎	2	3	
		理科教育法Ⅳ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：中学校教諭一種　46単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑪　（２０２４年度入学生）

応用化学生物学科（高校／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
専門	物理学	基礎力学Ⅰ－a	◎	2	1	
		基礎力学Ⅱ－a	○	2	1	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	2	
		バイオ物理化学Ⅰ	○	2	1	
		バイオ物理化学Ⅱ	◎	2	2	
	化学	基礎化学Ⅰ－a	○	2	1	
		基礎化学Ⅱ－a	◎	2	1	
		有機化学	◎	2	1	
		生物無機化学	○	2	2	
		食品機能化学	○	2	2	
		生物有機化学	○	2	2	
	生物学	生命科学Ⅰ	◎	2	1	
		生命科学Ⅱ	◎	2	1	
		進化生物学Ⅰ	◎	2	1	
		微生物学	○	2	1	
		生化学Ⅰ	◎	2	2	
		生化学Ⅱ	◎	2	2・3	
		分子生物学	○	2	2	
		植物バイオテクノロジー	○	2	3	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	◎	2	2	
	「物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）」	物理・化学ユニットプログラム	□	3	1	8科目中1科目以上修得
		化学・生物ユニットプログラムⅠ	□	4	1	
		微生物学実験	□	2	2	
		生化学実験	□	2	2	
		生命科学実験Ⅰ	□	2	2	
		応用バイオ実験	□	2	3	
		生命科学実験Ⅱ	□	2	3	
		地学実験	□	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

現行（旧）

別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目㉔　（２０２３年度入学生）

応用バイオ科学科（高校／理科）

（◎必修，□選択必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	物理学	基礎力学Ⅰ－a	◎	2	1	
		基礎力学Ⅱ－a	○	2	1	
		基礎電磁気学Ⅰ－a	◎	2	2	
		バイオ物理化学Ⅰ	○	2	1	
		バイオ物理化学Ⅱ	◎	2	2	
	化学	基礎化学Ⅰ－a	○	2	1	
		基礎化学Ⅱ－a	◎	2	1	
		有機化学	◎	2	1	
		生物無機化学	○	2	2	
		食品機能化学	○	2	2	
		生物有機化学	○	2	2	
	生物学	生命科学Ⅰ	◎	2	1	
		生命科学Ⅱ	◎	2	1	
		生化学入門	□	2	1	
		進化生物学Ⅰ	□	2	1	
		微生物学	○	2	1	
		基礎医学	○	2	2	
		細胞生物学	○	2	2	
		生化学Ⅰ	◎	2	2	
		生化学Ⅱ	◎	2	2・3	
		免疫化学	○	2	3	
		分子生物学	○	2	2	
		植物バイオテクノロジー	○	2	3	
	地学	地学概論Ⅰ	◎	2	2	
		地学概論Ⅱ	◎	2	2	
	「物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）、地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）」	物理・化学ユニットプログラム	□	3	1	8科目中1科目以上修得
		化学・生物学基礎ユニットプログラム	□	4	1	
		食品化学・微生物学実験	□	2	2	
		生化学実験	□	2	2	
		生命科学実験Ⅰ	□	2	2	
		応用バイオ科学実験	□	2	3	
		生命科学実験Ⅱ	□	2	3	
		地学実験	□	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		理科教育法Ⅱ	◎	2	2	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑫　（２０２３年度入学生）

情報工学科（高校／工業）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		離散数学	○	2	1	
		ネットワーク基礎論	○	2	2	
		C＋＋言語Ⅰ	○	1	2	
		C＋＋言語Ⅱ	○	2	2	
		Java言語Ⅰ	◎	1	2	
		Java言語Ⅱ	◎	2	2	
		ハードウェア基礎	◎	2	1	
		ソフトウェア工学	◎	2	2	
		人工知能基礎論	○	2	2	
		機械学習	○	2	3	
		経営情報システム	◎	2	3	
		信号処理基礎	○	2	2	
		オペレーションズリサーチ	○	2	3	
		組み込みシステム	◎	2	3	
		データ管理設計	○	2	3	
		データの処理と分析	◎	2	1	
		情報技術と企業経営	○	2	3	
		情報工学総合ﾕﾆｯﾄⅠ	◎	2	3	
		情報工学セミナーⅠ	◎	1	3	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑭　（２０２３年度入学生）

情報ネットワーク・コミュニケーション学科（高校／工業）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		離散数学	○	2	1	
		情報理論	◎	2	2	
		ヒューマンインターフェース	○	2	3	
		情報ネットワーク工学Ⅱ	◎	2	1	
		ソフトウェア工学	◎	2	2	
		ネットワークインターフェース	○	2	3	
		ネットワークルーティング	○	2	3	
		光通信技術	○	2	2	
		インターネット技術	◎	2	2	
		Web技術	○	2	2	
		ネットワークセキュリティ	○	2	3	
		ソーシャルメディア技術	○	2	3	
		情報ネットワーク概論	◎	2	1	
		ネットワークプログラミング	○	2	3	
		情報ネットワークリテラシー	○	2	1	
		電子認証	○	2	3	
		情報ネットワーク基礎ユニットⅠ	◎	4	2	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑮　（２０２３年度入学生）

情報ネットワーク・コミュニケーション学科（高校／情報）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	情報社会及び情報倫理	情報社会と情報倫理	◎	2	3	
		情報と知的財産権	○	2	1	
		情報セキュリティと法制度	○	2	2	
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	情報ネットワーク工学Ⅰ	◎	2	1	
		情報ネットワーク導入ユニットⅠ	◎	4	1	
		情報ネットワーク導入ユニットⅡ	◎	4	1	
	情報システム（実習を含む。）	データベース	◎	2	3	
		分散処理	○	2	3	
		インターネットアプリケーション	○	2	2	
		情報ネットワーク基礎ユニットⅡ	◎	4	2	
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	通信工学	◎	2	2	
		モバイルネットワーク	○	2	3	
		ネットワーク工学	○	2	2	
		ネットワーク解析技法	○	2	3	
		情報セキュリティ概論	○	2	1	
		情報ネットワークコースユニット	◎	4	3	
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	マルチメディア処理	◎	2	2	
		メディア表現工学	○	2	2	
		情報セキュリティマネジメント	○	2	2	
		情報ネットワーク応用ユニット	◎	4	3	
	情報と職業	情報と職業	◎	2	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		情報科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		情報科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑯　（２０２３年度入学生）

情報メディア学科(高校／工業)

(◎必修, ○選択)

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		離散数学	○	2	1	
		ビュジュアルシミュレーション	○	2	3	
		ヒューマンインターフェース	◎	2	3	
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞA	◎	3	2	
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞB	◎	3	2	
		計算機構成論	○	2	2	
		ゲームAI	○	2	3	
		ゲームデザイン論	○	2	2	
		音響学入門	○	2	2	
		フィジカルコンピューティング	○	2	3	
		画像認識システム	○	2	3	
		メディアアート	◎	2	3	
		スポーツ音響学概論	○	2	2	
		画像情報処理	◎	2	2	
		情報メディア基礎ユニットⅠ	◎	2	2	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数:高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑰　（２０２３年度入学生）

情報メディア学科（高校／情報）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	情報社会と情報倫理	◎	2	3	
		情報と知的財産権	○	2	1	
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	IT基礎	◎	4	1	
		ゲームプログラミング	○	2	3	
		情報メディア基盤ユニット	◎	4	1	
		情報メディア導入ユニット	◎	4	1	
	情報システム（実習を含む。）	映像メディアリテラシ	○	2	2	
		情報メディア基礎ユニットⅡ	◎	2	2	
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	Webシステム	○	2	2	
		情報メディア専門ユニットⅡ	◎	3	3	
	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	マルチメディア入門	◎	2	2	
		グラフィックス基礎論	○	2	2	
		メディアコンテンツ制作概論	○	2	2	
		音楽論	○	2	2	
		コンピュータ音楽制作	○	2	3	
		Web制作	○	2	2	
		ゲーム制作論	○	2	1	
		CGアニメーション	○	2	3	
		情報メディア専門ユニットⅠ	◎	3	3	
	情報と職業	情報と職業	◎	2	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		情報科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		情報科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑱　（２０２３年度入学生）

自動車システム開発工学科（高校／工業）

（◎必修、□選択必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		工学基礎演習Ⅰ	○	1	1	
		工学基礎演習Ⅱ	○	1	1	
		自動車システム工学プロジェクト入門	◎	2	1	
		基礎製図	◎	2	1	
		自動車のための情報・通信入門	○	2	2	
		自動車要素設計Ⅰ	○	2	2	
		自動車要素設計Ⅱ	◎	2	2	
		機械力学	○	2	2	
		材料力学	◎	2	2	
		熱力学	◎	2	2	
		流体力学	◎	2	2	
		基礎電気回路	◎	2	2	
		制御工学	○	2	3	
		次世代自動運転	○	2	3	
		次世代自動車動力	○	2	3	
		マルチボディダイナミクス	○	2	2	
		次世代自動車力学	○	2	3	
		機構学	○	2	3	
		次世代自動車安全	○	2	3	
		材料強度力学	○	2	3	
		応用熱力学	○	2	2	
		自動車エンジン工学	○	2	3	
		カーエレクトロニクス	○	2	2	
		カーエアロダイナミクス	○	2	3	
		自動車システム工学プロジェクトⅠ	○	2	2	
		自動車システム工学プロジェクトⅡ	○	2	2	
		自動車設計プロジェクト	○	2	2	
		プログラミング基礎	○	2	1	
		自動車開発プロセス概論	○	2	2	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑲（２０２３年度入学生）

ロボット・メカトロニクス学科（中学／技術）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工概論	◎	2	1	
	金属加工（製図及び実習を含む。）	金属加工概論	◎	2	1	
		設計製図	◎	2	2	
		機構学	○	2	2	
		材料力学	○	2	2	
	機械（実習を含む。）	機械概論	◎	2	1	
		応用力学	◎	2	1	
		ロボット工学概論	◎	2	1	
		機械力学	○	2	2	
		流れ学	○	2	3	
		ロボット製品設計	○	2	3	
		組み込み機器入門	○	2	3	
		Android開発入門	○	2	3	
		CAD	○	2	2	
	電気（実習を含む。）	電気概論	◎	2	1	
		基礎電気回路	◎	2	1	
		センサ工学	○	2	3	
		情報通信技術	○	2	3	
		ヒューマン・ロボットインタラクション	○	2	3	
		メカトロニクス	○	2	3	
		環境・エネルギー	○	2	2	
		エネルギーと電力システム制御	○	2	3	
	栽培（実習を含む。）	栽培概論	◎	2	1	
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	情報とコンピュータ概論	◎	2	1	
		プログラミング	○	2	1	
		組み込みソフトウェア設計	○	2	2	
		知能情報処理	○	2	3	
		画像処理工学	○	2	3	
		コンピュータアーキテクチャ	○	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		技術科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		技術科教育法Ⅱ	◎	2	2	
		技術科教育法Ⅲ	◎	2	3	
		技術科教育法Ⅳ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：中学校教諭一種　36単位以上						

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第４の２　教科及び教科の指導法に関する科目⑳（２０２３年度入学生）

ロボット・メカトロニクス学科（高校／工業）

（◎必修、○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		ロボメカ基礎ユニットⅠ	◎	4	1	
		プログラミング	○	2	1	
		設計製図	◎	2	2	
		応用力学	◎	2	1	
		基礎電気回路	◎	2	1	
		機構学	○	2	2	
		組み込みソフトウェア設計	○	2	2	
		人間工学	○	2	2	
		材料力学	○	2	2	
		Android開発入門	○	2	3	
		ロボット製品設計	○	2	3	
		メカトロニクス	○	2	3	
		センサ工学	○	2	3	
		ロボット工学概論	◎	2	1	
		情報通信技術	○	2	3	
		知能情報処理	○	2	3	
		画像処理工学	○	2	3	
		ヒューマン・ロボットインタラクション	○	2	3	
		組み込み機器入門	○	2	3	
		コンピュータアーキテクチャ	◎	2	1	
		CAD	○	2	2	
		機械力学	○	2	2	
		流れ学	○	2	3	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目㉑　（２０２３年度入学生）

ホームエレクトロニクス開発学科（中学／技術）

（◎必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工概論	◎	2	1	
	金属加工（製図及び実習を含む。）	金属加工概論	◎	2	1	
	機械（実習を含む。）	機械概論	◎	2	1	
		メカトロニクスの基礎	◎	2	2	
		ロボット家電と制御	○	2	3	
		プロダクトデザインと3DCAD	○	2	2	
	電気（実習を含む。）	電気概論	◎	2	1	
		ホームエレクトロニクス	◎	2	3	
		電気電子回路Ⅰ	◎	3	1	
		電気電子回路Ⅱ	◎	3	1	
		電気電子回路設計	◎	3	3	
		家電製品と組込み技術	◎	2	2	
		ものづくりプロジェクトⅠ	○	2	1	
		ものづくりプロジェクトⅡ	○	2	2	
		企業連携プロジェクト入門	○	2	2	
		企業連携プロジェクトⅠ	○	3	3	
		企業連携プロジェクトⅡ	○	3	3	
		スマートハウスとエネルギー管理	○	2	3	
		デジタル音響機器と信号処理	○	2	3	
		センサと計測技術	○	3	2	
	栽培（実習を含む。）	栽培概論	◎	2	1	
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	情報とコンピュータ概論	◎	2	1	
		情報技術の基礎	○	2	1	
		C言語プログラム	○	2	1	
		マイコン回路設計講座	○	2	1-4	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		技術科教育法Ⅰ	◎	2	2	
		技術科教育法Ⅱ	◎	2	2	
		技術科教育法Ⅲ	◎	2	3	
		技術科教育法Ⅳ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：中学校教諭一種　36単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表４の２　教科及び教科の指導法に関する科目㉒　（２０２３年度入学生）

ホームエレクトロニクス開発学科（高校／工業）

（◎必修，○選択）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当年次	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	工業概論	◎	2	1	
		メカトロニクスの基礎	◎	2	2	
		プロダクトデザインと3DCAD	○	2	2	
		電気電子回路Ⅰ	◎	3	1	
		電気電子回路Ⅱ	◎	3	1	
		電気電子回路Ⅲ	○	3	2	
		ロボット家電と制御	○	2	3	
		家電製品と電気法規	○	2	3	
		スマートハウスと製図	○	2	3	
		スマートハウスとエネルギー管理	◎	2	3	
		ホームエレクトロニクス	◎	2	3	
		電気電子回路設計	◎	3	3	
		家電製品と組込み技術	◎	2	2	
		ものづくりプロジェクトⅠ	○	2	1	
		ものづくりプロジェクトⅡ	○	2	2	
		企業連携プロジェクト入門	○	2	2	
		企業連携プロジェクトⅠ	○	3	3	
		企業連携プロジェクトⅡ	○	3	3	
		情報技術の基礎	○	2	1	
		センサと計測技術	○	3	2	
	職業指導	職業指導Ⅰ	◎	1	3	
		職業指導Ⅱ	○	1	3	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工業科教育法Ⅰ	◎	2	3	
		工業科教育法Ⅱ	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数：高等学校教諭一種　40単位以上						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表第４の３　教員免許状の種類（２０２４年度入学生）

免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科		免 許 状 の 種 類	免許教科
工　学　部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技　術
			数　学
		高等学校教諭一種免許状	工　業
			数　学
	応用化学生物学科	中学校教諭一種免許状	理　科
		高等学校教諭一種免許状	工　業
			理　科
情 報 学 部	情報工学科	高等学校教諭一種免許状	
			情　報
健康医療科学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状	

現行（旧）

別表第４の３　教員免許状の種類（２０２３年度入学生）

免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科		免 許 状 の 種 類	免許教科
工　学　部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技　術
			数　学
		高等学校教諭一種免許状	工　業
			数　学
	応用化学科	中学校教諭一種免許状	理　科
		高等学校教諭一種免許状	工　業
			理　科
情 報 学 部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工　業
			情　報
創 造 工 学 部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工　業
	ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技　術
	ホームエレクトロニクス開発学科	高等学校教諭一種免許状	工　業
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状	理　科
		高等学校教諭一種免許状	理　科
健康医療科学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状	

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生）

工学部　応用化学科

教育区分			必選別	卒業必要単位数 A	卒業必要単位数 J	
共通基盤教育	導入系		必修	1	1	
	倫理系		必修	―	2	
			選択	2	―	
	人文社会系		必修	2	2	
		a群	必修	―	2	
			選必	―	4	
			選択	4	―	
		b群	選必	―	2	
			選択	2	―	
		c群	選必	―	2	
			選択	2	―	
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2	―	
	健康・スポーツ系		選択	1	1	
	英語基礎系		選択	4	4	
	言語応用系		選必	―	2	
			選択	3	2	
	数理情報系		必修	6	6	
	キャリア系		必修	3	3	
			（小計）	(32)	(33)	
専門教育			必修	19	54	
	専門基礎導入	a，b群	選必	6	5	＊注2
	専門基礎	d～i群	選必	15	―	＊注3
	専門	専門デザイン科目	選必	―	6	
		卒研準備群	選必	4	4	
		k，l群	選必	8	―	＊注3
			選択	23	10	
			（小計）	(75)	(79)	
任意				17	12	＊注4
合計				124	124	

＊注1

医生命科学特別専攻

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		選必	2
	人文社会系		必修	6
		a群	選択	2
		b群	選択	2
		c群	選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		必修	8
	言語応用系		必修	6
	数理情報系		必修	2
	キャリア系		必修	6
			（小計）	(38)
専門教育	専門基礎導入		必修	14
	専門基礎		必修	27
	専門		必修	31
			選必	2
			（小計）	(74)
任意				12
合計				124

注1）Ａ（化学応用）コース、Ｊ（総合化学エンジニア）コース
注2）Aコース【 a群から2科目修得。b群から1科目を択一で修得】、
　　Jコース【 a群から1科目を択一で修得。b群から1科目を択一で修得】
注3）各群から１科目を択一し修得すること。
注4）任意とは、以下の修得単位を示す。
共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他コース･他学科･他大学科目、外国語系科目、留学生科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生） 工学部　応用化学科 教員養成コース（工業）

教育区分			必選別	卒業必要単位数	＊注1
共通基盤教育	導入系		必修	1	
	倫理系		選択	2	
	人文社会系		必修	2	
		a 群	必修	2	
			選択	6	＊注2
		b群	選択	4	＊注2
		c群	選択	4	＊注2
	健康・スポーツ系		必修	2	
	英語基礎系		選択	4	
	言語応用系		必修	2	
			選択	1	
	数理情報系		必修	6	
	キャリア系		必修	3	
			（小計）	(39)	
専門教育			必修	32	
	専門基礎導入	a，b 群	選必	6	＊注3
	専門基礎	d～j 群	選必	15	
	専門	k，l 群	選必	8	
			選択	16	
			（小計）	(77)	
任意				14	＊注4
合計				130	

注1）E 教員養成コース（工業）
注2）教員養成コースにおいて、「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、以下の科目については、それぞれ該当する共通基盤a～c群のいずれかの単位として含めることができる。
共通基盤a群：「教職概論」、「学校と教育の歴史」および「教育心理学」
共通基盤b群：「教育相談」および「教育課程論」
共通基盤c群：「教育行政論」および「総合的な学習の時間の理論と実践」
注3）Eコースでは、 a群から2科目を修得、b群から1科目を択一で修得とする。 a,b群の卒業要件を超えて修得した単位数は、専門教育区分の選択の単位数に含まれる。
注4）任意とは、以下の項目１及び２の修得単位を示す。
１．共通基盤教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他コース･他学科･他大学科目、外国語系科目、留学生科目、自由科目、教職（理科）に関する一部修得単位
２．専門教育区分の選択について、卒業要件の必要単位数を超えて修得した単位

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第５　卒業要件（２０２４年度入学生）

工学部　応用化学生物学科

教育区分				必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系			必修	3
	倫理系			選必	2
	人文社会系			必修	2
			ａ群	選択	2
			ｂ群	選択	2
			ｃ群	選択	2
	健康･スポーツ系			選択	1
	言語系	英語基礎		選択	3
		言語応用	ａ群	選択	2
			ｂ群	選択	2
	数理情報系			必修	6
	キャリア系			必修	3
				選択	2
				（小計）	32
専門教育				必修	27
				選必	4
				選択	46
				（小計）	77
任　意					15
合　計					124

備考：Stop the CO_2プログラムの単位数は任意に集計

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）

別表第５　卒業要件（２０２４年度入学生）

情報学部　情報システム学科

教育区分				必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系			必修	3
	倫理系			必修	2
	人文社会系			必修	2
		a群		選択	2
		b群		選択	2
		c群		選択	2
	健康・スポーツ系			選択	1
	言語系	英語基礎		選択	3
		言語応用	a群	選択	2
			b群	選択	2
	数理情報系			必修	6
	キャリア系			必修	3
				選択	2
				（小計）	32
専門教育	専門基礎導入			必修	21
	専門基礎・専門			必修	27
				選択	26
				（小計）	74
任意					18
合計					124

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生）

創造工学部　自動車システム開発工学科

教育区分			必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系		必修	1	
	倫理系		選択	2	
	人文社会系		必修	2	
		a群	選択	4	
		b群	選択	2	
		c群	選択	2	
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2	
	健康・スポーツ系		選択	1	
	英語基礎系		選択	4	
	言語応用系		選択	3	
	数理情報系		必修	6	
	キャリア系		必修	3	
			（小計）	(32)	
専門教育			必修	26	
		a群～h群	選必	17	＊注1
			選択	39	
			（小計）	(82)	
任意				10	＊注2
合計				124	

次世代自動車開発特別専攻

教育区分			必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系		必修	1	
	倫理系		選必	2	
	人文社会系		必修	6	
		a群	選択	2	
		b群	選択	2	
		c群	選択	2	
	健康・スポーツ系		選択	1	
	英語基礎系		必修	8	
	言語応用系		必修	6	
	数理情報系		必修	2	
	キャリア系		必修	6	
			（小計）	(38)	
専門教育	専門基礎導入		必修	25	
	専門基礎		必修	12	
	専門		必修	13	
			選必	12	
			選択	20	＊注3
			（小計）	(82)	＊注4
任意				4	＊注2
合計				124	

注1）各群から1科目を択一し修得すること。

注2）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

注3）専門教育の選択は卒業要件をオーバーした選択必修科目の修得単位を含む。

注4）専門教育82単位以上には必修科目50単位、選択必修科目12単位以上（マルチボディダイナミクス、材料強度学、応用熱力学、カーエアロダイナミクス、制御工学の5科目中3科目以上。次世代自動車力学、次世代自動車動力、次世代自動運転、次世代自動車安全の4科目中3科目以上）を修得することを含む。

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生） 創造工学部　自動車システム開発工学科　教員養成コース（工業）

教育区分			必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系		必修	1	
	倫理系		選択	2	
	人文社会系		必修	2	
		a群	必修	2	
			選択	6	＊注1
		b群	選択	4	＊注1
		c群	選択	4	＊注1
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	－	
	健康・スポーツ系		必修	2	
	英語基礎系		選択	4	
	言語応用系		必修	2	
	数理情報系		必修	6	
	キャリア系		必修	3	
			（小計）	(38)	
専門教育			必修	26	
	a群～h群		選必	18	＊注2
	教職科目群		必修	7	
			選択	35	＊注3
			（小計）	(86)	
任意				10	＊注4
合計				134	

注1)教員養成コースにおいて、「教育の基礎的理解に関する科目等」の内、以下の科目については、それぞれ該当する共通基盤a～c群のいずれの単位として含めることができる。
共通基盤a群：「教職概論」、「学校と教育の歴史」および「教育心理学」
共通基盤b群：「教育相談」および「教育課程論」
共通基盤c群：「教育行政論」および「総合的な学習の時間の理論と実践」

注2）各群から1科目を択一し修得すること。

注3）専門教育の選択は卒業要件をオーバーした選択必修科目の修得単位を含む。

注4）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生）

創造工学部　ロボット・メカトロニクス学科

一般コース

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		選択	2
	人文社会系		必修	2
		a 群	選択	4
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		選択	4
	言語応用系		選択	3
	数理情報系		必修	6
	キャリア系		必修	3
			（小計）	(32)
専門教育			必修	26
	ロボット・人間特性応用科目群		選必	18
			選択	38
			（小計）	(82)
任意				10
合計				124

＊注1

ロボットクリエータ特別専攻

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		選必	2
	人文社会系		必修	6
		a 群	選択	2
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		必修	8
	言語応用系		必修	6
	数理情報系		必修	2
	キャリア系		必修	6
			（小計）	(38)
専門教育	専門基礎導入		必修	11
		a群	選必	2
		b群	選必	2
	専門基礎・専門		必修	28
		ロボット・人間特性応用科目群	選必	18
			選択	22
			（小計）	(83)
	任意			3
合計				124

＊注1

注1）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他コース・他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO_2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生） 創造工学部　ロボット・メカトロニクス学科　教員養成コース

教育区分			必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系		必修	1	
	倫理系		選択	2	
	人文社会系		必修	2	
		a群	必修	2	
			選択	6	＊注1
		b群	選択	4	＊注1
		c群	選択	4	＊注1
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	―	
	健康・スポーツ系		必修	2	
	英語基礎系		選択	4	
	言語応用系		必修	2	
	数理情報系		必修	6	
	キャリア系		必修	3	
			（小計）	(38)	
専門教育			必修	26	
	ロボット・人間特性応用		選必	18	
	教職科目群		選必	8	
			選択	30	
			（小計）	(82)	
任意				10	＊注2
合計				130	

注1）教員養成コースにおいては、「教育の基礎的理解に関する科目等」の内、以下の科目については、それぞれ該当する共通基盤ａ～ｃ群のいずれの単位として含めることができる。

共通基盤ａ群：「教職概論」、「学校と教育の歴史」および「教育心理学」
共通基盤ｂ群：「教職相談」および「教育課程論」
共通基盤ｃ群：「教職行政論」および「総合的な学習の時間の理論と実践」

注2）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他コース・他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO_2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生）

創造工学部　ホームエレクトロニクス開発学科

Ａ：一般　　Ｓ：健康スポーツコース　　Ｅ：教員養成コース

教育区分			必選別	卒業必要単位数 Ａ	Ｓ	Ｅ	
共通基盤教育	導入系		必修	1	1	1	
	倫理系		必修	2	2	2	
	人文社会系		必修	2	2	2	
		ａ群	選択	4	4	8	＊注1
		ｂ群	選択	2	2	4	＊注1
		ｃ群	選択	2	2	4	＊注1
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2	2	—	
	健康・スポーツ系		選択	1	1	2	
	英語基礎系		選択	4	4	4	
	言語応用系		選択	4	4	3	
	数理情報系		必修	8	8	8	
	キャリア系		必修	3	3	3	
			（小計）	(35)	(35)	(41)	
専門教育			必修	41	60	71	
	専門基礎導入	a群	選必	3	3	3	
	専門	b～i群	選必	19	0	0	
		j群	選必	6	6	6	＊注2
			選択	7	7	7	
			（小計）	(76)	(76)	(87)	
任意				13	13	2	＊注3
合計				124		130	

電気電子特別専攻

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		選必	2
	人文社会系		必修	6
		ａ群	選択	2
		ｂ群	選択	2
		ｃ群	選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		必修	8
	言語応用系		必修	6
	数理情報系		必修	2
	キャリア系		必修	6
			（小計）	(38)
専門教育	専門基礎導入		必修	15
	専門基礎・専門		必修	60
			選択	11
			（小計）	(86)
合計				124

注1）教員養成コースにおいては、「教育の基礎的理解に関する科目等」の内、以下の科目については、それぞれ該当する共通基盤ａ～ｃ群のいずれかの単位として含めることができる。

共通基盤ａ群：「教職概論」、「学校と教育の歴史」および「教育心理学」

共通基盤ｂ群：「教職相談」および「教育課程論」

共通基盤ｃ群：「教職行政論」および「総合的な学習の時間の理論と実践」

注2）卒業制作プロジェクトあるいは、卒業研究のいずれかの科目を修得すること。

注3）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO_2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生） 応用バイオ科学部　応用バイオ科学科

応用バイオコース

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		必修	2
	人文社会系		必修	2
		a群	選択	4
		b群	選択	2
		c群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		選択	4
	言語応用系		選択	3
	数理情報系		必修	6
	キャリア系		必修	3
			（小計）	(32)
専門教育			必修	45
			選択	30
			（小計）	(75)
任意				17
合計				124

＊注1

生命科学コース

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		必修	2
	人文社会系		必修	2
		a群	選択	4
		b群	選択	2
		c群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		選択	4
	言語応用系		選択	3
	数理情報系		必修	6
	キャリア系		必修	3
			（小計）	(32)
専門教育	専門基礎導入		必修	14
	専門基礎		必修	22
	専門		必修	34
			選必	13
			選択	9
			（小計）	(92)
合計				124

注1）任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO_2プログラム科目、自由科目、教職に関する一部修得単位

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）
廃止	別表第５　卒業要件（２０２３年度入学生） 応用バイオ科学部　応用バイオ科学科 医生命科学特別専攻

教育区分			必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育	導入系		必修	1
	倫理系		選必	2
	人文社会系		必修	6
		a 群	選択	2
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		必修	8
	言語応用系		必修	6
	数理情報系		必修	2
	キャリア系		必修	6
			（小計）	(38)
専門教育	専門基礎導入		必修	17
	専門基礎		必修	11
	専門		必修	41
			選必	2
			選択	15
			（小計）	(86)
合計				124

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後（新）

別表第６　入学検定料・学生納付金（２０２４年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料	合計
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学生物学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次　1,370,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円	1年次　1,570,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科 情報システム学科				

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
健康医療科学部 管理栄養学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
			2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
			3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
			4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
健康医療科学部 臨床工学科			1年次	1,460,000円	1年次	1,660,000円
			2年次	1,480,000円	2年次	1,480,000円
			3年次	1,500,000円	3年次	1,500,000円
			4年次	1,520,000円	4年次	1,520,000円
健康医療科学部 看護学科			1年次	1,660,000円	1年次	1,860,000円
			2年次	1,680,000円	2年次	1,680,000円
			3年次	1,700,000円	3年次	1,700,000円
			4年次	1,720,000円	4年次	1,720,000円

（注）1. この表の学生納付金は2024年度以降に入学する学生に適用する。但し、2023年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、共通テスト方式(大学入学共通テスト利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

現行（旧）

別表第６　入学検定料・学生納付金（２０２３年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料	合計
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次　1,370,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円	1年次　1,570,000円 2年次　1,390,000円 3年次　1,410,000円 4年次　1,430,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科				
創造工学部 自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学科				
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科				

学　科 ＼ 費　目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
健康医療科学部 管理栄養学科	①30,000円 ②15,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
			2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
			3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
			4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
健康医療科学部 臨床工学科			1年次	1,460,000円	1年次	1,660,000円
			2年次	1,480,000円	2年次	1,480,000円
			3年次	1,500,000円	3年次	1,500,000円
			4年次	1,520,000円	4年次	1,520,000円
健康医療科学部 看護学科			1年次	1,660,000円	1年次	1,860,000円
			2年次	1,680,000円	2年次	1,680,000円
			3年次	1,700,000円	3年次	1,700,000円
			4年次	1,720,000円	4年次	1,720,000円

（注）1. この表の学生納付金は2023年度以降に入学する学生に適用する。但し、2022年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、共通テスト方式(大学入学共通テスト利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）	現行（旧）
（２０２４年度入学生） 前 略 別表Ｂ「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」	（２０２３年度入学生） 前 略 別表Ｂ「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」
【基礎・教養教育センター】 基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、健康医療系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。	【基礎・教養教育センター】 基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、バイオ系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。
【教職教育センター】 各学科が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教師の育成を目的とする。目標とする人材像は、社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を惹起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教師である。	【教職教育センター】 各学科が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教師の育成を目的とする。目標とする人材像は、社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を惹起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教師である。
【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、生物工学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 〇機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者、および、機械工学の基礎知識・技能を身に付けた指導者の育成 〇電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者および電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付けた指導者の育成	【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 〇機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者、および、機械工学の基礎知識・技能を身に付けた指導者の育成 〇電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付け、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者および電気電子情報工学の基礎・専門技術を身に付けた指導者の育成

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）	現行（旧）
削　除 ○応用化学生物学科 化学と生物学に関する基礎的な理論と知識を身に付け、物質や生物の原理や法則の知識をを活かして、人間社会に役立つものを創り出すことができる幅広い職業人の育成	○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成
【情報学部】 情報工学、情報ネットワーク、メディアコンテンツ情報、システムの設計や開発の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題の解決、または新たな情報システムやメディアコンテンツの創作に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 ○情報工学科 システム・ソフトウエア技術を基軸とする高度な専門性とともに、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者の育成 ○情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報ネットワークの専門知識・技能を身につけ、それらを活用する力を持ち、社会で活躍できる技術者の育成 ○情報メディア学科 創造性豊かで探求心あふれ、また社会人としての社会的責任と倫理観を持ち、情報メディアとそれを利用するアプリケーションやコンテンツを創作できる人材の育成	【情報学部】 情報工学、情報ネットワーク、メディアコンテンツの各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題の解決、または新たな情報システムやメディアコンテンツの創作に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 ○情報工学科 システム・ソフトウエア技術を基軸とする高度な専門性とともに、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者の育成 ○情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報ネットワークの専門知識・技能を身につけ、それらを活用する力を持ち、社会で活躍できる技術者の育成 ○情報メディア学科 創造性豊かで探求心あふれ、また社会人としての社会的責任と倫理観を持ち、情報メディアとそれを利用するアプリケーションやコンテンツを創作できる人材の育成

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）	現行（旧）
○情報システム学科 情報と情報技術に関する基礎的な知識の体系的・系統的な理解のもとに、情報システムの利用や開発及び管理に関する課題を合理的かつ創造的に解決することができる人材の育成	
削　除	【創造工学部】 自動車開発、ロボット・メカトロニクス、ホームエレクトロニクスの各分野に必要な基礎知識と専門知識・技術に加えて、システム化技術や社会・人間に関する幅広い知識を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 ○自動車システム開発工学科 自動車システム開発の基礎となる工学技術の知識・技能を身につけ、これらを活用して自動車および関連する産業界の発展に貢献できる技術者および自動車システム開発の基礎となる工学技術の知識・技能を身につけた指導者の育成 ○ロボット・メカトロニクス学科 ロボット・メカトロニクスの要素技術に加え、人間工学などの人を対象とした幅広い知識を身につけ、人々の生活を豊かにする次世代のロボットや生活支援機器を開発できる技術者およびロボット・メカトロニクスの知識を身につけた指導者の育成 ○ホームエレクトロニクス開発学科 電気電子工学とICT技術の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して社会に貢献できるものづくり技術者および電気電子工学とICT技術の基礎知識・技術を身につけた指導者の育成

※下線の部分は変更箇所

2023年2月24日

神奈川工科大学学則の一部変更　新旧対照表

改正後　（新）	現行（旧）
削　除	【応用バイオ科学部】 生命科学、バイオ技術の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身に付け、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成 ○応用バイオ科学科 生命科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身に付け、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できる生命科学分野の技術者、バイオ支援技術者の育成
以下省略	以下省略

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学　教授会運営規程

第　１　条　教授会の運営については学則第７条に定めるもののほか本規程の定めるところによる。

第　２　条　教授会は教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。但し、長期病欠者及び公務出張者は、ここでの現在員に含まれないものとする。

第　３　条　教授会の議事は、出席構成員の過半数によって決し、賛否同数のときは議長の決するところによる。

第　４　条　教授会は原則として、月１回開くものとする。但し、学長が必要と認めた場合は、臨時に教授会を開くことができる。

第　５　条　本規程は、合同教授会を召集する場合に準用する。

第　６　条　本規程の改正は、学長が発議する。

附　　則　１．本規程は、平成２年４月１日から施行する。
２．本規程の改正は、平成２７年４月１日から実施する。

① 設置の趣旨及び必要性

1　学科を設置する理由・必要性

現代社会では、コンピュータの処理能力やネットワーク技術の向上に伴い、コンピュータの活用も大きく変化しており、通信技術の発達による複数の情報システムを連携させた、新たな社会生活上のサービスや価値が生まれるようになっていることから、情報システムの発展と社会の変化に対応した新たな考え方や能力が必要となっている。

このような情報化社会を取り巻く環境の変化を踏まえたうえで、本学の情報学分野における教育研究体制のより一層の充実と機能の強化に向けて、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた情報学分野に関する教育研究実績を基盤として、令和６年４月より、既設の情報学部に新たに情報システム学科を設置することとした。

なお、情報システム学科の設置に伴い、創造工学部（自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス学科）については、令和６年４月より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止することとしている。

2　研究対象とする学問分野及び養成する人材像

情報システム学科では、組織として教育研究を対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

3　卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針

情報システム学科では、教育研究上の目的及び養成する人材像を踏まえて、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針について、以下の通り定めることとし、学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程との相関については、別紙資料１に示す通りとしている。（資料１）

（１）卒業認定・学位授与の方針

1　知識・リテラシー

①　情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。

②　情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。

2　課題解決力

③　基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。

④　情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発

展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。

3　学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

⑤　情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。

⑥　主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。

（2）教育課程編成・実施の方針

1）教育課程編成の方針

1　知識・リテラシー

①　専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。

②　共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。

2　課題解決力

③　専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。

④　主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にそ

の内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。卒業研究では、卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリックで評価する。

3　学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

⑤　社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。

⑥　情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　倫理系科目やキャリア系科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）を総合的にルーブリックで評価する。

2）教育課程実施の方針

・学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。

・教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、実験や演習での共同作業等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。

・教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図を示す。（資料１）

・単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料２）

・卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業

認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

（３）入学者受入れの方針

・情報や情報技術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している。

・高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。

・物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

② 学部・学科等の特色

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

情報システム学科の卒業後の進路としては、情報関連産業や情報関連部門などに所属して、利用者の要求の実現を図るための情報システムの開発や管理などの業務に携わることが想定される。

このことから、情報システム学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の役割と機能を重点的に担うことを特色とすることとしている。

③ 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

このような、情報システム学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と情報システム学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「情報システム学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Information System」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称　　情報システム学科　「Department of Information System」
学位の名称　　学士（工学）　　「Bachelor of Engineering」

④　教育課程の編成の考え方及び特色

１　教育課程の編成の基本方針

情報システム学科では、教育研究上の目的や養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「共通基盤教育」と「専門基礎導入」、「専門基礎」、「専門」から編成することとし、「共通基盤教育」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、「専門基礎導入」、「専門基礎」、「専門」は、授業科目間の関係や履修の順序に留意した体系的な教育課程を編成することとしている。

また、情報システム学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととする。

具体的には、学部段階における教育は、職業人としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した教育課程の編成としている。

２　教育課程の編成の考え方

（１）共通基盤教育

「共通基盤教育」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえた編成とすることから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「言語系」、「数理情報系」、「キャリア系」の科目群から編成している。

１）導入系

「導入系」では、高校教育から大学教育への円滑な接続を図るための学習スキルを高めるための科目として、「アカデミックＩＣＴスキル」１単位、「スタディスキル」２単位、「専門分野概論」１単位を必修科目として配置し、「理工学入門」１単位を選択科目として配置している。

２）倫理系

「倫理系」では、技術者としての倫理や生命倫理に関する知識の理解と倫理観を養うための科目として、「技術者倫理」２単位を必修科目として配置している。

３）人文社会系

「人文社会系」は、「ａ群」、「ｂ群」、「ｃ群」の科目群から編成しており、「現代社会講座」２単位を必修科目として配置したうえで、「ａ群」では、多面的に物事を理解するための基

本的な知識を習得するための科目として、「経済の科学」２単位、「歴史の科学」２単位、「社会の科学」２単位、「文化の科学」２単位、「グローバル化の科学」２単位、「心の科学」２単位、「日本国憲法」２単位、「環境論」２単位、「人文社会科学アクティブ演習」２単位を選択科目として配置している。

「ｂ群」では、人間と人間理解のための基礎的な知識を習得するための科目として、「哲学」２単位、「文学」２単位、「心理学」２単位、「倫理学」２単位、「教育学」２単位を選択科目として配置している。

「ｃ群」では、現代の社会を理解するための基礎的な知識を習得するための科目として、「政治学」２単位、「経済学」２単位、「法学」２単位、「社会学」２単位、「経営学」２単位を選択科目として配置している。

４）健康・スポーツ系

「健康・スポーツ系」では、健康維持や健康習慣のための基本的な知識と方法を習得するための科目として、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」１単位、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」１単位、「身体活動スポーツ論」１単位、「生涯スポーツ実習」１単位を選択科目として配置している。

５）言語系

「言語系」は、「英語基礎」と「言語応用」の科目群から編成しており、「英語基礎」では、英語による「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の言語能力を高めるための科目として、「英語Ⅰ」１単位、「英語Ⅱ」１単位、「英語Ⅲ」１単位、「英語Ⅳ」１単位、「英語Ⅴ」１単位を選択科目として配置している。

「言語応用」は、「ａ群」と「ｂ群」の科目群から編成しており、「ａ群」では、英語の実践的かつ総合的な運用能力を高めるための科目として、「科学技術英語Ⅰ」１単位、「科学技術英語Ⅱ」１単位、「英会話Ⅰ」１単位、「英会話Ⅱ」１単位、「総合英語演習」１単位、「TOEICⅠ」１単位、「TOEICⅡ」１単位を選択科目として配置している。

「ｂ群」では、日本語の運用能力を高めるための科目として、「日本語表現技術」２単位、「プレゼンテーション技術」２単位、「技術文章の書き方」２単位を選択科目として配置している。

６）数理情報系

「数理情報系」では、数理科学に関する基礎的な知識を習得するための科目として、「身の回りの数学」２単位、「実践する科学」２単位を必修科目として配置し、情報の収集や分析と効果的に活用するための基本的な知識と技能を習得するための科目として、「情報・ＡＩリテラシー（情報基礎）」２単位を必修科目として配置したうえで、「ＡＩとデータサイエンス」２単位を選択科目として配置している。

７）キャリア系

「キャリア系」では、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得するための科目として、「キャリア設計Ⅰ」１単位、「キャリア設計Ⅱ」１単位、「キ

ャリア設計Ⅲ」１単位を必修科目として配置し、「社会人に向けての準備講座」１単位、「企業特別講座」１単位を選択科目として配置するとともに、実社会における技術の活用状況等に実際に接するための科目として、「インターンシップⅠ」２単位、「インターンシップⅡ」３単位、「課題解決型インターンシップ」２単位、「産学連携プロジェクト」２単位を選択科目として配置している。

（２）専門基礎導入

「専門基礎導入」は、「情報技術基礎導入科目群」と「情報数理系」及び「情報社会系」の科目群から編成している。

「情報技術基礎導入科目群」では、情報システム学の学問体系の理解と専門分野を体系的に学習するうえでの入門となる科目として、「プログラミング入門Ａ」３単位、「プログラミング入門Ｂ」３単位、「プログラミング入門Ｃ」３単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「コンピュータシステム入門」１単位、「マルチメディア入門」１単位、「ソフトウェア入門」１単位、「ネットワーク入門」１単位、「アルゴリズム入門」１単位、「情報デザイン入門」１単位、「データベース入門」１単位、「情報セキュリティ入門」１単位、「ＡＩ／ＤＳ導入ユニット」４単位を必修科目として配置している。

「情報数理系」では、専門分野を学修するうえで不可欠となる自然科学に関する知識や理論を習得するための科目として、「線形代数学Ⅰ－ａ」２単位、「線形代数学Ⅰ－ｂ」２単位、「線形代数学Ⅱ－ａ」２単位、「線形代数学Ⅱ－ｂ」２単位、「微分積分学Ⅰ－ｃ」３単位、「微分積分学Ⅰ－ｄ」３単位、「微分積分学Ⅱ－ｃ」３単位、「微分積分学Ⅱ－ｄ」３単位、「離散数学」２単位を選択科目として配置している。

「情報社会系」では、情報社会の進展や人々の生活との関わり、望ましい情報社会の形成に果たす役割などについて理解する科目として、「情報法規と情報モラル」２単位、「情報社会のコミュニケーション」２単位、「情報社会と情報倫理」２単位、「情報と人間」２単位、「情報と知的財産権」２単位を選択科目として配置している。

（３）専門基礎

「専門基礎」では、情報システム学の学問体系の理解と専門分野を体系的に学習するうえでの総論となる科目として、「情報システム概論」２単位を必修科目として配置したうえで、情報システムに関する基礎的な理論と知識を習得するための科目として、「情報システムのための電気電子回路」２単位、「情報システムのための力学」２単位、「情報システム工学Ⅰ」２単位、「ＩｏＴシステム」２単位、「情報通信技術」２単位、「シミュレーション設計技法Ⅰ」２単位、「情報システム工学Ⅱ」２単位、「画像情報処理」２単位、「ビッグデータ解析」２単位、「シミュレーション設計技法Ⅱ」２単位、「情報システムと人間科学」２単位を選択科目として配置している。

そのうえで、「情報システムプログラミング基礎」３単位、「情報システム基礎ユニットⅠ」３単位、「情報システム基礎ユニットⅡ」３単位を必修科目として配置している。

（４）専門

「専門」は、学生の興味と関心に応じて、「専門基礎導入」及び「専門基礎」を受けて学習する専門分野に関連する幅広い知識や理論を学習する科目として、「情報システムセキュリティ」２単位、「サイバー空間技術」２単位、「ヒューマンコンピュータインタラクション」２単位、「組み込みアプリケーション入門」２単位、「組み込みシステム入門」２単位、「ロボットメカニズム」２単位、「センシングシステム」２単位、「次世代通信技術」２単位、「ヘルスケアシステム」２単位、「ロボットとＡＩ」２単位、「組み込みアプリケーション開発」２単位、「組み込みシステム設計」２単位、「システム制御」２単位、「情報システムの社会実装」２単位を選択科目として配置し、「情報システム応用ユニット」４単位、「情報システム専門ユニット」４単位を必修科目として配置している。

そのうえで、基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、自己の研究課題に則した研究計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、研究課題に関する成果発表を行うための科目として、「卒研セミナーⅠ」１単位、「卒業研究Ⅰ」３単位、「卒研セミナーⅡ」１単位、「卒業研究Ⅱ」３単位を必修科目として配置している。

⑤　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

１　教育方法

（１）授業の方法

授業の方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実験形式や実習形式による授業形態を採ることとする。

（２）学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は５０人から８０人、演習形式は４０人、実験科目は１０人、実習科目は１０人としている。

（３）配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識・技能・応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の４年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

（４）履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、履修単位数の年間登録の上限（ＣＡＰ）を４４単位としている。

（５）厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、ＧＰＡ制度を導入する。

２　履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルを提示する。（資料２）

３　卒業要件

卒業要件は、学部に４年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、１２４単位以上を修得することとし、「共通基盤教育科目」から必修科目１６単位を含む３２単位以上、「専門教育科目」から必修科目４８単位を含む７４単位以上を修得することとしている。

⑥　入学者選抜の概要

１　基本方針

入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の目的、教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることする。

２　受入方針

情報システム学科では、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」こととしており、この教育目標を達成するために必要な教育課程の編成としている。

このような情報システム学科における教育目標や教育課程との関連性を踏まえたうえで、入学者選抜の基本的な受入方針を、以下のとおり、定めることとしている。

・情報と情報技術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している。

・高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。

・物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

なお、入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「情報と情報技

術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している」ことについては、学力検査、書類審査、面接試験、小論文試験のいずれかにより判定することとしている。

また、「高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している」ことについては、書類審査又は学力検査のいずれかにより判定することとし、「物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる」ことについては、学力検査、書類審査、面接試験、小論文試験のいずれかにより判定することとしている。

３　選抜方法

（１）実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト）により実施することとし、募集定員の割合については、総合型選抜の募集定員を１４名、学校推薦型選抜の募集定員を２２名、一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト）のうち一般入試の募集定員を２８名、大学入学共通テストの募集定員を１６名としている。

（２）総合型選抜

総合型選抜は、学科から課された課題および詳細な書類審査と丁寧な面接を組み合わせることにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的に評価し、総合的に判定することとしており、入学手続きを行った者に対しては、出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ用意することとしている。

（３）学校推薦型選抜

学校推薦型選抜における指定校制推薦入試及び公募制推薦入試は、出身高等学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定することとし、学部における入学者の受入方針と入学志願者に求める受入方針に基づき、指定校制推薦では調査書による書面審査及び面接試験と小論文試験を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。また、公募制推薦では調査書による書面審査及び面接試験と適性検査を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。

（４）一般選抜（一般入試）

一般入学試験では、学力検査として数学を必須とし、英語・国語・理科から２教科を選択する方式とする。

（５）一般選抜（大学入学共通テスト）

大学入学共通テストの成績の利用方法は、数学を必須とし、外国語、理科、国語から２教科の合計３教科３科目の総合点により選考する方式と、数学、外国語、理科、国語、社会から５教科５科目の総合点及び小論文、グループ・ディスカッション、調査書の総合点により選考する方式からなり、専門分野への興味と関心や学習意欲及び基礎学力や適性能力を適切に判断することとしている。

４　選抜体制

入学者選抜の実施体制は、入学者選抜は、中立・公正に実施することを旨とし、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないように、学長を中心とする責任体制の明確化、入試担当教職員の選任における適格性の確保など実施体制の充実を図るとともに、教員や職員等の関係者が一体となり、全学的な連携体制の確立に努めることとしている。

試験問題の作成においては、チェック体制を不断に点検するとともに、作題者以外の者を含めた重層な点検を行うことにより、ミスの防止と早期発見に努めることとし、合格者の決定業務においては、電算処理や解答のチェック体制を確立し、点検・確認するとともに、追加合格の決定業務についても、マニュアルを作成するなど、実施体制及び決定手続きを明確にすることとしている。

入学志願者の氏名や住所等、選抜を通じて取得した個人情報については、漏洩や選抜以外の目的の利用がないよう、その保護に十分留意しつつ、適切な取り扱いに努めるとともに、入学者選抜の実施に係るミスの防止に努めるため、入学者選抜業務のプロセス全体を把握したうえで、ミスを防止するためのガイドラインの作成により、業務全体のチェック体制を確立することとしている。

⑦　教員組織の編成の考え方及び特色

１　教員組織の編成の考え方及び特色

情報システム学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」としていることから、当該分野を専門とする専任教員による教員組織としており、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識や能力及び実績を有する専任教員８人（教授６人、准教授２人）を配置することとしている。

また、専任教員の配置に当たっては、博士号等の学位の保有状況をはじめ、それぞれの専門分野や領域における教育実績及び研究業績、実務経験などと担当予定の授業科目との適合性について、十分な検討のもとに配置しているとともに、教育上主要と認める授業科目には専任の教授又は准教授を配置することとしている。

２　教員組織の年齢構成及び定年規程との関係

情報システム学科の専任教員の年齢構成については、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成とすることから、４０歳台１人、５０歳台５人、６０歳台２人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、情報システム学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員は配置しないこととしており、また、定年規程との関係については、定年を迎えている者及び完成年度までに定年に達する者の配置は行わないこととしている。

⑧　施設、設備等の整備計画

本学では、昭和３８年の開学以来、教育･研究環境の整備と充実に積極的に取り組んできており、大学の教育･研究のために必要な校地及び校舎等は十分に整備されており、今般、設置する情報システム学科については、既設の創造工学部のロボット・メカトロニクス学科を基礎として設置する計画であることから、既存の校地及び校舎等を有効的に活用することとしている。

（１）校地、運動場の整備計画

情報システム学科の設置を計画している本学のキャンパスは、神奈川県厚木市下荻野に位置し、現在、校地面積約１２７，６７５㎡を有していることから、学生の休息その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されており、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、約３８，０１５㎡の面積を校舎と同じ敷地内に確保しており、運動用設備としては、全天候対応人工芝フィールドおよび陸上４００ｍトラックを設け、サッカー・ラグビー及び長短距離走の競技はもとより、フットサルやソフトボール等多目的に活用している。

さらに、隣接して両翼９５ｍ、センター１２０ｍの人工芝野球場を設け、硬式野球、ソフトボールやフットサルも可能としているとともに、全天候型テニスコート４面も有しており、授業及び学生の課外活動に利用している。

また、校地中心部に約６，０００㎡の中央緑地公園を設け、２７０席のベンチや芝地での学生の休憩やコミュニケーションの場として活用しており、この公園は、屋外の催し物を開催する場合は、約１，５００人がステージを観覧可能で、さらに万一の災害時には、石畳部分も利用することで、約２，０００人の一時避難を可能としている。

（２）校舎等施設の整備計画

本学では、現在、３６棟の校舎等の施設を有しており、延床面積は約９９，７４２㎡で、教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室６７室、演習室１２室、実験実習室６８室、情報処理室１３室、語学学習室１室を整備しており、その他、教員研究室１９５室、講師室、助手室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを整備している。

情報システム学科は、これまで継続的に教育･研究環境の整備充実に努めてきたキャンパスに設置することから、既存の校舎等施設を有効的に利用することとしており、情報システム学科の教員組織として計画している専任教員８名分の研究室８室については、既に整備されている。

設備の整備計画については、これまで大学全体で整備してきた教育研究用機器備品４，６１４点、管理用機器備品１２９点を有効的に転共用することとしている。

本学では、開設以来、常に教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組み、特に施設・設備については、十分な整備に努めてきたことから、情報システム学科を設置した場合において

も、十分に対応することが可能であると考えている。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

１）図書等の資料の整備計画

本学キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書１８６，２４４冊（うち外国書２２，６６０冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌３１４種（うち外国雑誌２種）のほか、電子ジャーナル１４種（３，７１１タイトル収録)、ビデオやＤＶＤなどの視聴覚資料５，８７１点の整備がなされていることから、これらを有効的に転共用することとしている。

また、情報システム学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するために必要となる図書等の資料としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書のうち、情報及び情報技術に密接に関連する専門図書７，２６０冊を所蔵しており、雑誌についても１６種を備えていることから、教育･研究に支障はないと考えている。

２）図書館の整備計画

図書館の機能としては、大学全体の収容定員の約１４％にあたる６６３席の閲覧座席数を整備しており、また、学生の主体的な学習の場として、電子黒板・ディスカッションテーブル等のＩＴ機器と可動机、壁面ホワイトボードを備えたActive Learning Room４室とシラバス図書を集めたReference Learning Roomからなる Active Learning spaceを設けているとともに、視聴覚ブース、サービスカウンター、レファレンスカウンターなどを有し、人的サービスを提供している。

さらに、館内に検索・電子資料閲覧・レポート作成等用途の汎用利用者パソコン３０台、検索用パソコン７台を備え、また利用可能な電子・冊子体資料を垣根なく適切にナビゲート可能なディスカバーリーサービス“World Cat Discovery Services”を導入し、図書館ホームページの検索窓からの使用を可能としている。

図書館システムは株式会社富士通製の「iLiswave-J」が稼働しており、国立情報学研究所の所蔵目録の検索、医学中央雑誌や看護文献基本データベースCINAHL等の論文検索、他大学図書館等との文献複写・相互貸借等サービスを可能としているほか、ディスカバーリーサービスにより世界最大の目録データベースOCLCのWorld Catデータの参照も可能としている。

また、検索学術情報リポジトリとして、研究紀要論文（１，２０３件)、学位論文（２２件）のほか、日産自動車カタログコレクション目録データ（４９７件)、地域資料として「NPO 法人雨岳文庫を活用する会」と連携し、伊勢原市歴史史料である雨岳文庫データベース（１０，３６５件）等を公開し、学内学術情報だけでなく地域と結びついた特色ある情報発信を行っている。

⑨　管理運営及び事務組織

１　教授会

教授会は、専任の教授をもって組織され、「学生の入学、卒業及び課程の修了」、「学位の授与」、「教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長

が定めるもの」について決定を行うに当たり意見を述べるものとするもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができることとしており、原則として、毎月１回定例で開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催している。

２　大学協議会

大学協議会は、大学全般の重要事項を審議するために設置されており、審議事項については、「大学協議会規程」に規定され、構成員は、学長、副学長、学部長、学科長、自己評価委員長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工学教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長及び同センター系列総会会長、大学担当理事及び学長が指名した者とし、原則として、毎月１回定例で開催している。

３　教授会以外の委員会

教授会以外の委員会としては、「学生部委員会」、「教務委員会」、「入学委員会」、「キャリア就職センター委員会」をはじめ、各種委員会を組織し、学生の修学支援に努めており、各委員会の審議事項については、各委員会規程により規定されており、構成員は各学部から選出され、定例的に開催している。

４　事務組織

事務業務の処理と遂行を行うための事務組織体制としては、経営管理本部と学生支援本部を置き、経営管理本部は、組織全体に関する事務全般を取扱うこととして、総務課、庶務課、財務課、外部資金課、管財課、企画入学課を置いており、学生支援本部は、授業運営と学生支援に関する事務全般を扱うこととして、教務課、学生課、キャリア就職課、卒業生支援課、国際課、図書館サービス課を置いており、教学組織との連携協力のもと、業務の専門性や効率性の向上に努めている。

また、学生の厚生補導にかかる業務については学生課が担当することとしており、厚生補導のための職員を配置し、学生の大学生活やその他生活全般にかかわる事柄に関して、組織的な相談・指導・助言あるいは援助などのサポート活動を行っており、特に学生支援においては、教学組織として学生サポート室を置き、早期学生支援や障害学生支援に当たることとしており、教学組織と事務組織との協働・連携の重要性の認識のもと、教職協働による取組みを推進している。

⑩　自己点検・評価

１　基本方針

本学では、自らが掲げる目的の達成および理念の実現のため、継続的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、本学の教育研究の水準を保証し向上させ、本学に対する社会の信頼を一層確実なものとする。

２　実施体制

本学では、内部質保証に関する規程において、自己点検・評価を継続的かつ総合的に実施するため、自己点検・評価に関する統括委員会として、理事長、学長、研究科長、専務理事、常務理事、副学長、担当理事、教員自己点検・評価委員長で構成する「内部質保証委員会」を置き、自己点検・評価に関する定期的な実務を担当する組織として、学長、研究科長、専務理事、常務理事、副学長、担当理事、入学委員長、教務主任、学生部長、キャリア就職委員長、３つのポリシー運営委員会委員長、教育開発センター所長、教員自己点検・評価委員長、工学教育研究支援機構長、事務部門の担当部長による「自己評価委員会」を置くこととしている。

３　実施方法

自己評価委員会は、次の各事項について、審議し、決定し、実施する。

(1) 自己点検・評価項目の設定および変更、

(2) 評価のあり方に関する事項、

(3) 自己点検・評価の実施に関する事項、

(4) 改善・改革に向けた方策の実施に関する事項、

(5) 教員の自己点検・評価に関する事項、

(6) 自己点検・評価結果の公表に関する事項、

(7) 認証評価機関の評価に関する事項、

(8) その他、大学の自己点検・評価に関する事項

について審議し、決定し、実施している。

また、自己点検・評価結果については、その内容を内部質保証委員会に報告しているとともに、改善等を要すると認められる事項については、関連ある学内組織に適切な対応策を検討し、実施することを要請している。

内部質保証委員会は、自己評価委員会から提出された定期的な点検・評価結果及び外部評価委員会の検証結果について審議し、課題等に関する方針の策定、実施、点検及び改善について常に検討し、必要な事項を実施するとともに、文部科学省や認証評価機関等からの指摘事項については、迅速かつ適切に対応することとしている。

内部質保証委員会で策定・決定した方針、課題及び改善策などの実施を自己点検・評価に関する日常的な実務を担う各組織に要請し、各組織はこれを適切、適正に実施するとともに実施状況を絶えず点検・評価を行い、改善等を要すると認められる事項については適切な対応策を検討、実施し、点検・評価結果を自己評価委員会へ報告することとしており、その内容については、自己評価委員会で審議し、結果を内部質保証委員会へ報告することとしている。

なお、教員の自己評価については毎年行い、分析内容を教授会へ報告することとしている。

４　評価項目

評価項目については、以下の通りとしている。

(1) 理念・目的

(2) 内部質保証

(3) 教育研究組織

(4) 教育課程・学習成果
(5) 学生の受け入れ
(6) 教員・教員組織
(7) 学生支援
(8) 教育研究等環境
(9) 社会連携・社会貢献
(10) 大学運営・財務

5　結果の活用及び公表

評価の結果については、教育活動や研究活動などの改善策を検討し、改善計画や教育活動や研究活動などで達成すべき目標を設定する際に活用し、評価結果を反映させることとしており、評価の結果は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書を作成し、配布することにより公表することとしている。

⑪　情報の公開

1　実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしており、ホームページのアドレスは、「http://joho.kait.jp」であり、検索方法については、「トップ＞＞情報公表」により検索することができる。

2　実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表している。

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること。
(2) 教育研究上の基本組織に関すること。
(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

(10) その他の関連する情報

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

・学則等各種規程

・設置認可申請書

・設置届出書

・設置計画履行状況等報告書

・自己点検・評価報告書

・認証評価の結果

3　公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行っている。

(1) 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。

(2) 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。

(3) 教員組織に関する情報については、組織内の役割分担や年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを明らかにする。

(4) 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。

(5) 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。

(6) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。

(7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。

(8) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。

(9) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。

(10) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、寄宿舎や学生寮等の宿舎に関する費用、教材購入費、施設利用料等の費用に関することをできるだけ明らかにする。

(11) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。

⑫　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1　授業の内容及び方法の改善のための組織的な研修等

（1）実施体制

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施については、「教育開発センター」が担うこととしており、業務を円滑に果たすため、教育開発センター運営委員会を設置し、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画の立案と実施の推進を行うこととしている。

（2）実施内容

教育内容等の改善の組織的な研修等の実施内容については、以下に掲げる項目による取り組みを行うこととしている。

(1) シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する規則整備をするとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。

(2) 学生による授業アンケート調査を実施するとともに、評価結果に基づき、各教員が授業の内容や方法の改善に役立てる。

(3) 授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などの接続関係について教員の相互理解を図る。

(4) 授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するための教育手法や評価方法等の研修会を実施する。

(5) 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。

(6) 授業技術や教材開発に関する定期的な研究会と研究成果の発表会を開催するとともに、授業公開の一環として報告書を作成する。

2　大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等

（1）実施体制

大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、大学職員に必要な知識や技

能を習得させるとともに，必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組みについては、「神奈川工科大学 職員研修企画運営委員会規程」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育･研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の修得及び能力・資質の向上のための活動（ＳＤ活動）を推進することとしており、「情報セキュリティ」、「ハラスメント」、「高大接続」、「キャリア就職支援」、「文献データベース」、「高等教育政策の動向」といった大学を取巻く問題を定期的に取上げて実施することとしている。

事務職員を対象とした研修等は、職員研修企画運営委員会が中心となって行い、教員に対する研修等は、教育開発センターが中心となって行うこととしており、教育開発センターが主催する研修等についても、事務職員も積極的に参加することとしている。

（２）実施内容

具体的なＳＤ活動については、以下に掲げる項目により行う。

(1) ３つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関する事項

(2) 教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関する事項

(3) 大学改革に関する事項

(4) 学生の厚生補導に関する事項

(5) 業務領域の知見の獲得を目的とする事項

(6) その他職員研修企画運営委員会で企画運営することが適当とされる事項

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学等が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別している。

⑬ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１ 教育課程内における取組み

本学では、「共通基盤教育」の「キャリア系」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目群として位置付けており、特に、「キャリア系」に必修科目として配置している「キャリア設計１」１単位、「キャリア設計２」１単位、「キャリア設計３」１単位及び選択科目として配置している「社会人に向けての準備講座」１単位、「企業特別講座」１単位の５科目において、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

なお、教育課程内の取組みにおける組織体制は、教務委員会とキャリア就職委員会による社会的・職業的自立に関する指導等に関する連絡協議会を設けている。

２ 教育課程外の取組み

社会的･職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、国家試験対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、企業等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導などを行うこととしており、教育課程外の取組みにおける組織体制としては、キャリア就職委員会及びキャリア就職課が担当することとしている。

資料目次

資料１　　学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程の関係図

資料２　　履修モデル

資料１（本文　Ｐ１、３）

学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程の関係図　（情報システム学科）

ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	授業科目　*○内数字は単位数*
1　知識・リテラシー ①　情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。 ②　情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。	①　専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。	＜専門基礎導入・情報技術基礎導入科目群＞ プログラミング入門 A③，プログラミング入門 B③，プログラミング入門 C③ コンピュータシステム入門① マルチメディア入門①，ソフトウェア入門①，ネットワーク入門①， アルゴリズム入門①，情報デザイン入門①，データベース入門①， 情報セキュリティ入門①， AI/DS 導入ユニット④ ＜専門基礎導入・情報数理＞ 線形代数学Ⅰ-a②，Ⅰ-b②，線形代数学Ⅱ-a②，Ⅱ-b② 微分積分学Ⅰ-c③，Ⅰ-d③，微分積分学Ⅱ-c③，Ⅱ-d③ 離散数学② ＜専門基礎（1 年次）＞ 情報システム概論② 情報システムプログラミング基礎③
	②　共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。	＜共通基盤・導入系＞ アカデミック ICT スキル①，専門分野概論①，理工学入門① ＜共通基盤・数理情報系＞ 身の回りの数学②，実感する科学②， 情報･ＡＩリテラシー　（情報基礎）②，ＡＩとデータサイエンス（情報応用）② ＜専門基礎（1 年次）＞ 情報システムのための電気電子回路② 情報システムのための力学②

2　課題解決力 ③　基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。 ④　情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。	③　専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。	＜専門基礎（2 年次）＞ 情報システム工学 I②，情報システム工学Ⅱ②， シミュレーション設計技法 I②，シミュレーション設計技法 II②， IoT システム②，情報通信技術② 画像情報処理②，ビッグデータ解析② 情報システムと人間科学② ＜専門（3 年次）＞ 情報システムセキュリティ②，サイバー空間技術②，次世代通信技術② システム制御②，情報システムの社会実装② 組み込みアプリケーション入門② ，組み込みシステム入門 ② ロボットメカニズム②，ロボットと AI②，センシングシステム② 組み込みアプリケーション開発②，組み込みシステム設計② ヒューマンコンピュータインタラクション② ヘルスケアシステム② ＜基礎ユニット（2 年次）＞ 情報システム基礎ユニットⅠ③，情報システム基礎ユニットⅡ③
	④　主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。	情報システム応用ユニット④ 情報システム専門ユニット④ 卒業研究Ⅰ③ 卒業研究Ⅱ③
3　学修に向き合う力、情報技術者としての人間性 ⑤　情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション	⑤　社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技	＜共通基盤・キャリア系＞ キャリア設計Ⅰ～Ⅲ（各①），社会人に向けての準備講座①，企業特別講座① インターシップⅠ～Ⅱ（各②），課題解決型インターシップ②，産学連携プロジェクト②

能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。 ⑥　主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。	術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。	＜共通基盤＞ スタディスキル① 現代社会講座② 人文社会系ａ群，ｂ群，ｃ群の科目（各②） 健康･スポーツ系の科目（各①） 英語Ⅰ～Ⅴ（各①），言語応用系ａ群（各①），ｂ群の科目（各②） ＜専門基礎導入・情報社会系＞ 情報社会のコミュニケーション② 情報と人間②
	⑥　情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。	＜共通基盤・倫理系＞ 技術者倫理② ＜専門基礎導入・情報社会系＞ 情報法規と情報モラル②，情報社会と情報倫理②，情報と知的財産権② ＜専門・卒業研究関係＞ 卒研セミナーⅠ①，卒研セミナーⅡ①

教育上の目的及び養成する人材等

【教育上の目的】

教育研究を対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

【養成する人材】

「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

1　知識・リテラシー

①　情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。

②　情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。

2　課題解決力

③　基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。

④　情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。

3　学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

⑤　情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。

⑥　主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。

【教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）】

1　知識・リテラシー

①　専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。

② 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。

2　課題解決力

③ 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。

④ 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。卒業研究では、卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリックで評価する。

3　学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

⑤ 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。

⑥ 情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞　倫理系科目やキャリア系科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）を総合的にルーブリックで評価する。

【履修モデル】

「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報技術のロボットへの応用」「情報技術のライフサポートシステムへの応用」の**能力を有した人材を養成するモデル。**

神奈川工科大学　情報学部　情報システム学科　履修モデルＡ（情報技術のロボットへの応用に関心のある学生）

科目群		１年次（令和６年度）		２年次（令和７年度）		３年次（令和８年度）		４年次（令和９年度）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通基盤	導入系[3]	アカデミックICTスキル 1							
	導入系	専門分野概論 1							
	導入系	スタディスキル 1							
	倫理系[2]					技術者倫理 2			
	人文社会[8]		現代社会講座 2		社会の科学 2	心理学 2	社会学 2		
	健康・スポーツ系[1]		健康・スポーツ科学実習Ⅰ 1						
	英語基礎系[3]	英語Ⅱ 1	英語Ⅲ 1	英語Ⅳ 1					
	言語応用系[4]			日本語表現技術 2		科学技術英語Ⅰ 1	科学技術英語Ⅱ 1		
	数理情報系[6]	実感する科学 2			身の回りの数学 2				
	数理情報系	情報・AIリテラシー（情報基礎） 2							
	キャリア系[5]		キャリア設計Ⅰ 1	キャリア設計Ⅱ 1	課題解決型インターシップ 2	キャリア設計Ⅲ 1			
	小計	8	5	4	6	6	3	0	0
専門基礎導入	専門基礎導入	プログラミング入門A 3	プログラミング入門C 3	AI/DS導入ユニット 4			情報と知的財産権 2		
		プログラミング入門B 3	アルゴリズム入門 1	線形代数学Ⅱ 2					
		コンピュータシステム入門 1	情報デザイン入門 1	微分積分学Ⅰ 3	微分積分学Ⅱ 3				
		マルチメディア入門 1	データベース入門 1						
		ソフトウェア入門 1	情報セキュリティ入門 1						
		ネットワーク入門 1	線形代数学Ⅰ 2						
	小計	10	9	9	3	0	2	0	0
専門基礎		情報システム概論 2	情報システムプログラミング基礎 3	情報システム基礎ユニットI 3	情報システム基礎ユニットII 3				
			情報システムのための電気電子回路 2	IoTシステム 2	画像情報処理 2				
			情報システムのための力学 2	情報通信技術 2	ビッグデータ解析 2				
				シミュレーション設計技法I 2	シミュレーション設計技法II 2				
	小計	2	7	9	9	0	0	0	0
専門						情報システム応用ユニット 4	情報システム専門ユニット 4	卒研セミナーI 1	卒研セミナーII 1
						センシングシステム 2	ロボットとAI 2	卒業研究I 3	卒業研究II 3
						ロボットメカニズム 2	システム制御 2		
						組み込みアプリケーション入門 2	組み込みアプリケーション開発 2		
						組み込みシステム入門 2	組み込みシステム設計 2		
	小計	0	0	0	0	12	12	4	4
合計		20	21	22	18	18	17	4	4
年次別合計		41		40		35		8	
卒業単位		124							

神奈川工科大学　情報学部　情報システム学科　履修モデルB（情報技術のライフサポートシステムへの応用に関心のある学生）

科目群		１年次（令和６年度）		２年次（令和７年度）		３年次（令和８年度）		４年次（令和９年度）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通基盤	導入系[3]	アカデミックICTスキル 1							
	導入系	専門分野概論 1							
	導入系	スタディスキル 1							
	倫理系[2]						技術者倫理 2		
	人文社会[8]		現代社会講座 2		心の科学 2	社会学 2	心理学 2		
	健康・スポーツ系[1]		健康・スポーツ科学実習Ⅰ 1						
	英語基礎系[3]	英語Ⅱ 1	英語Ⅲ 1	英語Ⅳ 1					
	言語応用系[4]			日本語表現技術 2		科学技術英語Ⅰ 1	科学技術英語Ⅱ 1		
	数理情報系[6]	実感する科学 2			身の回りの数学 2				
	数理情報系	情報・AIリテラシー（情報基礎） 2							
	キャリア系[5]		キャリア設計Ⅰ 1	キャリア設計Ⅱ 1	課題解決型インターシップ 2	キャリア設計Ⅲ 1			
	小計	8	5	4	6	4	5	0	0
専門基礎導入	専門基礎導入	プログラミング入門A 3	プログラミング入門C 3	AI/DS導入ユニット 4		情報社会のコミュニケーション 2	情報と人間 2		
		プログラミング入門B 3	アルゴリズム入門 1	線形代数学Ⅱ 2		情報法規と情報モラル 2	情報と知的財産権 2		
		コンピュータシステム入門 1	情報デザイン入門 1	微分積分学Ⅰ 3	微分積分学Ⅱ 3				
		マルチメディア入門 1	データベース入門 1						
		ソフトウェア入門 1	情報セキュリティ入門 1						
		ネットワーク入門 1	線形代数学Ⅰ 2						
	小計	10	9	9	3	4	4	0	0
専門基礎		情報システム概論 2	情報システムプログラミング基礎 3	情報システム基礎ユニットⅠ 3	情報システム基礎ユニットⅡ 3				
			情報システムのための電気電子回路 2	IoTシステム 2	画像情報処理 2				
			情報システムのための力学 2	情報通信技術 2	ビッグデータ解析 2				
					情報システムと人間科学 2				
	小計	2	7	7	9	0	0	0	0
専門						情報システム応用ユニット 4	情報システム専門ユニット 4	卒研セミナーⅠ 1	卒研セミナーⅡ 1
						センシングシステム 2	ヘルスケアシステム 2	卒業研究Ⅰ 3	卒業研究Ⅱ 3
						サイバー空間技術 2	情報システムの社会実装 2		
						情報システムセキュリティ 2			
						ヒューマンコンピュータインタラクション 2			
	小計	0	0	0	0	12	8	4	4
合計		20	21	20	18	20	17	4	4
年次別合計		41		38		37		8	
卒業単位		124							

（１）学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　大学等の現状把握・分析

急速に少子高齢化が進み、人口減少社会における労働力不足が懸念されている現代社会においては、質の高い教育を通じて、多様な能力を持つ人材の養成が不可欠であることから、大学においては、大学の特徴や強みを最大限に活かすかたちで、それぞれの役割や機能に応じて、教育力や研究力の向上につながる改革にスピード感をもって取り組むことが重要であると考えている。

このことから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、大学における教育・研究の質の維持や向上への積極的な取り組みとして、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた教育内容を基盤として、その教育課程及び教員組織並びに施設設備等を基礎としつつ、当該分野の教育・研究力のさらなる向上に向けて、既設の情報学部に情報システム学科を設置することとした。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

現代社会では、コンピュータの処理能力やネットワーク技術の向上に伴い、コンピュータの活用も大きく変化しており、通信技術の発達による複数の情報システムを連携させた、新たな社会生活上のサービスや価値が生まれるようになっていることから、情報システムの発展と社会の変化に対応した新たな考え方や能力が必要となっている。

このような情報化社会を取り巻く環境の変化を踏まえたうえで、本学の情報学分野における教育研究体制のより一層の充実と機能の強化に向けて、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた情報学分野に関する教育研究実績を基盤として、令和６年４月より、既設の情報学部に新たに情報システム学科を設置することとした。

ウ　新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

１　新設学科等の趣旨目的

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

２　アやイで分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか

情報システム学科の設置は、高等教育を取り巻く社会環境の変化及び進学希望者の動向や進学意向を踏まえたものであり、「ア」において課題として掲げている「教育力や研究力の向上につながる改革」に貢献できるものであり、「当該分野のさらなる教育・研究力の向上」に貢献できるものである。

また、情報システム学科の設置は、情報化社会の進展を踏まえたものであり、「イ」に

おいて課題として掲げている「新たな社会生活上のサービスや価値の創造」に貢献できるとともに、「情報システムの発展と社会の変化への対応」に貢献できるものであると考えている。

３　定員設定の理由

定員設定の理由は、学生確保の見通しの調査結果、新設学部等の分野の動向、中長期的な１８歳人口の地域的動向等、競合校の状況、既設学部等の学生確保の状況などを総合的に勘案するとともに、情報システム学科における教員組織、教育課程、施設設備及び学科運営に係る財務的な視点等を勘案したうえで、教育の質の保証の観点から、充実した教育研究体制の確保が可能となるよう配慮し、入学定員を８０名としている。

４　今、学科等を新設しなければいけない理由

今般、設置を計画している情報システム学科は、情報学分野における高等教育機関として長年にわたり培ってきた教育研究実績をもとに、現代社会において喫緊の課題とされているコンピュータを活用した新たな社会生活上のサービスや価値の創造への対応にむけた教育研究組織として設置するものであり、高度情報化社会における情報技術の進展への貢献を目指すものである。

５　新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

情報システム学科の学生納付金の額は、入学金２０万円、授業料１４１万８千円としており、学生納付金の設定根拠は、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合が想定される教育組織を設置している私立大学（東京電機大学、東京都市大学、埼玉工業大学）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や教育活動支出依存率を見極めつつ、学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定としている。（資料１）

ｴ　学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果

（１）進学需要調査結果

情報システム学科の設置計画を策定するにあたり、定員充足の見込みについて客観的な根拠となるデータから検証することを目的として、本学への受験実績や進学実績のある高等学校を中心とする２年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、高等学校卒業後の進路について「大学進学（４年制・６年制）」と回答した者で、進学する分野について「工学・理学関係」と回答した者のうち、神奈川工科大学の情報システム学科に「興味・関心がある」と回答し、神奈川工科大学に情報システム学科が設置された場合「受験を希望する」と回答した者で、情報システム学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した２年生は９４人となっている。

このように、本学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の２年生に限定した調査結果においても、情報システム学科の入学定員を上回る進学意向が確認されたこと

から、学生確保については十分な見通しがあると考えられる。（資料２）

Ｂ．新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の「主な学部別の志願者・入学者動向」における「理・工学系（情報科学部）」による最近４年間（令和元年度～令和４年度）の入学定員に対する志願者数と志願倍率の平均は、入学定員１，０７１人に対して志願者数は２９，５２０人、志願倍率は２７．６倍となっており、入学定員充足率の平均は１０８．９１％と安定した状況となっている。

このように、今般、設置を計画している情報システム学科と同分野の「理・工学系（情報科学部）」における最近の全国的な志願者及び入学者の動向からも、情報学分野における安定的な志願者数と入学者数の状況が見られることから、学生確保においては十分な見込みがあると考えられる。（資料３）

Ｃ．　中長期的な１８歳人口の全国的、地域的動向等

（１）設置県内の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し

令和４年度の神奈川県の学校基本調査によると、情報システム学科の設置初年度に受験対象者となる神奈川県内の高等学校に在籍している１年生の生徒数は６４，４５１人、２年目に受験対象者となる神奈川県内の中学校に在籍している３年生の生徒数は７６，０５８人となっている。

また、３年目に受験対象者となる２年生の生徒数は７５，０８６人で、４年目に受験対象者となる１年生の生徒数は７４，２３６人で、神奈川県内の中学校を卒業した者の高等学校等への令和４年度の進学率９９．２％を勘案した場合、今後、神奈川県内の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあると考えられる。（資料４）

（２）神奈川県の人口動向等　－年齢別人口による中長期的な見通し－

１８歳人口が減少する中で、神奈川県における学齢人口の減少は比較的緩やかな傾向が示されており、神奈川県が公表している令和４年の年齢（５歳階級）別推計人口をみると、１４歳～１０歳の人口は３８３，５９１人、９歳～５歳の人口は３６２，８８０人となっており、今後の大学受験対象者となる１４歳～５歳までの年齢別人口は、微増減を繰り返しながら穏やかに推移していくことから、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。（資料５）

（３）神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況による見通し

令和４年度の神奈川県の学校基本調査によると、神奈川県内の高等学校を卒業した者の過去４年間の大学進学状況は、平成３１年３月は卒業者６６，６０５人のうち大学等進学者は４０，４２７人で大学進学率は６０．７％、令和２年３月は卒業者６５，６８４人のうち大学進学者は４０，００３人で大学進学率は６０．９％、令和３年３月は卒業者６５，２９３人のうち大学進学者は４１，２１８人で大学進学率は６３．１％、令和４年３月は卒業者６４，７８６人のうち大学進学者は４２，７７９人で大学進学率は６６．

０％となっている。

また、神奈川県内の高等学校を卒業した者の過去４年間の大学進学率については、平成３１年３月の６０．７％から令和４年３月では６６．０％と５．３ポイント上昇していることからも、今後、神奈川県内の大学進学者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと思われる。（資料６）

（４）神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

情報システム学科を設置する情報学部における最近４年間の入学者の状況をみると、神奈川県内の高等学校を卒業した者の割合は、入学者総数１，９６６人の約４３．９％にあたる８６４人となっており、最近４年間の入学者数の状況をみても、神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学者の傾向は続くものと見込まれ、先に記した神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況等と併せてみた場合、中長期的にも安定した志願者と入学者の確保を見込むことができると考えられる。（資料７）

Ｄ．競合校の状況

情報システム学科との競合が想定される東京電機大学のシステムデザイン工学部の情報システム工学科における最近４年間の志願者等の状況を見ると、入学定員１３０人に対して志願者数の平均は３，０３２人で定員充足率の平均は１１３．９％となっている。

また、情報システム学科との競合が想定される東京都市大学のメディア情報学部の情報システム学科における最近４年間の志願者等の状況を見ると、入学定員の平均９５人に対して志願者数の平均は１，６５０人で定員充足率の平均は１１２．７％となっている。

さらに、情報システム学科との競合が想定される埼玉工業大学の工学部の情報システム学科における最近４年間の志願者等の状況を見ると、入学定員１５０人に対して志願者数の平均は２，６１７人で定員充足率の平均は１５１．５％となっている。

このように、情報システム学科との競合が想定される私立大学の類似学科では、１８歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と定員充足率を維持しており、競合が想定される私立大学の志願者動向等からも定員充足を見込むことができると考えられる。（資料８）

Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

今般、情報システム学科を設置する情報学部の最近４年間の入学定員（４４０人）に対する志願者数の平均は約３，７７０人、定員充足率の平均は約１１３．３％となっており安定した学生確保の状況を維持している。（資料９）

また、本学の既設の学部・学科における最近４年間の志願者数及び入学定員に対する志願者の割合並びに定員充足率等は、別添の資料10の通りとなっており、安定した学生確保の状況を維持していることから、情報システム学科を設置した場合でも、学生確保を見込むことができると考えている。（資料10）

オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

（５）学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内、各種イベント告知チラシ等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けの SNS 等の電子媒体による情報の提供、進学情報誌等の各種メディアを活用したＰＲ活動を行うとともに、資料請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の提供を行うことを予定している。また、高等学校訪問、オープンキャンパス、受験相談会や高等学校の教諭および塾・予備校向け説明会等の開催、各地域における進学相談会への参加を通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通した活動や想定される進路等の様々な教育情報について、設置圏域を中心とする 高校生や保護者、高等学校の教諭に対して広く周知を図ることとしている。

１　高等学校訪問

高等学校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略（昨年度実績延べ5，293校）は、今後も 強化を図ることとしている。 具体的には、募集広報に係る高等学校訪問を専門とする企画入学課の広報担当職員の下で、神奈川県を中心に主に東日本地域の最重点訪問校や重点訪問校のセグメントによる高等学校訪問計画の策定、指定高校枠の設定により確実な入学者の確保を目指すこととする。 高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の教諭に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで高等学校教諭との信頼関係が構築できた場合には、高等学校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえる等の効果が期待される。 また、高等学校からの要請に応じ、出張授業を実施する本学教員が高等学校に赴き、大学で学ぶ 学問をわかりやすく生徒に講義することで、専門的知識を深めることの興味・関心を喚起するとともに、大学で学ぶ意義を理解してもらう。(資料11)

２　オープンキャンパス

本学への入学を希望・考慮している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、 本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとして、オープンキャンパスの実施を予定している。専任教員による模擬授業、在学生や教員による研究活動の紹介、キャンパスツアー、大学説明会、各学科プログラム、保護者向け説明会、学生スタッフ企画、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付ける等、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深めてもらうとともに、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。また、オープンキャンパスの他に、本学ホームページにおいてオンラインによる個別相談を可能にしており受験生、保護者からの質問に応じられるようにする他、個別キャンパスツアーやミニオープンキャンパスなど、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらう企画を通じ、本学

への進路決定を促すことへの機会とする。(資料12)

３　高校、塾・予備校教員向け説明会

高等学校および塾・予備校の教員を対象とする説明会を開催する予定としており、学長による大学紹介、学部・学科別の個別説明、入試概要、大学施設の見学など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を行うこととしており、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらうことの効果が期待される。(資料13)

４　進学相談会

全国の主要な都市で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加を予定しており、大学・学部資料の配付、学位授与の方針・教育課程編成の方針・入学者受入の方針、授業科目や講義等の内容、想定される卒業後の進路などに関する情報を広く提供することにより、広域から学生を確保することの効果が期待される。(資料14)

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

②　上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

１　基礎となる学科における求人状況及び就職状況

情報システム学科を設置する情報学部に対する最近４年間の求人件数は、令和元年度４０，９８０件、令和２年度３８，４９２件、令和３年度３６，５８３件、令和４年度４２，３３６件となっており、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ている。

また、情報学部の過去４年間の就職実績は、令和元年度は就職希望者３４２人に対して就職者数３３６人で就職率は約９８．２％、令和２年度は就職希望者２９７人に対して就職者数２８２人で就職率は約９４．９％、令和３年度は就職希望者３０８人に対して就職者数２９６人で就職率は約９６．１％、令和４年度は就職希望者３４８人に対して就職者数３２５人で就職率は約９３．４％となっており、高い就職率で推移している。

このことは、情報学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、今

般、設置を計画している情報システム学科は、情報学分野の高度技術社会に一層貢献できる教育組織として設置することから、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。(資料 15)

２　人材需要調査結果

今般、情報システム学科の設置計画を策定するうえで、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、これまで本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等を対象として、情報システム学科の卒業生に対する人材需要に関するアンケート調査を実施した。

その結果、調査対象企業等における今後の人材の採用見込については、調査票回収件数１０１件の約８６．１％にあたる８７件が「増加すると思う」と回答していることから、今後における人材の採用見込みの高さをうかがうことができる。

情報システム学科で養成する人材の必要性については、調査票回収件数１０１件の約９９．０％にあたる１００件が「必要性を感じる」と回答していることから、情報システム学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる結果となっている。

また、情報システム学科で学んだ卒業生の採用については、調査票回収件数１０１件の１００．０％にあたる１０１件が「採用したいと思う」と回答しており、情報システム学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

さらに、情報システム学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した調査対象企業等の単年度当りの採用人数については、「１人」と回答したのが８件、「２人」と回答したのが１５件、「３人以上」と回答したのが２３件、「人数は未定」と回答したのが５５件となっており、採用人数「３人以上」と回答した企業等の採用人数を３人、「人数は未定」と回答した企業等の採用人数を１人として、これらの採用人数を合計すると１６２人となり、この採用人数からも情報システム学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の企業等に限定した調査結果においても、情報システム学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。(資料 16)

資料目次

資料１　　競合が想定される私立大学の学生納付金

資料２　　進学需要等調査　－抜粋―
（進学需要等に関するアンケート調査結果報告書）

資料３　　主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

資料４　　神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数

資料５　　神奈川県の人口動向等

資料６　　神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況

資料７　　神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

資料８　　競合が想定される私立大学の志願者等の動向

資料９　　基礎となる学部・学科の志願者等の動向

資料 10　既設学部・学科の学生確保の状況

資料 11　高等学校訪問の具体的計画について

資料 12　オープンキャンパスの具体的計画について

資料 13　高等学校教員説明会（塾予備校含む）等の具体的計画について

資料 14　進学相談会の具体的計画について

資料 15　基礎となる学部・学科の就職状況等

資料 16　人材需要等調査　－抜粋―
（進学需要等に関するアンケート調査結果報告書）

資料 17　神奈川工科大学　情報システム学科（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査　結果報告書　一式

【資料１（本文Ｐ２）】

競合が想定される私立大学の学生納付金

大学・学部等名	入学金	授業料等	合計
神奈川工科大学大学 情報学部 情報システム学科	200,000 円	1,418,000 円	1,618,000 円

大学・学部等名	入学金	授業料等	合計
東京電機大学 システムデザイン工学部 情報システム工学科	250,000 円	1,421,160 円	1,673,160 円
東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科	200,000 円	1,350,000 円	1,550,000 円
埼玉工業大学 工学部 情報システム学科	250,000 円	1,404,000 円	1,654,000 円

【資料２（本文Ｐ３）】

進学需要等に関するアンケート調査　－抜粋―

◇高等学校卒業後の進路

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数 2,587 人の約 81.8%にあたる 2,117 人が「大学進学（４年制・６年制)」「短期大学進学」「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学」と回答している者は、回答者数 2,587 人の約 65.7%にあたる 1,699 人となっている。

問１　高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学進学（４年制・６年制）	1,699	65.7
2	短期大学進学	40	1.5
3	専門学校進学	378	14.6
4	就職	436	16.9
5	その他	31	1.2
	未回答・不明	3	0.1
	合計	2,587	100.0

◇進学を希望する分野

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第１希望においては「工学・理学関係」と回答した者が回答者数 2,587 人の約 29.0%にあたる 749 人で最も多く、次いで「経済学・経営学関係」と回答した者が約 9.5%にあたる 247 人、「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約 8.7%にあたる 224 となっている。

問２　進学を希望する分野

No.	カテゴリ	第１希望		第２希望	
		件数／人	全体／%	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学関係	224	8.7	198	7.7
2	教育学・保育学関係	172	6.6	235	9.1
3	法学・政治学関係	50	1.9	132	5.1
4	社会学・福祉学関係	68	2.6	135	5.2
5	経済学・経営学関係	247	9.5	319	12.3
6	工学・理学関係	749	29.0	220	8.5
7	医学・歯学・薬学関係	87	3.4	169	6.5
8	食物学・栄養学関係	128	4.9	151	5.8
9	家政学・生活科学関係	22	0.9	60	2.3
10	美術学・音楽学関係	104	4.0	206	8.0
11	健康学・スポーツ学関係	182	7.0	216	8.3
12	医療技術学関係	59	2.3	120	4.6
13	看護学関係	148	5.7	70	2.7
14	その他	245	9.5	129	5.0
	未回答・不明	102	3.9	227	8.8
	合計	2,587	100.0	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心について質問したところ、回答者数 2,587 人の約 24.0%にあたる 621 人が「興味・関心がある」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問３　神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	621	24.0
2	興味・関心がない	1,928	74.5
	未回答・不明	38	1.5
	合計	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科の受験希望

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、神奈川工科大学の情報システム学科が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 2,587 人の約 11.7%にあたる 302 人が「受験を希望する」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科への受験に積極的な意向を示している。

問４　神奈川工科大学の情報システム学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	302	11.7
2	受験を希望しない	2,169	83.8
	未回答・不明	116	4.5
	合計	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望

問４で神奈川工科大学の情報システム学科の「受験を希望する」と回答した高等学校の２年生に、神奈川工科大学の情報システム学科に合格した場合の入学希望について質問したところ、回答者数 302 人の約 62.9%にあたる 190 人が「入学を希望する」と回答している。

なお、問１で高等学校卒業後の進路を「大学進学（４年制・６年制）」と回答し、問２で進学する分野の第１希望を「工学・理学関係」と回答した者で、かつ問３で神奈川工科大学の情報システム学科への「興味・関心がある」と回答し、問４で神奈川工科大学の情報システム学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、神奈川工科大学の情報システム学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した者は 94 人となっている。

このような神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の２年生に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問５　神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学を希望する	190	62.9
2	併願先の結果によって入学する	103	34.1
3	入学を希望しない	7	2.3
	未回答・不明	2	0.7
	合計	302	100.0

問１×問２×問３×問４×問５　情報システム学科への入学希望　－クロス集計－

No.	問１ × 問２ × 問３ × 問４ × 問５	件数／人
－	「1」×「6」×「1」×「1」×「1」	94

主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

【情報科学部】

年度	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
令和元年度	1,046	26,130	1,126	107.65
令和２年度	1,046	27,781	1,136	108.60
令和３年度	1,090	29,130	1,237	113.49
令和４年度	1,100	35,040	1,165	105.91
４年間平均	1,071	29,520	1,166	108.91

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」－抜粋－

【資料４（本文Ｐ３）】

神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数

【高等学校 学年別生徒数】

区　分	本科		
	１学年		
	計	男	女
令和４年度	64,451	32,563	31,888

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【中学校 学年別生徒数】

区　分	１学年			２学年			３学年		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
令和４年度	74,236	37,889	36,347	75,086	38,451	36,635	76,058	38,995	37,063

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【中学校 高等学校進学者】

区　分	中学校卒業者			高等学校進学者			高等学校進学率
	計	男	女	計	男	女	（%）
令和４年度	75,512	38,626	36,886	74,873	38,247	36,626	99.2

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【資料５（本文Ｐ３）】

神奈川県の人口動向等

【年齢（各歳・５歳階級）別、男女別人口】

年齢	総数	男	女
５～９	362,880	186,061	176,819
１０～１４	383,591	196,541	187,050

神奈川県年齢別人口統計調査（令和４年）－抜粋－

【資料６（本文Ｐ４）】

神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況

【高等学校 大学等進学者】

区　分	高等学校卒業者			大学等進学者			大学等進学率（%）
	計	男	女	計	男	女	
平成３１年３月	66,605	33,314	33,291	40,427	19,463	20,964	60.7
令和２年３月	65,684	33,074	32,610	40,003	19,507	20,496	60.9
令和３年３月	65,293	32,879	32,414	41,218	20,488	20,730	63.1
令和４年３月	64,786	32,826	31,960	42,779	21,591	21,188	66.0

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【資料７（本文Ｐ４】

神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

学部	年度	入学者数	県内高校卒業者数	割合
情報学部	令和２年度	436	183	42.0%
	令和３年度	492	205	41.7%
	令和４年度	517	234	45.3%
	令和５年度	521	242	46.4%
	合計	1966	864	43.9%

【資料８（本文Ｐ４）】

競合が想定される私立大学の志願者等の動向

大学／学部・学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
東京電機大学 システムデザイン学部 情報システム工済学科 入学定員：130 人	令和元年度	2820	272	145	111.5
	令和２年度	2913	325	148	113.9
	令和３年度	3416	299	157	120.8
	令和４年度	2978	245	142	109.2
	４年間平均	3032	285	148	113.9
東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 入学定員：100 人(90 人)	令和元年度	1987	197	113	125.6
	令和２年度	1739	160	90	100.0
	令和３年度	1697	137	123	123.0
	令和４年度	1176	152	102	102.0
	４年間平均	1650	162	107	112.7
埼玉工業大学 工学部 情報システム学科 入学定員：150 人	令和元年度	2160	1307	299	199.3
	令和２年度	3602	494	177	118.0
	令和３年度	2396	581	183	122.0
	令和４年度	2309	1109	250	166.7
	４年間平均	2617	873	227	151.5

東京電機大学、東京都市大学の志願者数、合格者数は、一般選抜の合計

東京都市大学は、令和３年度より定員変更(90→100)

【資料９（本文Ｐ４）】

新学科を設置する学部の学生確保の状況

【情報学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報工学科 入学定員：170 人（155 人）	令和２年度	1622	455	156	100.7%
	令和３年度	1639	444	163	105.2%
	令和４年度	1455	539	194	114.1%
	令和５年度	1132	593	187	110.0%
	平　均	1462	507.8	175	107.5%

令和４年度より定員変更(155→170)

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報ネットワーク ・コミュニケーション学科 入学定員：110 人（100 人）	令和２年度	1216	340	110	110.0%
	令和３年度	1185	264	159	159.0%
	令和４年度	936	417	115	104.6%
	令和５年度	695	416	129	117.3%
	平　均	1008	359.3	128.3	122.7%

令和４年度より定員変更(100→110)

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報メディア学科 入学定員： 180 人（165 人）	令和２年度	1507	404	170	103.0%
	令和３年度	1456	341	170	103.0%
	令和４年度	1254	498	208	115.6%
	令和５年度	985	538	205	113.9%
	平　均	1300.5	445.3	188.3	108.9%

令和４年度より定員変更(165→180)

【資料 10（本文Ｐ４）】

既設学部・学科の学生確保の状況

【工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
機械工学科 入学定員：120 人	令和２年度	1336	619	140	116.7%
	令和３年度	1268	637	115	95.8%
	令和４年度	1099	771	132	110.0%
	令和５年度	867	795	100	83.3%
電気電子情報工学科 入学定員：78 人	令和２年度	928	416	88	112.8%
	令和３年度	815	409	103	132.1%
	令和４年度	732	507	98	125.6%
	令和５年度	586	552	86	110.3%
応用化学科 入学定員：60 人	令和２年度	646	374	60	100.0%
	令和３年度	490	355	51	85.0%
	令和４年度	463	386	49	81.7%
	令和５年度	366	348	35	58.3%

【創造工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
自動車システム開発工学科 入学定員：55 人	令和２年度	590	263	59	107.3%
	令和３年度	464	285	50	90.9%
	令和４年度	350	254	36	65.5%
	令和５年度	240	215	30	54.6%
ロボット・メカトロニクス学科 入学定員：50 人	令和２年度	619	287	67	114.0%
	令和３年度	536	257	42	84.0%
	令和４年度	383	281	46	92.0%
	令和５年度	264	241	34	68.0%
ホームエレクトロニクス開発学科 入学定員：40 人	令和２年度	464	163	46	130.0%
	令和３年度	337	215	43	107.5%
	令和４年度	263	211	40	100.0%
	令和５年度	202	189	45	112.5%

【応用バイオ科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
応用バイオ科学科 入学定員：125 人	令和２年度	1182	788	124	99.2%
	令和３年度	902	712	89	71.2%
	令和４年度	803	700	71	56.8%
	令和５年度	661	633	84	67.2%

【健康医療科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
看護学科 入学定員：80 人	令和２年度	431	250	82	102.5%
	令和３年度	362	207	78	97.5%
	令和４年度	329	222	79	98.5%
	令和５年度	282	242	79	98.8%
管理栄養学科 入学定員：40 人（80 人）	令和２年度	283	202	53	66.3%
	令和３年度	193	153	43	53.8%
	令和４年度	178	138	47	117.5%
	令和５年度	143	114	53	132.5%
臨床工学科 入学定員：40 人	令和２年度	310	161	35	87.5%
	令和３年度	257	172	42	105.0%
	令和４年度	190	155	36	90.0%
	令和５年度	151	134	31	77.5%

管理栄養学科は令和４年度より定員変更(80→40)

【資料11（本文Ｐ５）】

高等学校訪問の具体的計画について

訪問時期：４月から３月

実施体制：企画入学課職員ほか、東日本地区における業務委託２０名による
スタッフで実施

訪問エリア：北海道、青森、秋田、宮城、福島、山形、栃木、群馬、茨城、
千葉、東京、神奈川、新潟、静岡、宮崎、沖縄

訪問学校数：実績校を対象に延べ５，０００件程度（２０２２年度実績５，２９３件）

【資料12（本文Ｐ６）】

オープンキャンパスの具体的計画について

１．対面方式オープンキャンパス

実施日程：①２０２３年3月２６日（日）
②２０２３年6月１１日（日）
③２０２３年7月３０日（日）
④※２０２３年8月２７日（日）

収容定員：最大で各回２０００名

２．オンデマンド式（ＷＥＢ）オープンキャンパス

開始日程：２０２３年3月２５日（土）

補足事項：対面方式オープンキャンパスへの参加を促す目的で制作する。

３．キャンパス大見学会（ミニオープンキャンパス）

開始日程：２０２３年5月下旬と１１月中旬頃で各１回の実施を想定

補足事項：出願動向などを鑑みて、年間計画とせずに臨時イベントとして、個別判断により実施する。

4．個別対応による大学見学

実施日程：適宜、個別ニーズにより実施する。

運営主体：企画入学課職員（状況により、学生スタッフに応援を要請）

※２０２２年度（１月末現在）は、４２組７６名に対応。

【資料13（本文Ｐ６）】

高等学校教員説明会（塾予備校含む）等の具体的計画について

５月中旬から下旬に例年は実施しており、２０２３年度についても同時期を予定しているが、現時点で詳細は未定である。

ただし、(1) 高等学校 (2) 塾予備校 (3) マスコミ関係に広く告知するべく準備を進めている。例年の実施日及び参加数は以下のとおり。

(1) 高等学校対象説明会

年度	実施日	参加校数
2022	6月2日	45
2021	5月28日	69
2020	中止	
2019	5月31日	104

(2) 塾予備校対象説明会

年度	実施日	参加校数
2022	6月2日	10
2021	5月28日	15
2020	中止	
2019	6月28日	22

(3) マスコミ懇談会

年度	実施日	参加者数
2022	未実施	
2021	12月22日	41
2020	中止	
2019	11月28日	37

【資料14（本文Ｐ６）】

進学相談会の具体的計画について

進学相談会については、全国各地で実施されているが、出願実績や在籍状況を勘案して参加をしており、３月からスタートしている。２０２２年度の参加については、以下のとおりであり、２０２３年度においても概ね前年度と同様の参加を予定している。

２０２２年度実績（２０２３年3月２８日現在）

高校内ガイダンス	５３８件
会場ガイダンス	１７９件
合　　計	７１７件

【資料 15（本文Ｐ６）】

新学科を設置する学部・学科の就職状況等

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報工学科	令和元年度	13,808	115	120.1	115	100.0%
	令和２年度	12,987	114	113.9	109	95.6%
	令和３年度	12,333	118	104.5	117	99.2%
	令和４年度	14,227	117	121.6	112	95.7%
	平均	13,339	116.0	115.0	113.3	97.6%

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報ネットワーク ・コミュニケーシ ョン学科	令和元年度	13,618	90	151.3	90	100.0%
	令和２年度	12,792	77	166.1	74	96.1%
	令和３年度	12,163	76	160.0	73	96.1%
	令和４年度	14,106	99	142.5	96	97.0%
	平均	13,170	85.5	154.0	83.3	97.4%

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報メディア学科	令和元年度	13,554	137	98.9	131	95.6%
	令和２年度	12,713	106	119.9	99	93.4%
	令和３年度	12,087	114	106.0	106	93.0%
	令和４年度	14,003	132	106.1	117	88.6%
	平均	13,089	122.3	107.1	113.3	92.6%

【資料 16（本文Ｐ７）】

人材需要等調査　－抜粋―

◇人材の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 101 件の約 86.1%にあたる 87 件が「増加すると思う」と回答している。

問２　人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	87	86.1
2	増加すると思わない	13	12.9
	未回答・不明	1	1.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 101 件の約 99.0%にあたる 100 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問３　神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	100	99.0
2	必要性を感じない	1	1.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 101 件の全てが「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問４　神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	採用したいと思う	101	100.0
2	採用したいと思わない	0	0.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用人数

問４で、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「１人」と回答したのは 8 件、「２人」と回答したのは 15 件、「３人以上」と回答したのは 23 件、「人数は未定」と回答したのは 55 件となっている。

なお、「採用人数３人以上」と回答した採用人数を「３人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「１人」として採用人数を合計すると 162 人となり、これらの採用人数からも神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような、神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の企業等に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問５　神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	１人	8	7.9
2	２人	15	14.9
3	３人以上	23	22.8
4	人数は未定	55	54.5
	未回答・不明	0	0.00
	合計	101	100.0

問４×問５　卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1*1	採用したいと思う×採用人数１人	8	8
1*2	採用したいと思う×採用人数２人	15	30
1*3	採用したいと思う×採用人数３人以上	23	69
1*4	採用したいと思う×採用人数数は未定	55	55
	合計	101	162

SHIMADZU
Excellence in Science

神奈川工科大学
応用化学生物学科（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書

令和５年３月

株式会社 島津理化

Copyright(C) 2019 SHIMADZU RIKA CORPORATION All Rights Reserved.

目　　次

Ⅰ．進学需要調査（集計結果）

調査対象等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
調査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２～６
進学全般に関する質問事項
高等学校卒業後の進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
進学を希望する分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３
神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項
神奈川工科大学の応用化学生物学科への興味・関心・・・・・・・・・・・・ ４
神奈川工科大学の応用化学生物学科の受験希望・・・・・・・・・・・・・・ ５
神奈川工科大学の応用化学生物学科への入学希望・・・・・・・・・・・・・ ６

Ⅱ．人材需要調査（集計結果）

調査対象等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７
調査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８～12
調査対象に関する質問事項
所在地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８
人材需要全般に関する質問事項
人材の採用見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項
神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材の必要性・・・・・・・ 10
神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用・・・・・・・・ 11
神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用人数・・・・・・ 12

Ⅲ．参考資料

進学需要調査関係
アンケート協力依頼高等学校一覧
アンケート調査票（高校生）
設置計画の概要
人材需要調査関係
アンケート協力依頼企業等一覧
アンケート調査票（企業等）
設置計画の概要

Ⅰ．進学需要調査（集計結果）

Ⅰ．進学需要調査（集計結果）

【調査対象等】

神奈川工科大学では、令和６年４月より応用化学生物学科（仮称）の設置を計画しており、この応用化学生物学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

受験実績や進学実績がある高等学校

神奈川県	38 校
東京都	6 校
静岡県	1 校
福島県	1 校

回答者数：6,127 人

②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

③調査実施

令和 4 年 10 月～令和 5 年 1 月

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜進学全般に関する質問事項＞

１．高等学校卒業後の進路

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数 6,127 人の約 89.3%にあたる 5,472 人が「大学進学（４年制・６年制)」「短期大学進学」「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学」と回答している者は、回答者数 6,127 人の約 70.5%にあたる 4,321 人となっている。

問１　高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学進学（４年制・６年制）	4,321	70.5
2	短期大学進学	136	2.2
3	専門学校進学	1,015	16.6
4	就職	572	9.3
5	その他	73	1.2
	未回答・不明	10	0.2
	合計	6,127	100.0

【調査結果概要】

＜進学全般に関する質問事項＞

２．進学を希望する分野

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第１希望においては「工学・理学関係」と回答した者が回答者数 6,127 人の約 22.9%にあたる 1,402 人で最も多く、次いで「経済学・経営学関係」と回答した者が約 11.4%にあたる 698 人、「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約 10.2%にあたる 626 人となっている。

問２　進学を希望する分野

No.	カテゴリ	第１希望		第２希望	
		件数／人	全体／%	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学関係	626	10.2	549	9.0
2	教育学・保育学関係	433	7.1	600	9.8
3	法学・政治学関係	168	2.7	321	5.2
4	社会学・福祉学関係	186	3.0	349	5.7
5	経済学・経営学関係	698	11.4	703	11.5
6	工学・理学関係	1,402	22.9	403	6.6
7	医学・歯学・薬学関係	217	3.5	442	7.2
8	食物学・栄養学関係	333	5.4	403	6.6
9	家政学・生活科学関係	54	0.9	189	3.1
10	美術学・音楽学関係	285	4.7	427	7.0
11	健康学・スポーツ学関係	363	5.9	502	8.2
12	医療技術学関係	167	2.7	294	4.8
13	看護学関係	362	5.9	175	2.9
14	その他	708	11.6	298	4.9
	未回答・不明	125	2.0	472	7.7
	合計	6,127	100.0	6,127	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

３．神奈川工科大学の応用化学生物学科への興味・関心

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、神奈川工科大学の応用化学生物学科への興味・関心について質問したところ、回答者数 6,127 人の約 17.3%にあたる 1,061 人が「興味・関心がある」と回答しており、神奈川工科大学の応用化学生物学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問３　神奈川工科大学の応用化学生物学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	1,061	17.3
2	興味・関心がない	5,040	82.3
	未回答・不明	26	0.4
	合計	6,127	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

４．神奈川工科大学の応用化学生物学科の受験希望

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、神奈川工科大学の応用化学生物学科が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 6,127 人の約 8.1%にあたる 497 人が「受験を希望する」と回答しており、神奈川工科大学の応用化学生物学科への受験に積極的な意向を示している。

問４　神奈川工科大学の応用化学生物学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	497	8.1
2	受験を希望しない	5,394	88.0
	未回答・不明	236	3.9
	合計	6,127	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

５．神奈川工科大学の応用化学生物学科への入学希望

問４で神奈川工科大学の応用化学生物学科の「受験を希望する」と回答した高等学校の２年生に、神奈川工科大学の応用化学生物学科に合格した場合の入学希望について質問したところ、回答者数 497 人の約 60.6%にあたる 301 人が「入学を希望する」と回答している。

なお、問１で高等学校卒業後の進路を「大学進学（４年制・６年制)」と回答し、問２で進学する分野の第１希望を「工学・理学関係」と回答した者で、かつ問３で神奈川工科大学の応用化学生物学科への「興味・関心がある」と回答し、問４で神奈川工科大学の応用化学生物学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、神奈川工科大学の応用化学生物学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した者は 151 人となっている。

このような神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の２年生に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の応用化学生物学科への入学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問５　神奈川工科大学の応用化学生物学科への入学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学を希望する	301	60.6
2	併願先の結果によって入学する	161	32.4
3	入学を希望しない	30	6.0
	未回答・不明	5	1.0
	合計	497	100.0

問１×問２×問３×問４×問５　応用化学生物学科への入学希望 －クロス集計－

No.	問１ × 問２ × 問３ × 問４ × 問５	件数／人
－	「1」×「6」×「1」×「1」×「1」	151

Ⅱ．人材需要調査（集計結果）

Ⅱ．人材需要調査（集計結果）

【調査対象等】

神奈川工科大学では、令和６年４月より応用化学生物学科（仮称）の設置を計画しており、この応用化学生物学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等

②調査方法

企業等への郵送による配布、回収

③調査実施

令和 4 年 10 月

④調査件数

回答件数：145 件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象に関する質問事項＞

１．所在地

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、所在地について質問したところ、回答件数 145 件の約 54.5%にあたる 79 件が「東京都」と回答しており、約 26.2%にあたる 38 件が「神奈川県」と回答している。

問１　所在地

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
１	神奈川県	38	26.2
２	東京都	79	54.5
３	埼玉県	3	2.1
４	その他	23	15.9
	未回答・不明	2	1.4
	合計	145	100.0

【調査結果概要】

＜人材需要全般に関する質問事項＞

２．人材の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 145 件の約 70.3%にあたる 102 件が「増加すると思う」と回答している。

問２　人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	102	70.3
2	増加すると思わない	43	29.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	145	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

３．神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 145 件の約 93.1%にあたる 135 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問３　神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	135	93.1
2	必要性を感じない	10	6.9
	未回答・不明	0	0.0
	合計	145	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

４．神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 145 件の約 89.0%にあたる 129 件が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問４　神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	採用したいと思う	129	89.0
2	採用したいと思わない	16	11.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	145	100.0

【調査結果概要】

＜神奈川工科大学の応用化学生物学科に関する質問事項＞

５．神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用人数

問４で、神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「１人」と回答したのは 18 件、「２人」と回答したのは 10 件、「３人以上」と回答したのは 8 件、「人数は未定」と回答したのは 93 件となっている。

なお、「採用人数３人以上」と回答した採用人数を「３人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「１人」として採用人数を合計すると 155 人となり、これらの採用人数からも神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような、神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の企業等に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問５　神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	１人	18	14.0
2	２人	10	7.8
3	３人以上	8	6.2
4	人数は未定	93	72.1
	未回答・不明	0	0.00
	合計	129	100.0

問４×問５　卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1*1	採用したいと思う×採用人数１人	18	18
1*2	採用したいと思う×採用人数２人	10	20
1*3	採用したいと思う×採用人数３人以上	8	24
1*4	採用したいと思う×採用人数数は未定	93	93
	合計	129	155

Ⅲ. 参 考 資 料

進学需要調査関係

進学需要調査 調査依頼先一覧（46 件）

No.	高　等　学　校	所　　在　　地	回収数
1	光明学園相模原高等学校	神奈川県相模原市南区当麻	28
2	横浜商科大学高等学校	神奈川県横浜市旭区白根	70
3	横浜隼人高等学校	神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南	62
4	鵠沼高等学校	神奈川県藤沢市鵠沼藤が谷	59
5	神奈川総合産業高等学校	神奈川県相模原市南区文京	208
6	相模田名高等学校	神奈川県相模原市中央区田名	85
7	三浦学苑高等学校	神奈川県横須賀市衣笠栄町	80
8	横浜高等学校	神奈川県横浜市金沢区能見台通	150
9	藤嶺学園藤沢高等学校	神奈川県藤沢市西富	63
10	湘南学院高等学校	神奈川県横須賀市佐原	74
11	立花学園高等学校	神奈川県足柄上郡松田町松田惣領	75
12	向上高等学校	神奈川県伊勢原市見附島	65
13	平塚学園高等学校	神奈川県平塚市高浜台	80
14	相洋高等学校	神奈川県小田原市城山	82
15	横須賀大津高等学校	神奈川県横須賀市大津町	243
16	相模原弥栄高等学校	神奈川県相模原市中央区弥栄	89
17	横浜清風高等学校	神奈川県横浜市保土ケ谷区岩井町	71
18	上溝高等学校	神奈川県相模原市中央区上溝	216
19	山北高等学校	神奈川県足柄上郡山北町向原	142
20	横浜緑園高等学校	神奈川県横浜市泉区岡津町	149
21	新栄高等学校	神奈川県横浜市都筑区新栄町	166
22	向の岡工業高等学校	神奈川県川崎市多摩区堰	160
23	相模女子大学高等部	神奈川県相模原市南区文京	92
24	麻生高等学校	神奈川県川崎市麻生区金程	276
25	川崎工科高等学校	神奈川県川崎市中原区上平間	180
26	麻溝台高等学校	神奈川県相模原市南区北里	326
27	城山高等学校	神奈川県相模原市緑区城山	260
28	上溝南高等学校	神奈川県相模原市中央区上溝	77
29	川崎北高等学校	神奈川県川崎市宮前区有馬	262
30	新城高等学校	神奈川県川崎市中原区下新城	262
31	秦野曽屋高等学校	神奈川県秦野市曽屋	74
32	港北高等学校	神奈川県横浜市港北区大倉山	302
33	厚木北高等学校	神奈川県厚木市下荻野	220
34	伊勢原高等学校	神奈川県伊勢原市田中	215
35	横浜創英高等学校	神奈川県横浜市神奈川区西大口	254
36	松陽高等学校	神奈川県横浜市泉区和泉町	35
37	愛川高等学校	神奈川県愛甲郡愛川町三増	187
38	武相高等学校	神奈川県横浜市港北区仲手原	29
39	豊南高等学校	東京都豊島区高松	68
40	日本体育大学荏原高等学校	東京都大田区池上	125

No.	高　等　学　校	所　　在　　地	回収数
41	大森学園高等学校	東京都大田区大森西	45
42	東京実業高等学校	東京都大田区西蒲田	74
43	桜町高等学校	東京都世田谷区用賀	60
44	総合工科高等学校	東京都世田谷区成城	62
45	加藤学園高等学校	静岡県沼津市大岡	79
46	磐城農業高等学校	福島県いわき市植田町小名田	146
		総　回　収　数	6127

神奈川工科大学 工学部 応用化学生物学科（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査（高校生／２年生）

神奈川工科大学では、教育研究体制のより一層の充実に向けて、既設の工学部の応用化学科と応用バイオ科学部を発展的に改組し、既設の工学部に応用化学生物学科の設置を検討しております。
このアンケート調査は、高校生の皆さんに、高等学校卒業後の進路等についてお聞きし、応用化学生物学科の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。
なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。
回答は、別紙の『神奈川工科大学 工学部 応用化学生物学科（仮称）設置計画の概要』をご覧いただいたうえで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問１　あなたは、高校卒業後、どのような進路をお考えですか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1　大学進学（４年制・６年制）
2　短期大学進学
3　専門学校進学
4　就職
5　その他（具体的に　　）

問２　あなたが、高校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望されますか。
次の中から、第２希望まで選んで、回答欄に番号を記入してください。

1　文学・史学・哲学関係
2　教育学・保育学関係
3　法学・政治学関係
4　社会学・福祉学関係
5　経済学・経営学関係
6　工学・理学関係
7　医学・歯学・薬学関係
8　食物学・栄養学関係
9　家政学・生活科学関係
10　美術学・音楽学関係
11　健康学・スポーツ学関係
12　医療技術学関係
13　看護学関係
14　その他（具体的に　　）

第１希望
第２希望

問３　あなたは、神奈川工科大学が設置を計画している応用化学生物学科に興味・関心がありますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1　興味・関心がある
2　興味・関心がない

問４　あなたは、神奈川工科大学に応用化学生物学科が設置された場合、受験（総合型選抜・学校推薦型選抜・一般入試・共通テストを含む）を希望しますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1　受験を希望する
2　受験を希望しない

＜問５は、問４で、「１」の番号を記入された方のみ、お答えください＞

問５　あなたは、神奈川工科大学の応用化学生物学科に合格した場合、入学を希望されますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1　入学を希望する
2　併願先の結果によって入学する
3　入学を希望しない

これで、アンケートは終わりです。
ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

神奈川工科大学　工学部
応用化学生物学科（仮称）　設置計画の概要

□学科概要　※設置学科、学生定員、開設時期、設置場所については予定です。

＊設置学科：応用化学生物学科　※４年制
＊学生定員：入学定員１４５名／収容定員５８０名
＊開設時期：令和６年４月
＊設置場所：神奈川県厚木市下荻野１０３０
＊アクセス：小田急線「本厚木駅」からバスで約２５分

□教育研究上の目的

＊応用化学生物学科では、応用化学分野及び応用バイオ分野、生命科学分野に関する教育研究を通して、化学と生物学に関する基礎知識の習得のもと、人間に役に立つ技術を開発するための応用的な知識と技術を涵養することで、産業社会の持続的な発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

□養成する人材像

＊応用化学生物学科では、化学と生物学の基礎理論の研究により解明された物質や生物の特性や機能を活かして、産業社会に役立つものを創り出すことができる幅広い職業人を養成します。

□習得する知識・能力

＊応用化学生物学科では、化学と生物学に関する基礎的な理論と知識を習得したうえで、物質や生物の原理や法則の知識を物質開発や生体機能に活用するための技術と方法を身に付けます。

□取得可能な資格

＊高等学校教諭一種免許状（工業）、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）
※教員免許状の取得は、卒業要件に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要となります。

□卒業後の進路

＊卒業後の進路としては、化学工業・薬品製造・食品工業をはじめとする研究・開発部門などに所属して、新たな物質や生物の新品種の研究や開発などの業務に携わることが想定されます。

□学費　※初年度納付金

＊神奈川工科大学の学費

・神奈川工科大学

工学部　応用化学生物学科	1,618,000 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,418,000 円）

＊私立大学の類似学科の学費（参考）

・東海大学

工学部　応用化学科	1,613,200 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,413,200 円）
工学部　生物工学科	1,613,200 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,413,200 円）

・東京工科大学

工学部　応用化学科	1,649,300 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,399,300 円）
応用生物学部　応用生物学科	1,649,300 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,399,300 円）

・工学院大学

先進工学部　応用化学科	1,701,160 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,451,160 円）
先進工学部　生命科学科	1,701,160 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,451,160 円）

人材需要調査関係

人材需要調査 調査依頼先一覧（300 件）

No.	企　業　等　名　称	No.	企　業　等　名　称
1	ＡＧＣセイミケミカル株式会社	40	サノフィ株式会社
2	ＡＳＴＩ株式会社	41	サンワコムシスエンジニアリング株式会社
3	ＤＩＣ株式会社	42	ジーエルサイエンス株式会社
4	Ｊ＆Ｔ環境株式会社	43	ジェイフィルム株式会社
5	J-POWERｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝｻｰﾋﾞｽ株式会社	44	ダイキンエアテクノ株式会社
6	ＭＨＩプラントエンジニアリング株式会社	45	ダイニック株式会社
7	ＮＥＣネッツエスアイ株式会社	46	ダウ･ケミカル日本株式会社
8	ＮＯＫ株式会社	47	デリカフーズ株式会社
9	ＴＤＫラムダ株式会社	48	デンカ株式会社
10	ＴＤＫ株式会社	49	トーイン株式会社
11	ＹＫＫ株式会社	50	トオカツフーズ株式会社
12	アース環境サービス株式会社	51	トッパン・フォームズ東海株式会社
13	アキレス株式会社	52	ナミックス株式会社
14	アロン化成株式会社	53	ニチアスウレタン株式会社
15	アンテスグループ	54	ニチアス株式会社
16	アンデルセングループ	55	ニチレキ株式会社
17	イカリ消毒株式会社	56	ニッタン株式会社
18	イチカワ株式会社	57	日本ペットフード株式会社
19	イニシオフーズ株式会社	58	ノバルティスファーマ株式会社
20	イリソ電子工業株式会社	59	パレス化学株式会社
21	イワタボルト株式会社	60	ファンケルグループ
22	エア・ウォーター・ゾル株式会社	61	フジフーズ株式会社
23	エヌジーケイ・フィルテック株式会社	62	プライムデリカ株式会社
24	エノテカ株式会社	63	プリマハム株式会社
25	エフエムジー＆ミッション株式会社	64	ぺんてる株式会社
26	エムケーチーズ株式会社	65	マッハコーポレーション株式会社
27	エリエールペーパー株式会社	66	ミヨシ油脂株式会社
28	カネ美食品株式会社	67	メルスモン製薬株式会社
29	株式会社渡辺オイスター研究所	68	ラピスセミコンダクタ株式会社
30	キーパー株式会社	69	リンテック株式会社
31	キッコーマンソイフーズ株式会社	70	レイズネクスト株式会社
32	キョーラク株式会社	71	ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
33	クアーズテック株式会社	72	ロゼット株式会社
34	クボタ環境エンジニアリング株式会社	73	ロンシール工業株式会社
35	クミアイ化学工業株式会社	74	わかもと製薬株式会社
36	クミ化成株式会社	75	わらべや日洋株式会社
37	コイト電工株式会社	76	わらべや日洋食品株式会社
38	コージンバイオ株式会社	77	伊藤製パン株式会社
39	コスモ石油株式会社	78	荏原商事株式会社

No.	企　業　等　名　称	No.	企　業　等　名　称
79	荏原冷熱システム株式会社	118	株式会社ソノコム
80	越後製菓株式会社	119	株式会社ダイキンアプライドシステムズ
81	横浜ゴム株式会社	120	株式会社タケエイ
82	横浜森永乳業株式会社	121	株式会社タムラ製作所
83	横浜油脂工業株式会社	122	株式会社タムロン
84	王子コンテナー株式会社	123	株式会社ディーエイチシー
85	株式会社ＡＤＥＫＡ	124	株式会社テクノ菱和
86	株式会社ＨＥＸＥＬ　Ｗｏｒｋｓ	125	株式会社デリカシェフ
87	株式会社ＩＨＩプラント	126	株式会社トーモク
88	株式会社ＩＨＩ環境エンジニアリング	127	株式会社トップ
89	株式会社Ｊ－ＰＯＷＥＲハイテック	128	株式会社ドトールコーヒー
90	株式会社アート１	129	株式会社ニチベイ
91	株式会社アプリス	130	株式会社ニックス
92	株式会社イクヨ	131	株式会社ニッセーデリカ
93	株式会社ウエキコーポレーション	132	株式会社ニップン
94	株式会社エイヴイ	133	株式会社ニフコ
95	株式会社エー・アンド・デイ	134	株式会社にんべん
96	株式会社エクシオテック	135	株式会社ノダ
97	株式会社エコー	136	株式会社パーマケム・アジア
98	株式会社エフピコ	137	株式会社パイロットコーポレーション
99	株式会社オオスミ	138	株式会社フォーム化成
100	株式会社カンドー	139	株式会社フコク
101	株式会社キャプティ	140	株式会社プライムベーカリー
102	株式会社クリタス	141	株式会社ホギメディカル
103	株式会社ゴードー	142	株式会社ミヤザワ
104	株式会社コバヤシ	143	株式会社メイコー
105	株式会社サラダクラブ　中河原工場	144	株式会社ヤマザキ
106	株式会社サンテック	145	株式会社ヤマデン
107	株式会社サンデリカ	146	株式会社ヤマト
108	株式会社ｻﾝｺﾃｸﾉｽﾌﾟﾗﾝﾄｴﾝｼﾞﾆｱｽﾞ	147	株式会社ユカ
109	株式会社シー・アイ・シー	148	株式会社井上香料製造所
110	株式会社ジーシー	149	株式会社磯村
111	株式会社シード	150	株式会社花正
112	株式会社シーボン	151	株式会社環境技研
113	株式会社シグマ	152	株式会社紀文食品
114	株式会社シマセイ	153	株式会社吉野工業所
115	株式会社スリーボンド	154	株式会社協和日成
116	株式会社セイシン企業	155	株式会社銀座コージーコーナー
117	株式会社ゼストクック	156	株式会社栗原医療器械店

No.	企　業　等　名　称	No.	企　業　等　名　称
157	株式会社弘電社	196	玉川電器株式会社
158	株式会社江田商会	197	月島環境エンジニアリング株式会社
159	株式会社江東微生物研究所	198	古林紙工株式会社
160	株式会社三技協	199	高梨乳業株式会社
161	株式会社三興	200	三愛オブリ株式会社
162	株式会社三徳	201	三井金属アクト株式会社
163	株式会社山本製作所	202	三機工業株式会社
164	株式会社寺岡製作所	203	三興コントロール株式会社
165	株式会社神戸屋	204	三光ライト工業株式会社
166	株式会社水機テクノス	205	三菱アルミニウム株式会社
167	株式会社星医療酸器	206	三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
168	株式会社西原衛生工業所	207	三菱マテリアルテクノ株式会社
169	株式会社大昌電子	208	三菱化工機アドバンス株式会社
170	株式会社中村屋	209	三友プラントサービス株式会社
171	株式会社渡商会	210	山下ゴム株式会社
172	株式会社東京めいらく	211	山下マテリアル株式会社
173	株式会社日本ファインケム	212	山下電気株式会社
174	株式会社日本色材工業研究所	213	山九プラントテクノ株式会社
175	株式会社日立ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ	214	山崎製パン株式会社
176	株式会社日立プラントサービス	215	児玉化学工業株式会社
177	株式会社巴商会	216	小島化学薬品株式会社
178	株式会社白子	217	昭和アステック株式会社
179	株式会社八重椿本舗	218	昭和電工ガスプロダクツ株式会社
180	株式会社武蔵野	219	昭和電線ホールディングス株式会社
181	株式会社文明堂東京	220	新生テクノス株式会社
182	株式会社明治ゴム化成	221	新電元工業株式会社
183	株式会社木村屋總本店	222	新日本空調株式会社
184	株式会社鈴廣蒲鉾本店	223	森六ホールディングス株式会社
185	株式会社和光ケミカル	224	水ｉｎｇ株式会社
186	関東化学株式会社	225	千代田化工建設株式会社
187	丸善食品工業株式会社	226	川口薬品株式会社
188	丸富製紙株式会社	227	川上産業株式会社
189	吉野石膏株式会社	228	泉工医科工業株式会社
190	共同印刷株式会社	229	双信電機株式会社
191	共同薬品株式会社	230	相互薬工株式会社
192	共和レザー株式会社	231	相田化学工業株式会社
193	興亜硝子株式会社	232	相模ゴム工業株式会社
194	興国インテック株式会社	233	村樫石灰工業株式会社
195	極東製薬工業株式会社	234	多摩化学工業株式会社

No.	企　業　等　名　称	No.	企　業　等　名　称
235	太平洋製糖株式会社	268	東罐興業株式会社
236	太陽電業株式会社	269	南部化成株式会社
237	大宮化成株式会社	270	日揮株式会社
238	大森クローム工業株式会社	271	日弘ビックス株式会社
239	大成温調株式会社	272	日東ベスト株式会社
240	大東カカオ株式会社	273	日比谷総合設備株式会社
241	第一屋製パン株式会社	274	日本エアフィルター株式会社
242	第一電子工業株式会社	275	日本クッカリー株式会社
243	中谷産業株式会社	276	日本ケミコン株式会社
244	長田電機工業株式会社	277	日本トーカンパッケージ株式会社
245	津田化学合成株式会社	278	日本ドライケミカル株式会社
246	津田工業株式会社	279	日本マタイ株式会社
247	田島ルーフィング株式会社	280	日本モレックス合同会社
248	東ソー株式会社	281	日本リーテック株式会社
249	東レフィルム加工株式会社	282	日本化工塗料株式会社
250	東横化学株式会社	283	日本瓦斯株式会社
251	東海ファインカーボン株式会社	284	日本試験検査株式会社
252	東海産業株式会社	285	日本製紙クレシア株式会社
253	東京インキ株式会社	286	日本電技株式会社
254	東京ガスエコモ株式会社	287	日本電産コパル株式会社
255	東京ガス横浜中央エネルギー株式会社	288	日本電波工業株式会社
256	東京応化工業株式会社	289	富士レビオ株式会社
257	東京電設サービス株式会社	290	富士化工株式会社
258	東京窯業株式会社	291	富士製薬工業株式会社
259	東京冷機工業株式会社	292	米屋株式会社
260	東光電気工事株式会社	293	米久株式会社
261	東芝プラントシステム株式会社	294	宝醤油株式会社
262	東西化学産業株式会社	295	北日本石油株式会社
263	東邦化学工業株式会社	296	北陸電気工事株式会社
264	東邦電気工業株式会社	297	野村マイクロ・サイエンス株式会社
265	東洋合成工業株式会社	298	矢崎化工株式会社
266	東洋熱工業株式会社	299	有機合成薬品工業株式会社
267	東亜合成株式会社　横浜工場	300	昱株式会社

神奈川工科大学 工学部 応用化学生物学科（仮称）
人材需要等に関するアンケート調査

神奈川工科大学では、教育研究体制のより一層の充実に向けて、既設の工学部の応用化学科と応用バイオ科学部を発展的に改組し、既設の工学部に応用化学生物学科（仮称）の設置を検討しております。

このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、応用化学生物学科（仮称）の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはございません。

回答は、別紙の『神奈川工科大学 工学部 応用化学生物学科（仮称） 設置計画の概要』をご覧いただいたうえで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問１　貴機関・貴社の所在地について、お尋ねいたします。

１　神奈川県　　３　埼玉県
２　東京都　　４　その他（具体的に：　　）

問２　今後の貴機関・貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

１　増加すると思う
２　増加すると思わない

問３　神奈川工科大学の応用化学生物学科で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

１　必要性を感じる
２　必要性を感じない

問４　神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

１　採用したいと思う
２　採用したいと思わない

＜問５は、問４で「１」と回答された方のみ、お答えください＞

問５　神奈川工科大学の応用化学生物学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。
次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

１　１人　　３　３人以上
２　２人　　４　人数は未定

これで、アンケートは終わりです。
ご多忙中、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

神奈川工科大学　工学部
応用化学生物学科（仮称）　設置計画の概要

□学科概要　※設置学科、学生定員、開設時期、設置場所については予定です。

＊設置学科：応用化学生物学科　※４年制
＊学生定員：入学定員１４５名／収容定員５８０名
＊開設時期：令和６年４月
＊設置場所：神奈川県厚木市下荻野１０３０
＊アクセス：小田急線「本厚木駅」からバスで約２５分

□教育研究上の目的

＊応用化学生物学科では、応用化学分野及び応用バイオ分野、生命科学分野に関する教育研究を通して、化学と生物学に関する基礎知識の習得のもと、人間に役に立つ技術を開発するための応用的な知識と技術を涵養することで、産業社会の持続的な発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

□養成する人材像

＊応用化学生物学科では、化学と生物学の基礎理論の研究により解明された物質や生物の特性や機能を活かして、産業社会に役立つものを創り出すことができる幅広い職業人を養成します。

□習得する知識・能力

＊応用化学生物学科では、化学と生物学に関する基礎的な理論と知識を習得したうえで、物質や生物の原理や法則の知識を物質開発や生体機能に活用するための技術と方法を身に付けます。

□取得可能な資格

＊高等学校教諭一種免許状（工業）、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）
※教員免許状の取得は、卒業要件に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要となります。

□卒業後の進路

＊卒業後の進路としては、化学工業・薬品製造・食品工業をはじめとする研究・開発部門などに所属して、新たな物質や生物の新品種の研究や開発などの業務に携わることが想定されます。

□学費　※初年度納付金

＊神奈川工科大学の学費

・神奈川工科大学

工学部　応用化学生物学科	1,618,000 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,418,000 円）

＊私立大学の類似学科の学費（参考）

・東海大学

工学部　応用化学科	1,613,200 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,413,200 円）
工学部　生物工学科	1,613,200 円	（入学金 200,000 円	授業料等 1,413,200 円）

・東京工科大学

工学部　応用化学科	1,649,300 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,399,300 円）
応用生物学部　応用生物学科	1,649,300 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,399,300 円）

・工学院大学

先進工学部　応用化学科	1,701,160 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,451,160 円）
先進工学部　生命科学科	1,701,160 円	（入学金 250,000 円	授業料等 1,451,160 円）